

## PRIMERGY N800

取扱説明書

# ごあいさつ



このたびは、弊社の PRIMERGY (プライマジー)N800 をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

PRIMERGY N800 は、優れたネットワーク・パフォーマンスを実現するため、高い処理能力、拡張性、信頼性を備えたサーバです。

本書は、PRIMERGY N800 の取り扱い方法や周辺装置との接続方法など、基本的なことがらを解説しています。

本書をご覧になり、PRIMERGY N800 を正しくお使いいただきますよう、お願いいたします。

2001 年 8 月

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

当社のドキュメントには「外国為替および外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

本装置は、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン業界基準 (PC-11-1988) に適合しております。

電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

（社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

#### 注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

本装置は、社団法人日本電子工業復興協会のパソコン業界基準 (PC-11-1988) に適合しております。

高調波ガイドライン適合品

IBM は、米国 International Business Machines Corporation の登録商標です。

EGA/VGA、PS/2 は、米国 IBM の米国での登録商標です。

Intel および Pentium は、米国インテル社の登録商標です。

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

その他の各製品は、各社の商標、登録商標または著作物です。

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

All Rights Reserved, Copyright © 富士通株式会社 2001

# 本書の読み方



本書は、PRIMERGY N800 の基本的な取り扱い方法を解説しています。本書で解説していない周辺装置の取り扱い方法については、各周辺装置に添付されている取扱説明書をご覧ください。

## 本書の構成

章	内容
第 1 章 本サーバについて	本サーバの特長、本サーバや代表的な周辺装置の役割など、基本的な知識を解説しています。 まず、最初にお読みください。
第 2 章 設置と接続	本サーバの設置方法と、代表的な周辺装置との接続方法を解説しています。本サーバを設置するときにお読みください。
第 3 章 基本的な操作	電源の入れ方や、フロッピディスクのセット方法など、本サーバを使うときの基本的な操作を解説しています。本サーバを初めて使うときにお読みください。
第 4 章 セットアップ	本サーバの各種セットアップユーティリティの設定方法などを解説しています。システムの拡張時に必要な情報を記載しています。必要に応じてお読みください。
第 5 章 内蔵オプションの取り付け	内蔵型のオプション製品の本サーバへの取り付け方を解説しています。内蔵オプションを取り付けるときにお読みください。
第 6 章 ソフトウェアのインストール	ソフトウェアをインストールする方法を解説しています。ソフトウェアをインストールする場合には、必ずお読みください。
第 7 章 日常のお手入れ	本サーバのお手入れのしかたを解説しています。 必要に応じてお読みください。
第 8 章 故障かな？と思ったときには	本サーバにトラブルが発生したとき、どうすればよいのかを解説しています。本サーバが思うように動かなかったり、画面にメッセージが表示されたりしたときにお読みください。
付録 A	本体仕様などを説明しています。 必要に応じてお読みください。
付録 B	本サーバのハードウェアの情報を記載するシートを記載しています。必ず記入してください。

# 安全にお使いいただくために



本書には、本サーバを安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。

本サーバをお使いになる前に、本書を熟読してください。特に、本書の「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解された上で本サーバをお使いください。

また、本書は、本サーバの使用中にいつでも参照できるよう大切に保管してください。

# 安全上のご注意

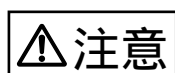


本装置およびそのオプション装置を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。

本書では、いろいろな絵表示をしています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解の上、お読みください。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使用しています。



△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容（左図の場合は感電注意）が示されています。



⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が示されています。



●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が示されています。

## 万一、異常が発生したとき



プラグ



- 万一、装置から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生した場合は、ただちに装置本体の電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が消えるのを確認して、担当営業員または担当保守員に修理をご依頼ください。お客様自身による修理は危険ですから絶対におやめください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 異物（水・金属片・液体など）が装置の内部に入った場合は、ただちに装置本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、担当営業員または担当保守員にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

## 本体の取り扱いについて



分解



- 装置を勝手に改造しないでください。火災・感電の原因となります。
- 装置本体のカバーや差し込み口についているカバーは、電池交換やオプション装置の取り付けなど、必要な場合を除いて取り外さないでください。内部の点検、修理は担当営業員または担当保守員にご依頼ください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。



禁 止



- ディスプレイに何も表示できないなど、故障状態で使用しないでください。故障の修理は担当営業員または担当保守員にご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電のおそれがあります。
- 開口部（通風孔など）から内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。故障・火災・感電の原因となります。
- 装置の上または近くに「花びん・植木鉢・コップ」などの水が入った容器、金属物を置かないでください。故障・火災・感電の原因となります。
- 殺虫剤などを使って害虫駆除を行う場合は、サーバ本体を停止し、ビニールなどで保護してください。
- 湿気・ほこり・油煙の多い場所、通気性の悪い場所、火気のある場所に置かないでください。故障・火災・感電の原因となります。

水 気



- 本体に水をかけないでください。故障・火災・感電の原因となります。
- 風呂場、シャワー室などの水場で使用しないでください。故障・火災・感電の原因となります。

プラグ



- 近くで雷が発生したときは、電源ケーブルやモジュラケーブルをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると故障・火災のおそれがあります。

禁 止



- 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。また、タコ足配線をしないでください。火災・感電の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源ケーブルを傷め、火災・感電の原因となります。
- 電源ケーブルや電源プラグが傷んだとき、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

指 示



電源プラグの電極、およびコンセントの差し込み口にほこりが付着している場合は、乾いた布でよく拭いてください。そのまま使用すると、火災の原因となります。

アース



アース接続が必要な装置は、電源を入れる前に、必ずアース接続をしてください。アース接続ができない場合は、担当営業員または担当保守員にご相談ください。万一漏電した場合に、火災・感電の原因となります。

取り外したカバー、キャップ、ネジなどは、小さなお子様が誤って飲むことがないように、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

禁 止



- 装置の開口部（通風孔など）をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
- 装置の上に重いものを置かないでください。また、衝撃を与えないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下したりしてけがの原因となります。
- 振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。
- AC アダプタを使用する装置の場合は、マニュアルに記載されていない AC アダプタは使用しないでください。また、AC アダプタの改造・分解はしないでください。火災・けがの原因となります。
- サービスコンセントがある装置の場合は、マニュアルに記載されていない装置をサービスコンセントに接続しないでください。火災・けがの原因となります。
- フロッピーディスク・IC カードなどの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となります。
- 電源プラグを抜くときは電源ケーブルを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。電源ケーブルを引っ張ると、電源ケーブルの芯線が露出したり断線したりして、火災・感電の原因となります。
- 携帯電話などを本体に近づけて使用しないでください。装置が正しく動かなくなります。

指 示



- 転倒防止足のある装置は必ず使用してください。振動による転倒でけがをするおそれがあります。
- 電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。火災・故障の原因となります。

プラグ



- 装置を移動する場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源ケーブルなども外してください。作業は足元に十分注意して行ってください。電源ケーブルが傷つき、火災・感電の原因となったり、装置が落ちたり倒れたりしてけがの原因となります。
- 長時間装置を使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となります。

指 示



- 健康のため、1時間ごとに10～15分の休憩をとり、目および手を休めてください。
- ディスプレイなど、重量のある装置を動かす場合は、必ず2人以上で行ってください。けがの原因となります。
- ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎないように注意してください。耳を刺激するような大きな音量を長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与える原因となります。

## オプションの取り扱いについて



感 電



オプション装置の取り付けや取り外しを行う場合は、装置本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電の原因となります。



禁 止



- 弊社推奨品以外の装置は接続しないでください。故障・火災・感電の原因となります。
- 本体に取り付けたモデムカードに、二股のモジュラプラグを接続している場合、空いている差し込み口に指などを入れないでください。感電の原因となります。

## ラックの取り扱いについて

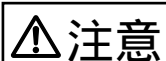


- ラックの開口部（通風孔など）をふさがないでください。  
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
- ディスプレイ装置を交換する場合には、必ず担当営業員または担当保守員にご連絡ください。  
ディスプレイが落下し、けがの原因となることがあります。
- マウステーブルを引き出す場合は、アームレストを確実にロックしてください。  
ロックをしない状態で引き出すと、マウステーブルに傷がつくおそれがあります。
- マウステーブルに肘を掛けしないでください。  
テーブルを破損するおそれがあります。
- キーボードテーブルを引き出した状態で、キーボードテーブルより下にある装置の操作を行う場合は、頭上のキーボードテーブルに十分注意をしてください。  
キーボードテーブルにぶつかり、けがの原因となることがあります。
- 汎用テーブルに装置を搭載した場合には、必ず添付のベルトを使用して装置を汎用テーブルに固定してください。
- 転倒防止用スタビライザは必ず使用してください。振動による転倒でけがをするおそれがあります。
- ラック設置後にラックを移動する場合は、必ず担当営業員または担当保守員にご連絡ください。  
不用意に移動すると、ラック / サーバ本体を損傷するおそれがあります。

## 電池の取り扱いについて



使用している電池を取り外した場合は、小さなお子様が電池を誤って飲むことがないように、小さなお子様の手が届かないところに置いてください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

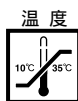
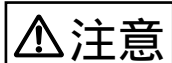


禁止



- マニュアルに記載されていない電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。
- 電池はショートさせたり、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れたりしないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。
- 乾電池は充電しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。

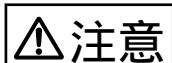
## 温湿度について



- 本装置は、周囲温度が 10 ～ 35 の環境を守ってご利用ください。  
特に 24 時間運転をする場合には空調のスケジュールなどを十分考慮し（夜間や休日など）、周囲温度をはずれた温度のもとで運用されることのないようにしてください。  
温度条件が守られないと、電子部品の誤動作や故障、寿命の短縮の原因となります。
  - 特に夏場において 24 時間運用を行う場合、必要に応じて夜間・休日にも冷房を入れて、周囲温度が 35 を超えないようにしてください。
  - 冬場など寒中での暖房時は、1 時間あたりの温度上昇が 15 を超さないように室温調整を行い、結露を発生させないようにしてください。

		室内温度 (°C)							備考
		10	15	20	25	30	35	40	
相対湿度 (%)	20	- 7	- 5	- 3	1	5	9	13	[ 見方 ] 温度 25°C で湿度 60% の場合、装置が 17°C 以下のとき、結露します。
	40	- 3	2	7	11	16	20	24	
	60	3	8	13	17	22	26	31	
	80	7	12	17	22	26	31	-	
	90	9	13	19	24	29	34	-	

## 腐食性ガスや塵埃について



- 腐食性ガスや塩風は、装置を腐食させ誤動作、破損および、装置寿命を著しく短くする原因となりますので、空気清浄装置を設置するなどの対策が必要となります。
- また、塵埃が多い場所についても、記憶媒体の破損、装置冷却の妨げなどにより、誤動作や装置寿命を著しく短くする原因となります。
- 腐食性ガスの発生源としては、化学工場地域、温泉 / 火山地帯などがあります。
  - 塩害地区の目安としては、海岸線から 500m 以内となります。

## 本装置を廃棄する時

本装置を廃棄する場合には、産業廃棄物として処理する必要があります。廃棄する場合には、必ず担当営業員または専門業者にご連絡ください。

# サーバの保守サービスについて



## サーバの保守サポート期間

保守サポート期間は、お客様の購入後 6 年間です。

## 定期交換部品

お客様の使用環境や使用時間により、サーバの一部の部品で保守サポート期間内に、交換が必要となる定期交換部品があります。

導入時より保守サービス契約を結ばれたお客様においては、交換費用（交換部品代及び、交換作業代）は、当該サービス契約料金にて優先的に交換いたします。

なお、保守サービス契約が未契約のお客様には、別途ご請求させていただきます。

### 定期交換部品の交換時期

定期交換部品の交換周期は、いずれも適切な使用環境下での運用を前提としています。

動作保証範囲は 10 ～ 35 ですが、交換時期は平均使用温度 25 での運用を想定しており、空調のある常温で使用してください。

### 定期交換部品

#### 電源ユニット

24 時間 / 日運転では約 3 年間を経過すると交換時期となります。

10 時間以内 / 日運転では保守サポート期間内に交換時期となりません。

本サーバには 3 個あり、交換が必要です。

#### 冷却ファン

24 時間 / 日運転では約 3 年間を経過すると交換時期となります。

10 時間以内 / 日運転では保守サポート期間内に交換時期となりません。

本サーバには 6 個あり、交換が必要です。

#### SCSI アレイコントローラカード（PG-142C）のバッテリー

電源の投入 / 切断時間にかかわらず約 2 年を経過すると交換時期となります。



### SCSI アレイコントローラカード ( PG-144B ) のバッテリー

電源の投入 / 切断時間にかかわらず約 1 年半を経過すると交換時期となります。

### 高機能無停電電源装置のバッテリー

電源の投入 / 切断時間にかかわらず約 2 年を経過すると交換時期となりますが、周囲温度により、バッテリー寿命が短縮されることがあります。

詳細につきましては、高機能無停電電源装置の取扱説明書をご覧ください。

### 定期交換部品の交換時期の表示

RAS 支援サービスをインストールすることで、部品の交換を促すメッセージをサーバのパネルやコンソールに表示させることができます。メッセージは、数ヶ月以内に交換を促す、およその目安を示しており、メッセージが表示されましたら保守サービス窓口にご連絡ください。

RAS 支援サービスについては、「6.7 RAS 支援サービスについて」( 217 ページ ) を参照してください。

PRIMERGY では、システムの安定稼動を目的に、保守サービス契約を結ばれることを推奨しております。

上記の定期交換部品のこともご勘案いただき、是非とも保守サービス契約を結ばれますようお願い申し上げます。

### 注意

定期交換部品の交換周期は周囲温度で変動します。

定期交換部品の交換周期は、サーバ本体の使用温度を年間平均温度 25℃ と想定してしております。したがって、年間平均温度が 25℃ を超えた環境で使用すると交換時期が早くなる場合があります。

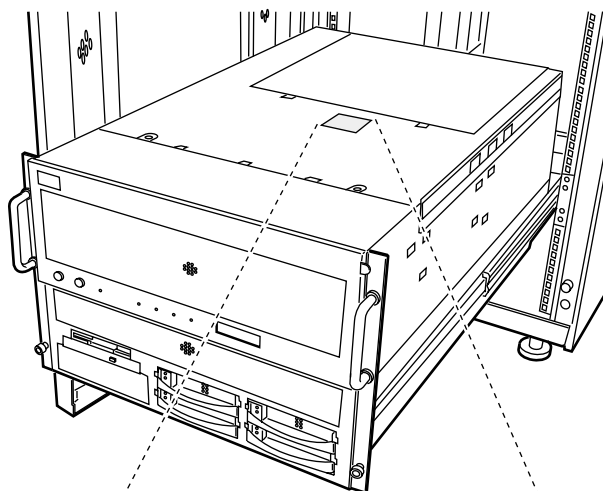
一般的に温度が 10℃ 上がると ( 年間平均温度 35℃ )、定期交換部品の交換周期は約半分に短縮されます。

# 警告ラベル



本製品には、下図のように警告ラベルが貼ってあります。警告ラベルは、絶対にはがさないでください。

装置前面



## CAUTION!



This cover must be installed for proper system operation. Board damage may result if the system is powered on with out this panel installed. See manual for details.

To avoid damaging the processors, insertion or removal of processors should be done by trained personnel. See manual for details. xxx-xxxxxxx

# 本書の表記について



## キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：[Ctrl] キー、[Enter] キー、[ ] キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：[Ctrl] + [F3] キー、[Shift] + [ ] キーなど

## コマンド入力

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:
```

の箇所のように文字間隔をあけて表記している部分は、[Space] キー（キーボード手前中央にある何も書かれていない横長のキー）を1回押してください。

また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。

## 本文中の表記

本文中では、以下の表記・記号を使用しています。

サーバ本体または本サーバ

PRIMERGY N800 のことです。

Windows 2000 Datacenter Server

Microsoft®Windows® 2000 Datacenter Server の略です。

Windows 2000 Server

Microsoft®Windows® 2000 Server の略です。

Windows 2000 Advanced Server

Microsoft®Windows® 2000 Advanced Server の略です。

特に断りのない限り、Windows 2000 Server と表記してある部分は、Microsoft Windows 2000 Advanced Server を含みます。

Windows NT Server 4.0

Microsoft®Windows NT® Server 4.0 の略です。

## Windows NT Server, Enterprise Edition 4.0

Microsoft®Windows NT® Server, Enterprise Edition 4.0 の略です。  
特に断りのない限り、Windows NT Server 4.0 と表記してある部分は、  
Microsoft Windows NT Server, Enterprise Edition 4.0 を含みます。

## SSU

システムセットアップユーティリティ (System Setup Utility) の略です。



### ポイント

ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。



### ヘルプ

操作を間違えてしまったときの元の状態への戻し方や、困ったときの対処方法が書いてあります。



### コラム

用語の意味や、豆知識が書いてあります。



本書内の参照ページを示します。

本書では、本サーバをタイプごとに区別して、以下の名称を用いています。

- ディスクレスタイプ  
内蔵ハードディスクユニットを搭載していないタイプ。
- DTC タイプ  
Windows 2000 Datacenter Server バンドルタイプ。

## 画面例について

本書に記載されている画面は一例です。お使いのサーバに表示される画面やファイル名などが異なる場合があります。ご了承ください。

# 目 次

---

第 1 章 本サーバについて .....	1
1.1 特 長 .....	2
1.2 名称と働き .....	4
1.2.1 サーバ本体前面 .....	4
1.2.2 サーバ本体背面 .....	6
1.2.3 サーバ本体内部 .....	8
1.2.4 セキュリティ .....	9
1.2.5 キーボード / マウス .....	10
1.3 設置から運用まで .....	12
第 2 章 設置と接続 .....	17
2.1 梱包物の確認 .....	18
2.2 設置 .....	20
2.2.1 設置場所に関する注意 .....	20
2.2.2 設置環境 .....	22
2.2.3 ラックの設置 .....	24
2.2.4 サーバ本体のラックへの搭載手順 .....	27
2.3 接続方法 .....	29
2.3.1 接続全体図 .....	29
2.3.2 ディスプレイの接続 .....	30
2.3.3 キーボード・マウスの接続 .....	31
2.3.4 LAN ケーブルの接続 .....	33
2.3.5 プリンタの接続 .....	34
2.3.6 バックアップキャビネットの接続 .....	35
2.3.7 ハードディスクキャビネットの接続 .....	36
2.3.8 電源ケーブルの接続 .....	37
第 3 章 基本的な操作 .....	41
3.1 ラックドアを開ける .....	42
3.2 電源を入れる .....	44

3.3 電源を切る .....	46
3.4 フロッピーディスクのセット / 取り出し .....	48
3.4.1 取り扱い上の注意 .....	48
3.4.2 フロッピーディスクのセットと取り出し .....	50
3.5 DVD-ROM や CD-ROM のセット / 取り出し .....	51
3.5.1 取り扱い上の注意 .....	51
3.5.2 DVD-ROM や CD-ROM のセットと取り出し .....	53

## 第 4 章 セットアップ..... 55

4.1 セットアップの概要 .....	56
4.2 ハードウェアの設定 .....	57
4.3 BIOS セットアップユーティリティを使う .....	58
4.3.1 BIOS セットアップユーティリティを使うとき .....	58
4.3.2 BIOS セットアップユーティリティの起動と終了 .....	59
4.3.3 BIOS セットアップユーティリティでのキー操作 .....	61
4.3.4 メニューと項目一覧 .....	62
4.3.5 Main メニュー .....	67
4.3.6 Advanced メニュー .....	73
4.3.7 Security メニュー .....	84
4.3.8 Server メニュー .....	87
4.3.9 Boot メニュー .....	93
4.3.10 Exit メニュー .....	97
4.4 SCSI コンフィグレーションユーティリティを使う.....	99
4.4.1 SCSI コンフィグレーションユーティリティの操作方法 .....	100
4.4.2 メニューと項目一覧 .....	103
4.4.3 Fast!UTIL Options メニューの詳細 .....	104
4.5 SCSI Select ユーティリティを使う.....	114
4.6 システムセットアップユーティリティ (SSU) を使う.....	115
4.6.1 SSU の起動と終了 .....	115
4.6.2 PCI カードの設定 .....	118
4.6.3 I/O ベースボードの設定 .....	122
4.6.4 システムイベントログ (SEL) の操作 .....	125
4.7 BIOS 設定情報の退避 / 復元.....	128

## 第 5 章 内蔵オプションの取り付け..... 135

5.1 内蔵オプションの種類 .....	136
5.2 内蔵オプション取り付けの流れ .....	138
5.2.1 フロントカバーの取り外し / 取り付け .....	139
5.2.2 サーバ本体のスライド .....	140
5.2.3 グリルカバーの取り外し / 取り付け .....	143
5.2.4 RAM ボードの取り外し / 取り付け .....	144

5.2.5 I/O ボードカバーの取り外し / 取り付け .....	145
5.2.6 シャーシトップカバーの取り外し / 取り付け .....	147
5.3 CPU の取り付け / 取り外し .....	149
5.4 拡張 RAM モジュールの取り付け / 取り外し .....	152
5.5 内蔵ハードディスクユニットの取り付け .....	156
5.6 内蔵 DDS ユニットの取り付け .....	160
5.7 拡張カードの取り付け .....	166
5.7.1 拡張カードの種類 .....	166
5.7.2 拡張カード共通の留意事項 .....	169
5.7.3 取り付けの手順と注意 .....	170
5.7.4 SCSI カード / SCSI アレイコントローラカードの留意事項 .....	172
5.7.5 LAN カード / 標準搭載 LAN カードの留意事項 .....	180
5.7.6 RS-232C カード .....	181
5.7.7 ISDN 接続 G3/G4FAX 通信カード .....	181
5.7.8 ISDN カード .....	182
5.7.9 通信カード V/X .....	183
5.7.10 FAX モデムカード .....	184
5.7.11 リモートサービスボード .....	185
5.7.12 ファイバーチャネルカード .....	187
5.7.13 暗号プロセッサカード .....	187
5.8 電源ユニットの取り付け / 取り外し .....	188
5.8.1 電源ユニット交換時の留意事項 .....	188
5.8.2 電源ユニットの取り外し / 取り付け .....	189
5.8.3 冗長機能運用時の電源ユニットの交換 .....	191
5.9 システムファンの交換 .....	192

## 第 6 章 ソフトウェアのインストール ..... 193

6.1 OS の種類と使用するドライバの作成 .....	194
6.1.1 インストールできる OS と参照箇所 .....	194
6.2 SCSI アレイコントローラカード使用時の注意 .....	196
6.3 Windows 2000 Datacenter Server のインストール .....	198
6.3.1 インストールに必要なソフトウェアと使用するドライバ .....	199
6.3.2 インストール時の留意事項 .....	200
6.4 Windows 2000 Server のインストール .....	201
6.4.1 インストールに必要なソフトウェアと使用するドライバ .....	201
6.4.2 インストール時の留意事項 .....	202
6.5 Windows NT Server 4.0 のインストール .....	205
6.5.1 インストールに必要なソフトウェアと使用するドライバ .....	205
6.5.2 インストール時の留意事項 .....	206
6.5.3 SCSI オプション装置の搭載時の注意事項 .....	209
6.6 LAN ドライバについて .....	211

6.6.1 LANドライバのインストール方法 (Windows 2000 Datacenter Server)	211
6.6.2 LAN ドライバのインストール方法 (Windows 2000 Server)	212
6.6.3 Windows NT Server 対応 LAN ドライバ	213
6.6.4 LAN ドライバの注意事項	214
6.7 RAS 支援サービスについて	217
6.7.1 メニューと項目一覧	220
6.7.2 部品寿命情報 参照・設定メニュー	220
6.7.3 障害の通知方法設定メニュー	224
6.7.4 RAS 支援サービスで表示されるメッセージ	224
6.8 ServerView について	227
6.9 その他のソフトウェアについて	229

## 第 7 章 日常のお手入れ ..... 231

7.1 お手入れ	232
7.1.1 サーバ本体のお手入れ	232
7.1.2 キーボードのお手入れ	232
7.1.3 マウスのお手入れ	233
7.1.4 フロッピディスクドライブのクリーニング	234
7.1.5 内蔵 DDS ユニットのお手入れ	237
7.2 バックアップ	240
7.2.1 バックアップの必要性	240
7.2.2 バックアップ装置とソフトウェア、およびその運用	240

## 第 8 章 故障かな？と思ったときには..... 243

8.1 トラブルシューティング	244
8.2 POST エラーメッセージ	248
8.3 イベントログ	259
8.4 保守員に連絡するときは	260

## 付録 A ..... 261

A.1 本体仕様	262
A.2 24 時間運用上の留意点	263
A.3 メモリダンプの取得	264
A.3.1 メモリダンプを取得するための設定方法 (Windows 2000 Datacenter Server / Windows 2000 Server の場合)	264
A.3.2 メモリダンプを取得するための設定方法 (Windows NT Server 4.0 の場合)	268
A.3.3 メモリダンプが取得できないとき	272



A.4 N800 Server management Tool について .....	274
A.5 各フロッピーディスクの作成方法 .....	276
A.5.1 ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクの作成方法 .....	276
A.5.2 ドライバディスクの作成方法 .....	277
<b>付録 B .....</b>	<b>279</b>
B.1 コンフィグレーションシート .....	280
B.1.1 ハードウェア構成 .....	280
B.1.2 BIOS セットアップ項目 .....	284
B.1.3 SCSI コンフィグレーションユーティリティ .....	288
B.1.4 システム資源管理表 .....	302
B.1.5 RAID 設計シート .....	304
B.2 障害連絡シート .....	305



# 1 本サーバについて

---

この章は、本サーバの特長、代表的な周辺装置、装置の各部の名称と働きなど、基本的な知識を解説しています。

## Contents

---

1.1 特 長 .....	2
1.2 名称と働き .....	4
1.3 設置から運用まで .....	12

## 1.1 特 長

---

本サーバには、以下のような特長があります。

### 高速な処理

本サーバでは、データを高速に処理できる Pentium®III Xeon™ プロセッサを 2 個搭載しており、最大 8 個まで搭載できます。システムは 64 ビット幅のメモリバスをもっていますので、64 ビット幅の外部データバスを持つ Pentium®III Xeon™ プロセッサの性能を最大限に引き出すことができます。

本サーバには最大データ転送速度 800MB / 秒を誇る PCI バス (64 ビット 100MHz) を搭載しています。これによって、ネットワークサーバとしてのパフォーマンスを飛躍的に向上させます。

### 余裕の拡張性

大容量かつ拡張性に富んだシステムを構成できます。

- 本サーバは、ラックマウントタイプを採用しています。ラックマウントタイプは、19 インチ：40U または 19 インチ：36U または 19 インチ：24U のラックを採用し、本体装置やハードディスクキャビネットなどを効率的に収納し、設置場所にスペースをとりません。
- メモリは標準で 1GB 搭載しており、最大 32GB まで拡張できます。
- 本サーバは、前面に 4 つのハードディスクドライブ用 3.5 インチサイズのホットプラグ対応のベイを用意しています。
- ディスクサブシステムにハードディスクキャビネットを増設することで、システムの大規模化にも対応できます。
- 本サーバでは内蔵 DVD-ROM ドライブユニットを 1 台標準搭載しています。また、オプションで内蔵 DDS ユニットの搭載できます。さらに、バックアップキャビネット（オプション）を使用して、以下の内蔵 5 インチオプションが使用できます。
  - 内蔵 DDS ユニット
  - 内蔵 DDS オートローダ
  - 内蔵光磁気ディスクユニット
  - 内蔵 SLR ユニット
  - 内蔵 DLT ユニット
- 拡張スロットは、合計 10 個の PCI スロットを用意しています。
  - 64 ビット 100MHz PCI スロット × 4 スロット
  - 64 ビット 33MHz PCI スロット × 6 スロットなお、本サーバは、LAN カードおよび SCSI アレイコントローラカードを標準搭載しています。

## 高信頼性の実現

- 特定の人だけが本サーバを使用できるようにパスワードを設定できます。
- SCSI アレイコントローラカードを標準で搭載しており、ディスクアレイシステム (RAID0/1/5/0+1(6)) を構成できます。
- 冗長ファン、および冗長電源機能をサポートしています。
- ServerView の Auto Server Restart (ASR: 自動再起動) 機能により、サーバ異常の迅速な復旧ができます。
- ServerView のアクション機能により、OS 動作中にシステムイベントログ (SEL) を参照できます。
- RAS (Reliability, Availability & Serviceability) 機能により、定期交換部品の交換時期を管理できます。

## 簡単なセットアップ

本サーバは、Windows 2000 Server、および Windows NT Server 4.0 を簡単にセットアップできる Windows サーバ導入支援プログラムである「ServerStart」を添付しています。

## サポート OS

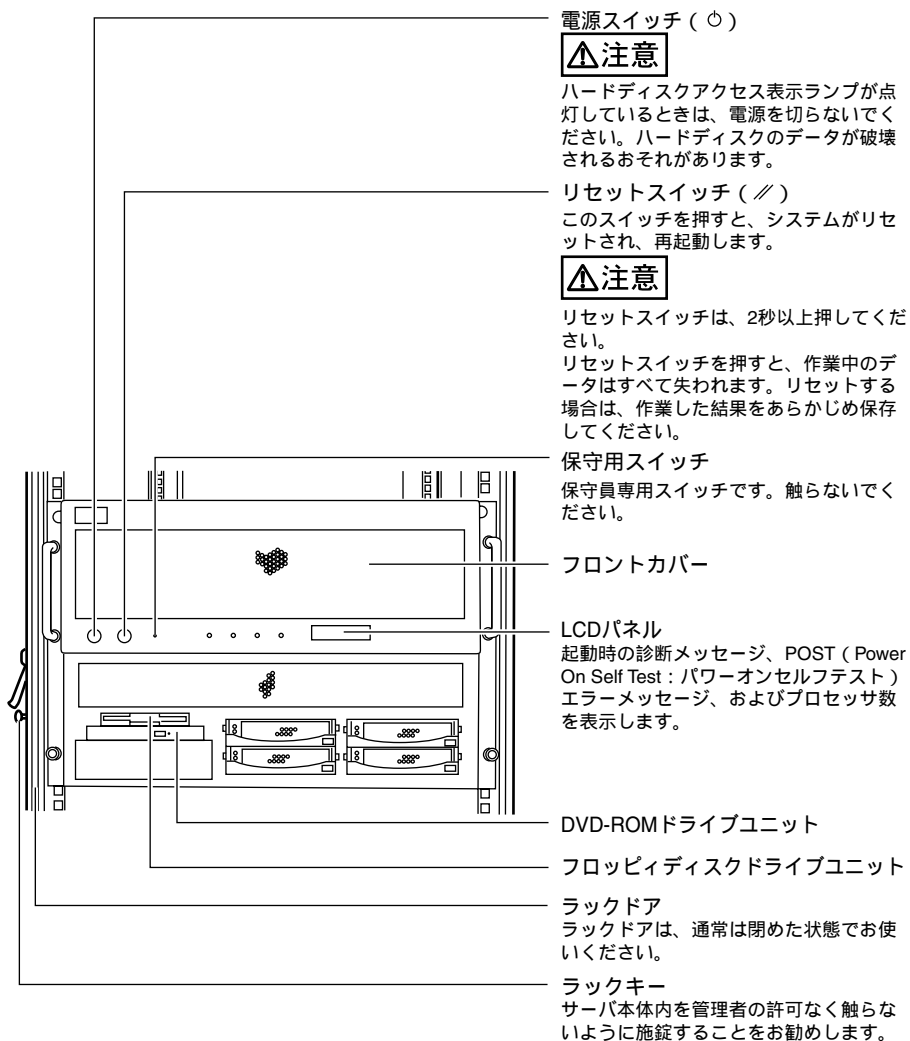
本サーバでは以下の OS をサポートします。

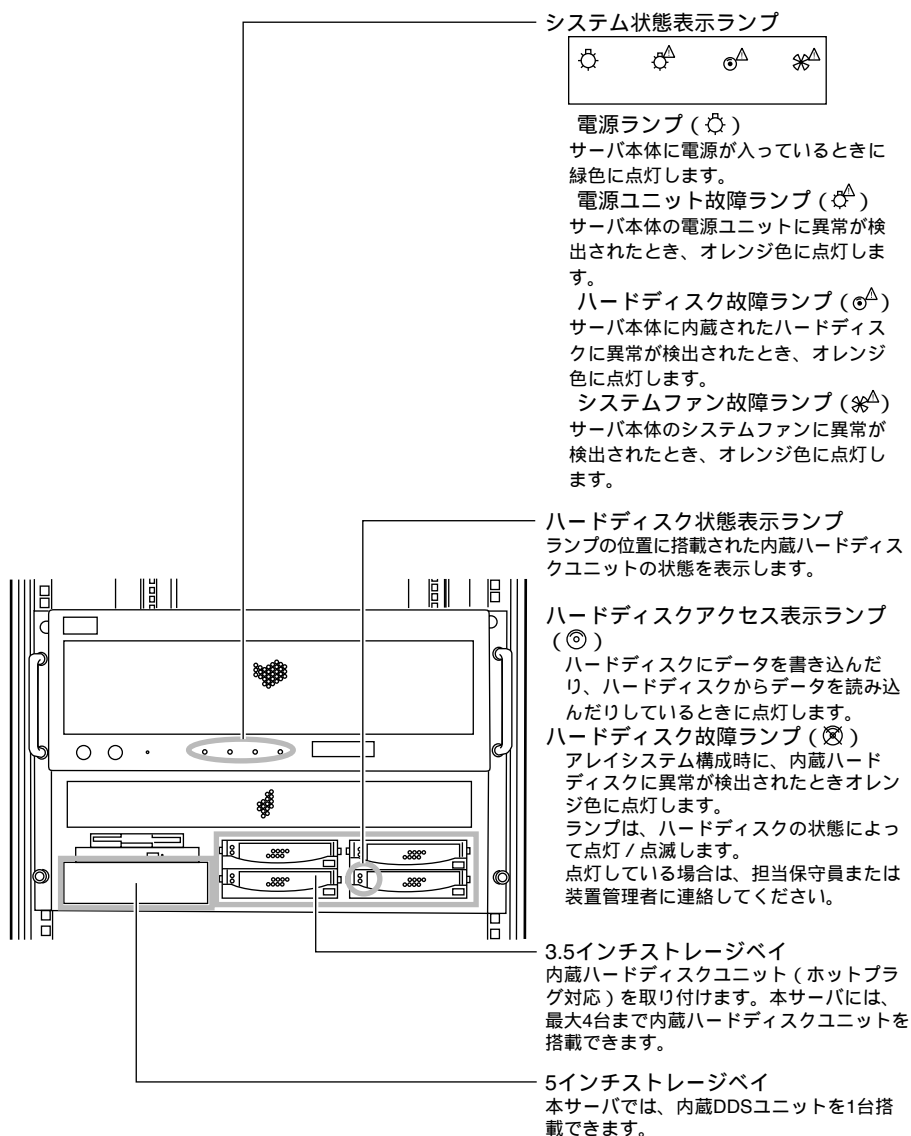
- Windows 2000 Datacenter Server
- Windows 2000 Server
- Windows 2000 Advanced Server  
Windows 2000 Server と表記してある部分は、特に断りのない限り、Windows 2000 Advanced Server を含みます。
- Windows NT Server 4.0
- Windows NT Server, Enterprise Edition 4.0  
Windows NT Server 4.0 と表記してある部分は、特に断りのない限り、Windows NT Server, Enterprise Edition 4.0 を含みます。

## 1.2 名称と働き

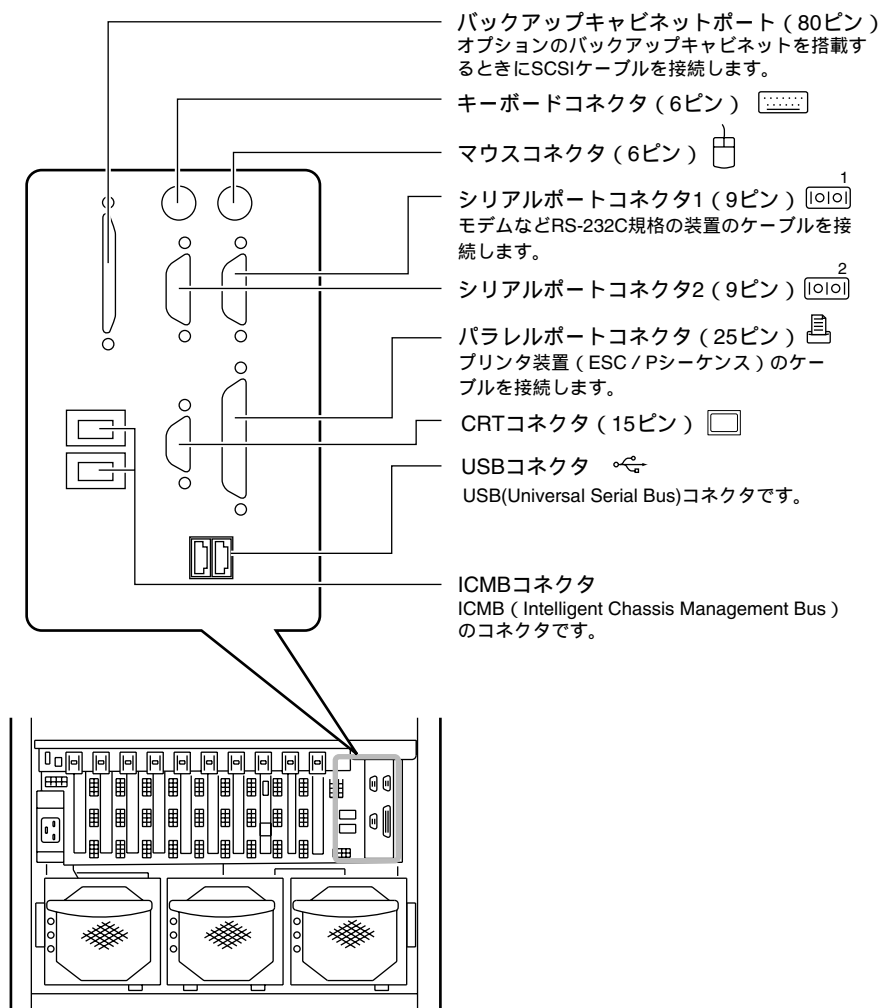
ここでは、サーバ本体、キーボード、マウス、フロッピーディスクの各部の名称と働きを解説します。

### 1.2.1 サーバ本体前面

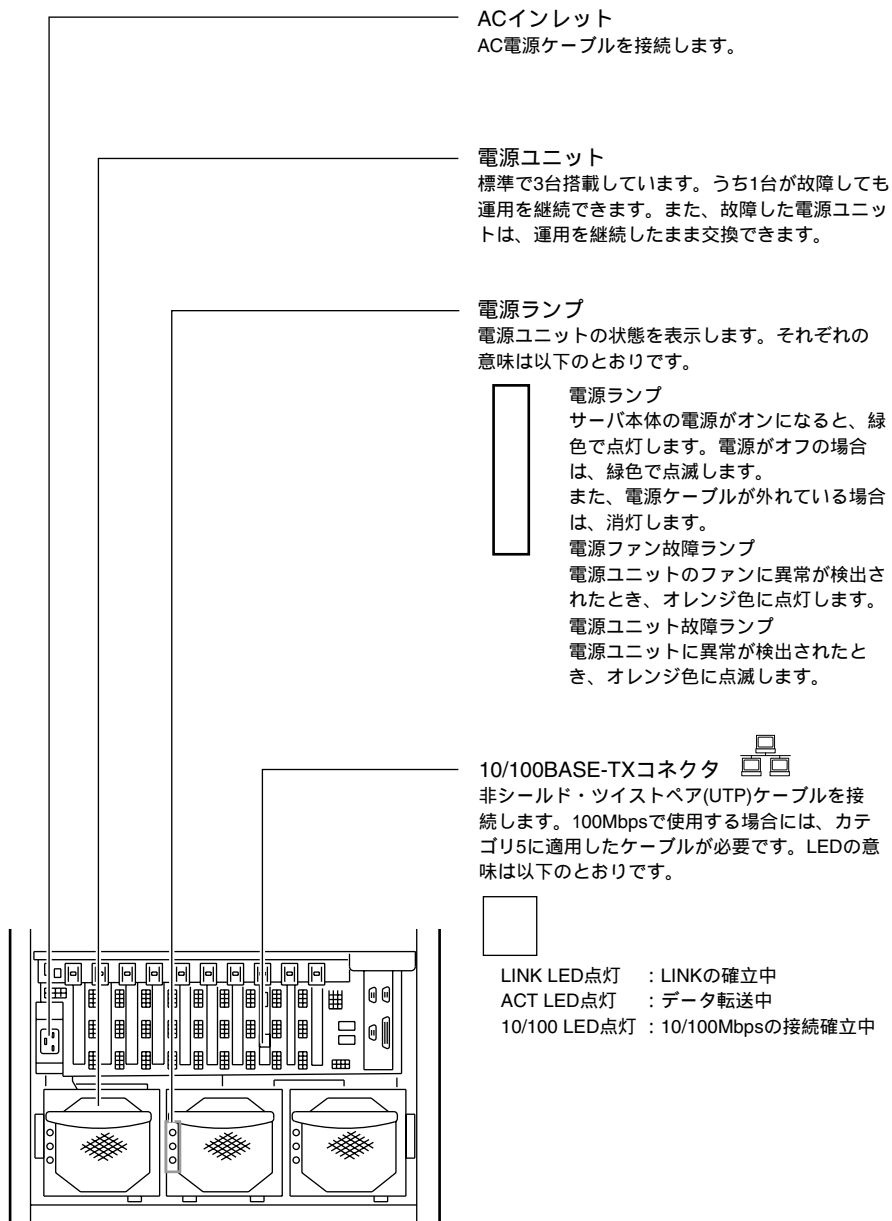




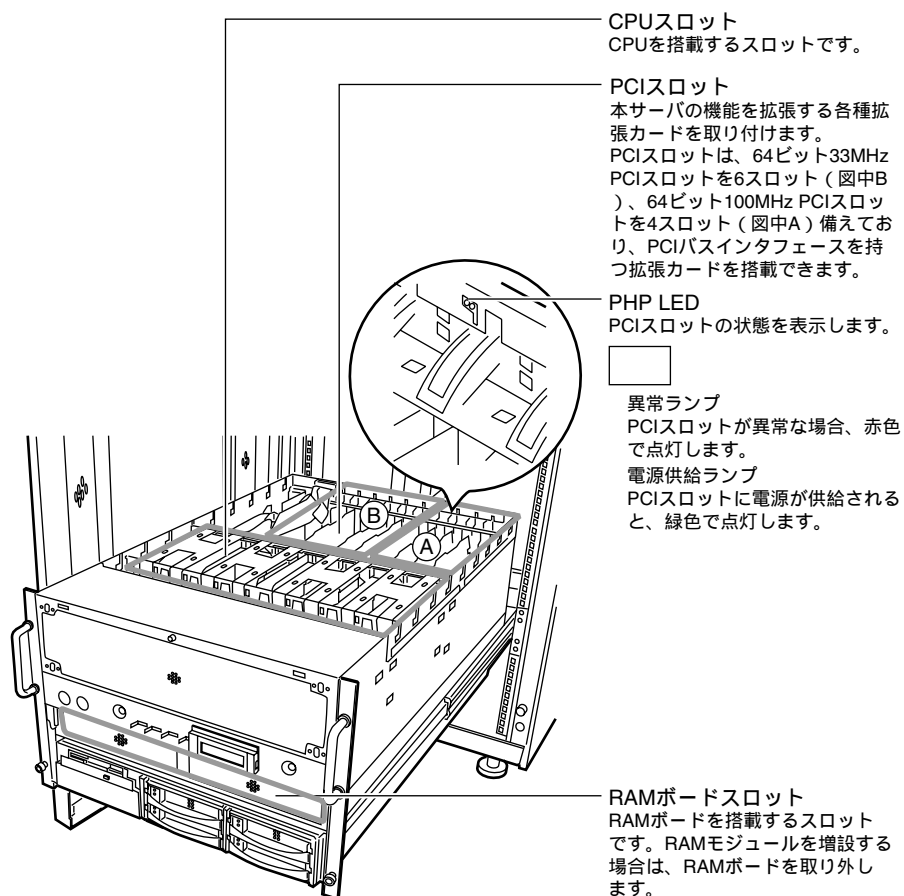
## 1.2.2 サーバ本体背面





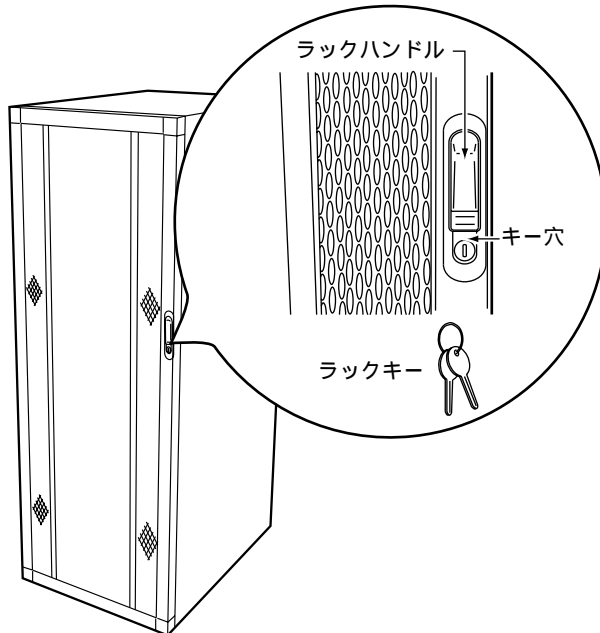


### 1.2.3 サーバ本体内部



## 1.2.4 セキュリティ

本サーバでは、本体内のハードウェアおよびソフトウェア資産を盗難などから守るため、以下のように機械的なセキュリティ設備を用意しています。  
なお、以下の図は 40U のラックです。その他のラックについては、ラックに添付の取扱説明書を参照してください。



ラックドアを施錠すると、ラック内部のハードウェアの盗難を防ぐことができます。

ラックドアを開ける場合は、ラックキーを回し、ラックハンドル下部を押して、ラックハンドルを右側に回して手前に引きます。



### ポイント

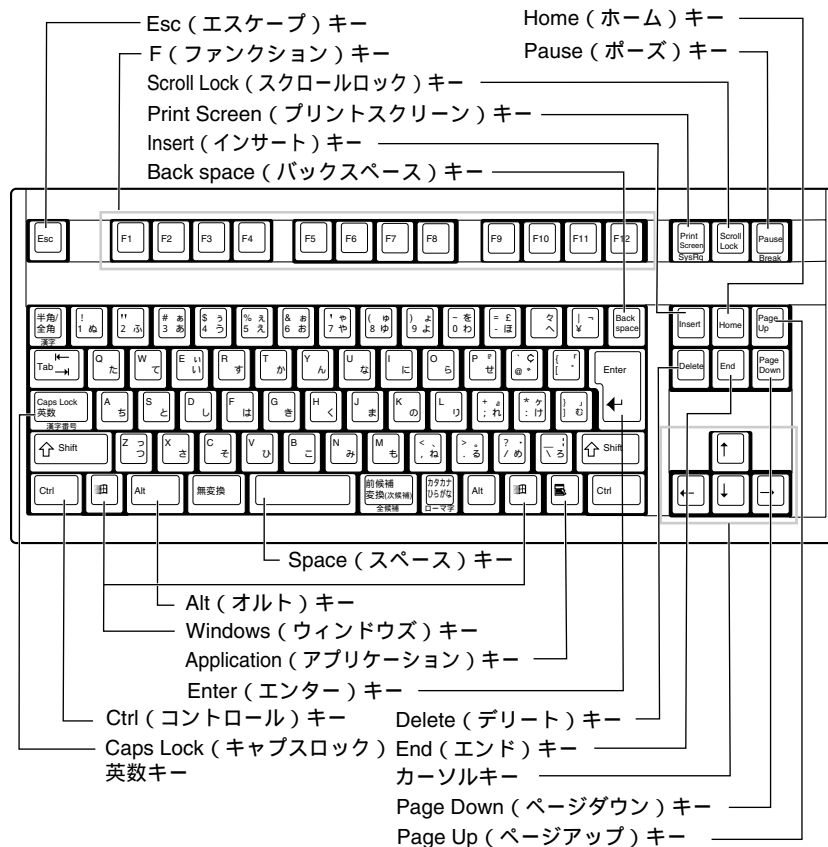
ラックキーは紛失しないように注意してください。紛失した場合は担当営業員に連絡してください。

また、BIOS セットアップユーティリティなどによるセキュリティ機能も準備しており、より信頼度の高いデータセキュリティを実現します。( BIOS セットアップユーティリティなどのセキュリティモード設定については、「第 4 章 セットアップ」( 55 ページ ) を参照してください。)

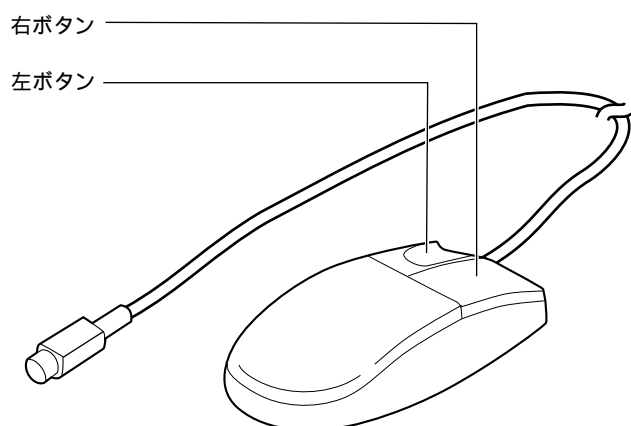
## 1.2.5 キーボード / マウス

本サーバのオプションとして、次のキーボードとマウスを用意しています。

### キーボード



## マウス



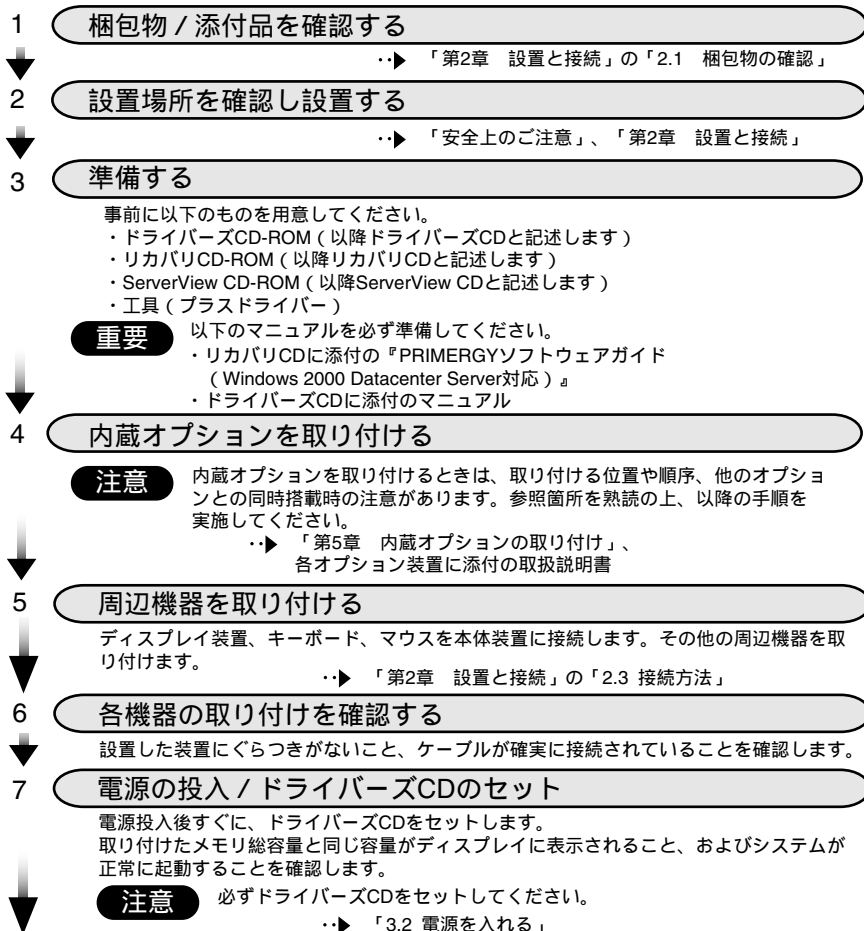
## 1.3 設置から運用まで

本サーバの設置から運用までの流れを示します。

以降の流れ図に従って、設置から運用までの作業を行ってください。

なお、カスタムメイドサービスで製品をご購入された場合は、「PRIMERGY N800 カスタムメイドサービス 実装・設定情報」も併せて参照してください。

### Windows 2000 Datacenter Server で運用する場合



## 8 システムセットアップユーティリティ(SSU)を設定 / 確認する

**注意**

オプションカードを取り付けた場合に、各オプションカードに割り当てる資源を、SSUで設定および確認します。

**重要**

System Resource Usageウィンドウの[Dump to File]で出力されるシステム情報資源は、常に保管してください。  
システムに異常が発生したときに参考になります。

…▶ 「4.6 システムセットアップユーティリティ (SSU) を使う」

## 9 BIOSセットアップユーティリティを設定 / 確認する

**注意**

取り付けたオプション装置によって、BIOSセットアップユーティリティの設定値を、確認または変更する必要があります。

…▶ 「4.3 BIOSセットアップユーティリティを使う」  
各オプション装置に添付の取扱説明書

## 10 SCSI ユーティリティを設定 / 確認する

**注意**

使用する内蔵ハードディスクによってSCSIカードの設定を、確認または変更する必要があります。

…▶ 「4.4 SCSI コンフィグレーションユーティリティを使う」  
「4.5 SCSI Selectユーティリティを使う」

## 11 SCSIアレイディスクを初期化する

**条件**

ディスクアレイシステムを構築する場合

…▶ SCSIアレイコントローラカードに添付の取扱説明書

## 12 OSと必須ソフトウェアをインストールする

本サーバには、OSのインストールを支援する以下のCD-ROMを添付しています。

- ・ドライバーズCD
- ・リカバリCD
- ・ServerView CD

上記のCD-ROMを使用して、以下の作業を行ってください。

**1** メンテナンス区画の作成

…▶ 『PRIMERGYソフトウェアガイド  
(Windows 2000 Datacenter Server対応)』

**2** OSのインストール

…▶ 「第6章 ソフトウェアのインストール」  
『PRIMERGYソフトウェアガイド  
(Windows 2000 Datacenter Server対応)』  
ドライバーズCDに添付のマニュアル

**3** RAS支援サービスのインストール**必須**

…▶ 「6.7 RAS支援サービスについて」

**4** ServerViewのインストール**必須**

…▶ 「6.8 ServerViewについて」  
ServerViewのオンラインマニュアル

## 13 UPS (無停電電源装置) の取り付け

**条件**

UPSを接続する場合

…▶ UPSに添付の取扱説明書

## 14 システム設定情報を退避する

「BIOS Environment Support Tools」を用いて、システムの設定情報を退避するとともに、コンフィグレーションシートに装置の運用状態を記入するようにしてください。  
システムに異常が発生したときやオプションの増設時に参考になります。

…▶ 「付B.1 コンフィグレーションシート」

## 15 運用開始

## Windows 2000 Server または Windows NT Server 4.0 で運用する場合

- 1 梱包物 / 添付品を確認する  
↓  
..▶ 「第2章 設置と接続」の「2.1 梱包物の確認」
- 2 設置場所を確認し設置する  
↓  
..▶ 「安全上のご注意」、「第2章 設置と接続」
- 3 準備する  
↓  
事前に以下のものを用意してください。
  - ・ ServerStartのCD-ROM (以降ServerStart CDと記述します)
  - ・ 工具 (プラスドライバー)**重要** 本サーバに添付の以下のマニュアルを必ず準備してください。  
『Windows NTをインストールしよう!』、『PRIMERGY ソフトウェアガイド』
- 4 内蔵オプションを取り付ける  
↓  
**重要** ServerStartを使ってセットアップするときは、事前に取り付けられる内蔵オプションは決まっています。事前に取り付けることができない内蔵オプションは、ServerStartを終了してから、取り付けてください。
  - ・ 暗号プロセッサカード
  - ・ 光磁気ディスクユニット
  - ・ OSをインストールしないハードディスクユニット
  - ・ 2GBを超えるメモリ (Windows NT Server 4.0をインストールする場合)
  - ・ リモートサービスボード (Windows 2000 ServerまたはWindows 2000 Advanced Serverをインストールする場合)..▶ 『PRIMERGY ソフトウェアガイド』の「第1部 ServerStartの概要」  
**注意** 内蔵オプションを取り付けるときは、取り付ける位置や順序、他のオプションとの同時搭載時の注意があります。参照箇所を熟読の上、以降の手順を実施してください。  
..▶ 「第5章 内蔵オプションの取り付け」、「各オプション装置の取扱説明書」
- 5 周辺機器を取り付ける  
↓  
ディスプレイ装置、キーボード、マウスを本体装置に接続します。その他の周辺機器を取り付けます。  
..▶ 「第2章 設置と接続」の「2.3 接続方法」
- 6 各機器の取り付けを確認する  
↓  
設置した装置にぐらつきがないこと、ケーブルが確実に接続されていることを確認します。
- 7 電源の投入  
↓  
電源を投入します。取り付けたメモリ総容量と同じ容量がディスプレイに表示されること、およびシステムが正常に起動することを確認します。
- 8 システムセットアップユーティリティ(SSU)を設定 / 確認する  
↓  
**注意** オプションカードを取り付けた場合に、各オプションカードに割り当てる資源を、SSUで設定および確認します。  
**重要** System Resource Usageウィンドウの[Dump to File]で出力されるシステム情報資源は、常に保管してください。  
システムに異常が発生したときに参考になります。  
..▶ 「4.6 システムセットアップユーティリティ (SSU) を使う」
- 9 BIOSセットアップユーティリティを設定 / 確認する  
↓  
**注意** 取り付けたオプション装置によって、BIOSセットアップユーティリティの設定値を、確認または変更する必要があります。  
..▶ 「4.3 BIOSセットアップユーティリティを使う」  
『各オプション装置の取扱説明書』
- 10 SCSI ユーティリティを設定 / 確認する  
↓  
**注意** 使用する内蔵ハードディスクおよびインストールするOSによってSCSIカードの設定を、確認または変更する必要があります。  
..▶ 「4.4 SCSI コンフィグレーションユーティリティを使う」  
「4.5 SCSI Selectユーティリティを使う」



## 11 ServerStartを実行する

ServerStartは、以下の作業を簡単に行うことができるWindowsサーバ導入支援プログラムです。

- ・メンテナンス区画の作成
- ・OSのインストール
- ・必須ソフトウェアのインストール
- ・ドライバ類のインストール

ここでは、ServerStartを使って作業する場合と使わない場合に分けて説明します。

以下の表に従って、ServerStartを使用するかどうかを選択してください。

ソフトウェアのインストール	参照箇所
設置からソフトウェアのインストールまで連続して行う	「ServerStartを使用する場合」 「ServerStartを使用しない場合」
ソフトウェアのインストールは別途行う	「ServerStartを使用しない場合」

**重要**

アレイシステム構築時は、構築するシステム構成によって、ServerStartを使用できない場合があります。  
アレイシステムを構築する場合には、事前に「PRIMERGYソフトウェアガイド」を参照して、ServerStartが使用できるシステム構成であるかどうかを確認してください。

## ServerStartを使用する場合

ServerStartを実行します。

- 『Windows NTをインストールしよう!』  
『PRIMERGY ソフトウェアガイド』  
「6.7 RAS支援サービスについて」および  
「ServerViewのオンラインマニュアル」  
「6.8 ServerViewについて」

## ServerStartを使用しない場合

以下の作業を手作業で行ってください。

**1** ドライバディスクの作成

ServerStart CDから必要なドライバディスクを作成します。

- 「6.1 OSの種類と使用するドライバの作成」

**2** メンテナンス区画の作成

- 『PRIMERGY ソフトウェアガイド』

**3** OSのインストール

- 「第6章 ソフトウェアのインストール」

**4** RAS支援サービスのインストールおよびServerViewのインストール**必須**

- 「6.7 RAS支援サービスについて」  
「6.8 ServerViewについて」および  
「ServerViewのオンラインマニュアル」

## 12 UPS（無停電電源装置）の取り付け

**条件**

UPSを接続する場合

- 『UPSの取扱説明書』

## 13 システム設定情報を退避する

「BIOS Environment Support Tools」を用いて、システムの設定情報を退避するとともに、コンフィグレーションシートに装置の運用状態を記入するようにしてください。  
システムに異常が発生したときやオプションの増設時に参考になります。

- 「付B.1 コンフィグレーションシート」

## 14 運用開始

# 2 設置と接続

この章は、本サーバの設置場所および本サーバと周辺装置との接続方法を解説しています。

## Contents

2.1 梱包物の確認 .....	18
2.2 設置 .....	20
2.3 接続方法 .....	29

## 2.1 梱包物の確認

箱の中に次の品物がそろっているか確認してください。万一、欠品などがございましたら、担当営業員までお申しつけください。

	名称	備考
共通	本体装置	
	電源ケーブル（本体装置用）	1 本（AC 電源ケーブル）
	内蔵 DDS ユニット接続用 キット	1 式 - SCSI ケーブル 2 本 - 電源ケーブル 1 本 - 本体搭載用ネジ 4 個
	取扱説明書（本書）	1 部
	セットアップガイド	1 部
	REMCS エージェント	一式 - CD-ROM 1 枚 - 運用ガイド
	BIOS Environment Support Tool	フロッピーディスク 1 枚
	System Setup Utility (SSU)	フロッピーディスク 3 枚
	Server Management Tool	フロッピーディスク 1 枚
	ServerView	一式 - CD-ROM 1 枚 - マニュアル
	SCSI アレイコントローラ カードの取扱説明書	1 部
	キーボード・マウス延長ケー ブル	2 本
	キーボード・マウス抜け防止 金具	2 個
	CRT 延長ケーブル	1 本
	ラベル	2 種（機番表示用、ケーブルコネク タ接続先表示用）
	保証書	
	リストストラップ	1 個

名称	備考
Windows 2000 Datacenter Server タイプ	リカバリ CD-ROM 一式 - CD-ROM 1 枚 - PRIMERGY ソフトウェアガイド ( Windows 2000 Datacenter Server 対応 ) - OS のマニュアル
	ドライバーズ CD-ROM 一式 - CD-ROM 1 枚 - PRIMERGY N800 ドライバーズ CD-ROM 取扱説明書
Windows 2000 Server / Win- dows NT Server 4.0 タイプ	ServerStart V4.07 一式 - CD-ROM 1 枚 - ハードウェア構成ツール起動用 フロッピーディスク - ServerStart フロッピーディスク - PRIMERGY ソフトウェアガイド
	Windows NT をインストー ルしよう！ 1 部

なお、カスタムメイドサービスを利用してご購入された場合は、上記以外の品物が添付されている場合があります。

その他、添付されているドキュメントがある場合には、サーバ設置前に必ずお読みください。

添付品はシステムの変更時やソフトウェアの再インストール時に必要となるため、大切に保管してください。

## 2.2 設置

本サーバは、ラックに搭載して運用します。  
ここでは、ラックの設置や本サーバのラックへの搭載方法について説明します。  
なお、ラックの詳細については、ラックに添付の取扱説明書を参照してください。  
また、本サーバの設置は、担当保守員が行います。

### 2.2.1 設置場所に関する注意

ラックに本サーバを搭載して設置するときは、以下の場所は避けてください。



指示



- 本ラックシステムは、0.2G（震度 5 程度：強震相当）以下の振動では問題なく動作するように設計されています。  
地震発生時の転倒防止のために、本ラックシステムの設置の際には必ず装置 / ラックの固定等の耐震対策を行う必要がありますので、担当営業員にご相談ください。

禁止

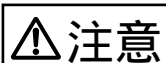


- 床の強度が弱い場所に設置しないでください。  
ラックへの最大搭載時の最大重量は、400kg 以上になるため強度が弱い床では床が抜けるおそれがあります。
- 湿気・ほこり・油煙の多い場所、通気性の悪い場所、火気のある場所に設置しないでください。  
故障・火災・感電の原因となります。

水気



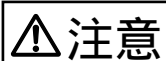
- 本体に水をかけないでください。  
故障・火災・感電の原因となります。
- 風呂場、シャワー室などの水場で使用しないでください。  
故障・火災・感電の原因となります。



禁止



- 直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くなど、高温になる場所には設置しないでください。また、10 未満の低温になる場所には、設置しないでください。故障の原因となります。
- 塩害地域では使用しないでください。故障の原因となります。
- ラックの開口部（通風孔など）をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
- 電源ケーブルおよび各種ケーブル類に足がひっかかる場所には設置しないでください。故障の原因となります。
- テレビやスピーカの近くなど、強い磁界が発生する場所には設置しないでください。故障の原因となります。
- 空気の吸排気口である装置前面部および背面部をふさがないでください。これらをふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
- 本体装置は、水平で安定した場所、および大きな振動の発生しない場所に設置してください。振動の激しい場所や傾いた場所などの不安定な場所は、落ちたり倒れたりしてけがの原因になりますので、設置しないでください。  
また、通路の近くには、危険防止のため設置しないでください。通路の近くに設置すると、人の歩行などで発生する振動によって本体が故障したり誤動作する場合があります。
- 本サーバの上に重いものを置かないでください。また、本サーバの上に物を落としたり、衝撃を与えたりしないでください。  
バランスが崩れて倒れたり、落下したりしてけがの原因となります。また、本サーバが故障したり誤動作したりする場合があります。
- 本サーバを移動する場合は、必ず電源を切断し、ケーブル類 / マウス / キーボード / AC ケーブルを外してください。オプションの搭載によって、最大 60Kg 以上の重量となりますので十分注意してください。
- ラックのフロントドア、リアドアは取り外さないでください。  
ドアは重量があるため、倒れたり、落下したりしてけがの原因となることがあります。取り外す必要が生じた場合には、担当保守員にご連絡ください。



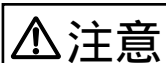
指 示



- 転倒防止用スタビライザは必ず使用してください。振動による転倒でけがをするおそれがあります。
- ラック設置後にラックを移動する場合は、必ず担当保守員にご連絡ください。  
不用意に移動すると、ラック / サーバ本体を損傷するおそれがあります。

## 2.2.2 設置環境

ここでは、本サーバの設置環境および設置条件について説明します。



温 度



- 本装置は、周囲温度が 10 ~ 35 の環境を守ってご利用ください。  
特に 24 時間運転をする場合には空調のスケジュールなどを十分考慮し ( 夜間や休日など )、周囲温度をはずれた温度のもとで運用されることのないようにしてください。  
温度条件が守られないと、電子部品の誤動作や故障、寿命の短縮の原因となります。
  - 特に夏場において 24 時間運用を行う場合、必要に応じて夜間・休日にも冷房を入れて、周囲温度が 35 を超えないようにしてください。
  - 冬場など寒中での暖房時は、一時間あたりの温度上昇が 15 を超さないように室温調整を行い、結露を発生させないようにしてください。

## 設置環境

本サーバは、以下の環境条件を守った上で運用してください。環境条件をはずれた設置環境での運用は、本サーバの故障や寿命を著しく短縮する原因となります。

### 温度（10 ～ 35 ℃）

直射日光の当たる場所、温度条件の厳しい場所を避けて設置してください。また、急激な温度変動は装置を構成する部品に悪影響を与え、故障の原因となるため、温度勾配は 10 ℃/時間以内が理想です。また、15 ℃/時間を超えるような環境は避けてください。

### 湿度（20 ～ 80%）

高湿度環境に設置すると、腐食性有害物質および塵埃との相乗作用による故障の原因となります。また、磁気媒体・帳票類へも悪影響を及ぼしますので、空調機などにより調整してください。

### 塵埃（オフィス環境：0.15mg / m<sup>3</sup> 以下）

塵埃（ほこり、ちりなど）は磁気媒体やヘッドを傷つけたり、接触不良を起こす原因となります。また、腐食性有害物質および湿気との相乗作用により装置に悪影響を与えるため、空調機を装備したエアフィルタで塵埃を除去するなどの対策が必要です。特に、フロッピーディスクドライブ、DVD-ROM ドライブユニット、光磁気ディスクユニット、DDS ユニットなどの磁気テープ装置を使用する場合、ヘッドや媒体に付着した塵埃がリードエラーやライトエラーの原因となるため、定期的なクリーニングを行ってください。クリーニングの詳細は、「第 7 章 日常のお手入れ」（231 ページ）を参照してください。

## サーバ本体環境条件

項目		設置条件
温度	動作時	10 ～ 35
	休止時	0 ～ 55
湿度	動作時	20 ～ 80%RH（結露しないこと）
	休止時	
温度勾配	動作時	15 ℃/hr 以下（結露しないこと）
	休止時	
AC 入力条件	電圧	AC100V
	周波数	50/60Hz
浮遊塵埃		0.15mg/m <sup>3</sup> 以下



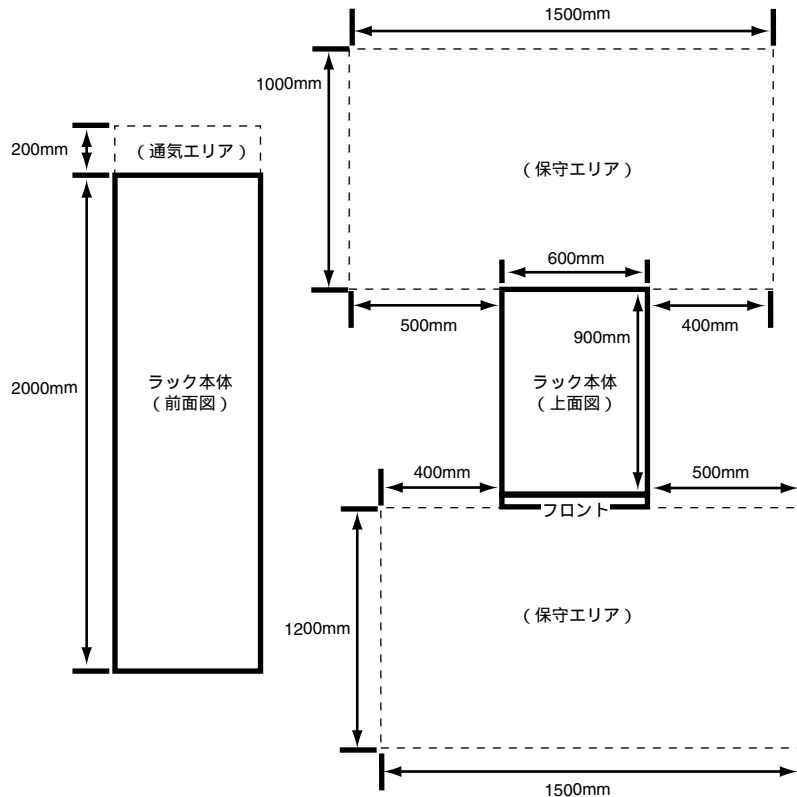
### 2.2.3 ラックの設置

ここでは、ラックの設置スペースなどについて説明します。

なお、40U のラックを元に説明しています。24U ラックまたは 36U ラックについては、各ラックの取扱説明書を参照してください。

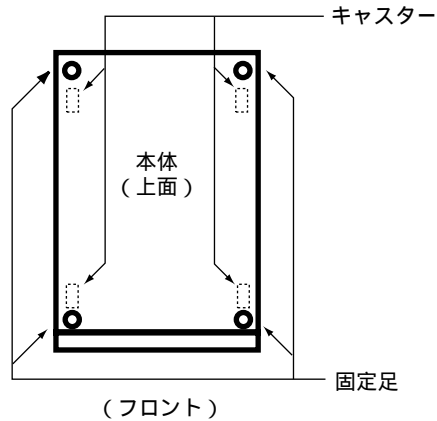
#### 設置スペース

ラックを設置するときは、以下のスペースを確保してください。



## ラックの固定について

ラック設置後、ラックの底面にある固定足でラックを固定してください。  
 キャスターだけで長時間固定すると、キャスターが破損・変形します。  
 固定足を使用し、キャスターを床面から 2mm 以上上げて固定します。



## 転倒防止用スタビライザの取り付け

ラック固定後、転倒防止用スタビライザを取り付けてください。



転倒防止用のスタビライザは、設置時に必ず取り付けてください。  
 取り付けない状態でラック内部のサーバ本体を引き出すと、  
 ラックが転倒するおそれがあります。

以下に、スタビライザの取り付け手順を示します。

- 1 ラックを設置し、ラック底面にある固定足でラックを固定します。  
 (上記「ラックの固定について」( 25 ページ) 参照)

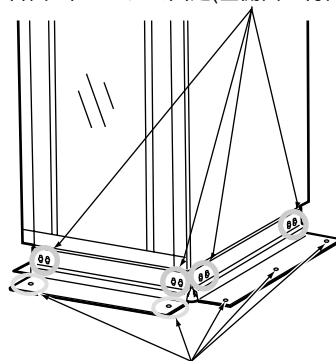
## 2 ラックの前後左右面に、スタビライザを取り付けます。

ラックの前後左右の面に、スタビライザを取り付けます。

スタビライザを4本のネジでラックに取り付けます。

次に、スタビライザを床面に固定します。前面と背面のスタビライザは、2本のボルトで床面に固定します。側面のスタビライザは、3本のボルトで床面に固定します。なお、床面に固定するボルトは、別途必ず購入する必要があります。

各面4本のネジで固定(左側面 / 背面も同様)



前面および背面は各2本、両側面は各3本のボルトで固定

## 2.2.4 サーバ本体のラックへの搭載手順

本サーバは、ラックに搭載して運用します。  
ここでは、サーバ本体をラックに搭載する手順を説明します。

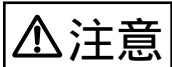


感 電



取り付けや取り外しをするときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外してください。

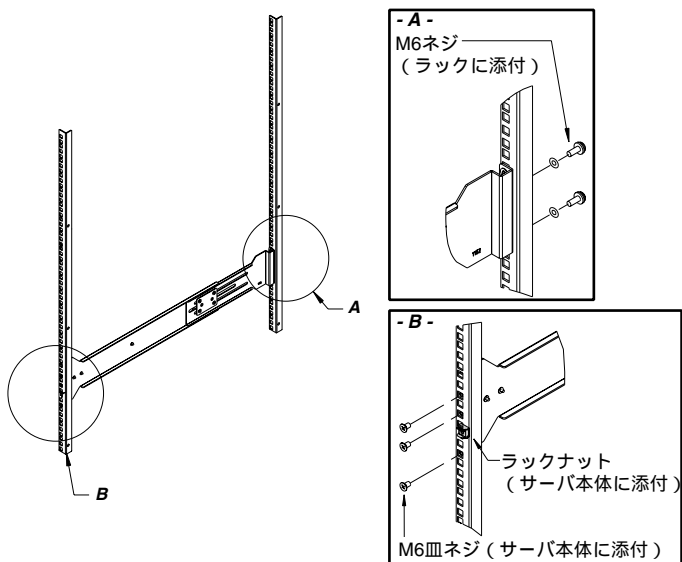
感電したり機器が故障するおそれがあります。



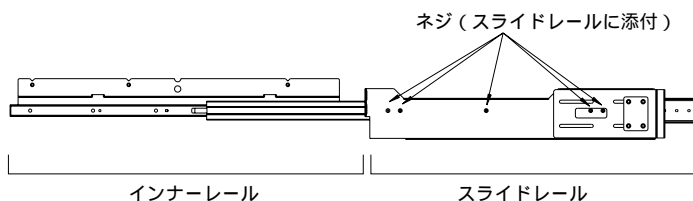
サーバ本体をラックに搭載したりラックから取り外す場合は、担当保守員に連絡してください。

### 搭載手順

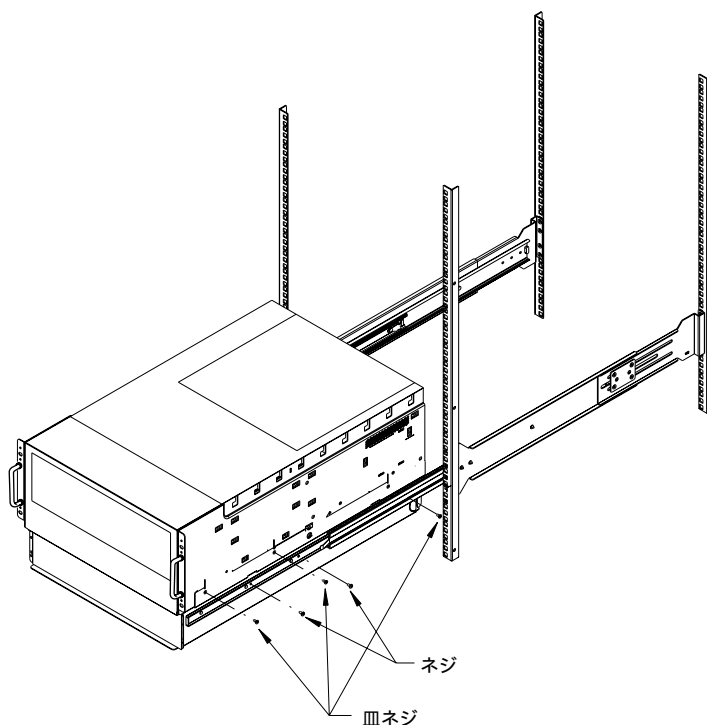
- 1 ラックドアを開けます。  
(「3.1 ラックドアを開ける」( 42 ページ) 参照)
- 2 スライドレールをラックに取り付けます。  
各スライドレールは、前面から 3 本、背面から 2 本のネジでラックに取り付けます。  
同時にラックナットも取り付けます。



- 3 インナーレールをスライドレールに取り付けます。  
5本のネジでインナーレールをスライドレールに取り付けます。



- 4 サーバ本体をラックに取り付けます。  
インナーレールを「カチッ」と音がするまで手前に引き出します。サーバ本体をインナーレールの上から載せて、サーバ本体とインナーレールをネジで固定します。

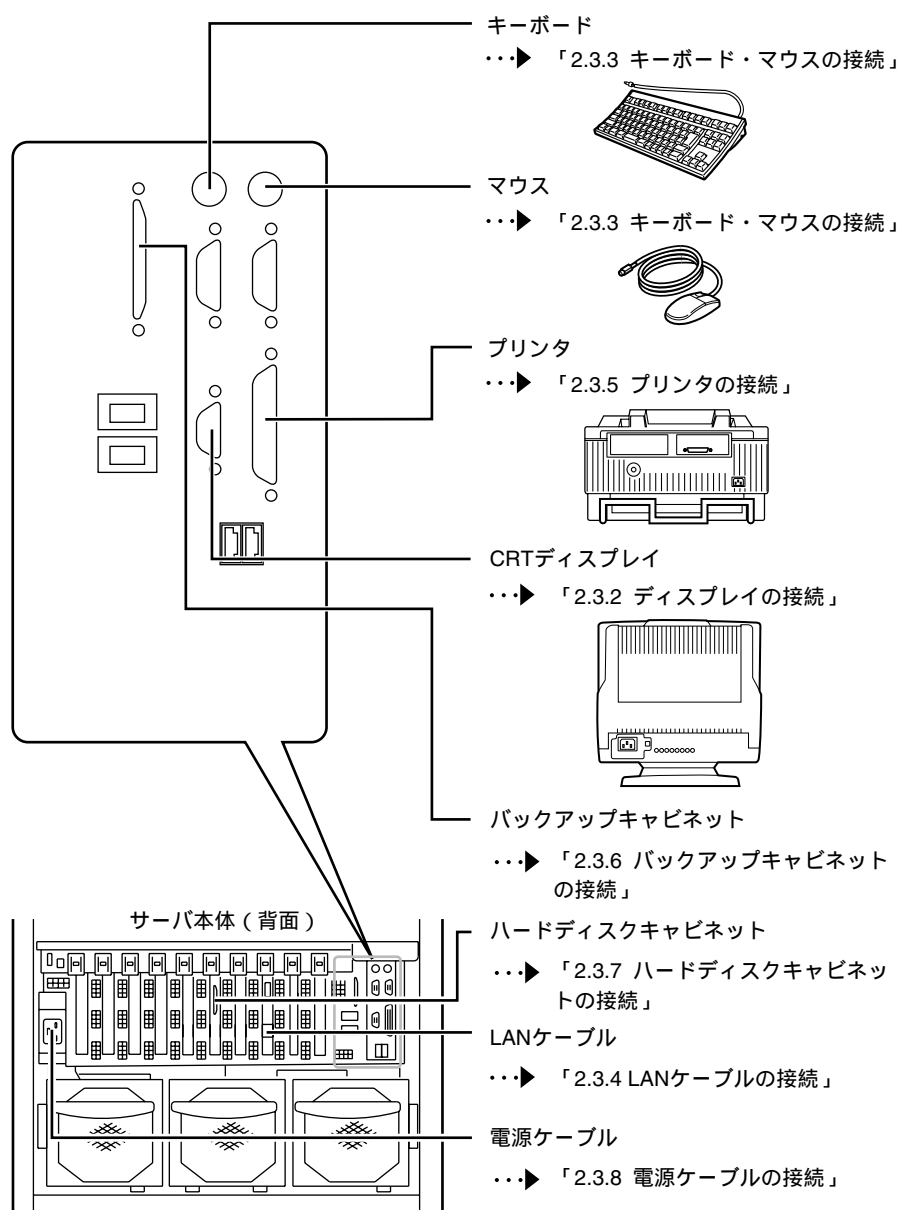


- 5 サーバ本体を後方にスライドさせ、ラックに搭載します。  
サーバ本体をラックに搭載後、サーバ本体とラックを2本のつまみネジで固定します。  
(「5.2.2 サーバ本体のスライド」( 140 ページ) 参照)
- 6 フロントカバーを取り付けます。  
(「5.2.1 フロントカバーの取り外し / 取り付け」( 139 ページ) 参照)

## 2.3 接続方法

### 2.3.1 接続全体図

以下は、サーバ本体背面から見た接続全体図です。各周辺装置の接続方法は、各項をご覧ください。



### 2.3.2 ディスプレイの接続



感電



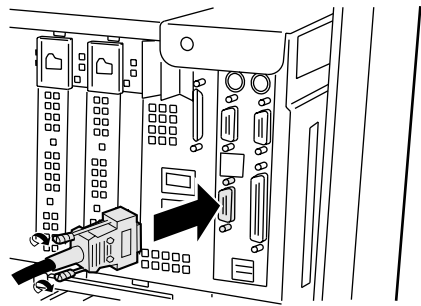
- 接続するときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから取り外してください。感電の原因となります。
- 電源プラグをコンセントに接続する前に、必ずアースを接続してください。また、アース接続を外すときには、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。感電の原因となります。

ディスプレイの接続方法は、以下のとおりです。

1 ディスプレイケーブルと CRT 延長ケーブルを接続します。

2 CRT 延長ケーブルをサーバ本体に接続します。

CRT 延長ケーブルのコネクタを、サーバ本体背面のディスプレイコネクタに接続します。CRT 延長ケーブルのコネクタのネジをしめます。



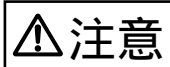
3 電源ケーブルをディスプレイに接続します。

電源ケーブル（ディスプレイ用）の片方のプラグを、ディスプレイ背面のインレットに接続します。

電源ケーブルの片方がディスプレイ本体に一体となっている製品をお使いのときは本手順を省きます。

4 電源ケーブルをコンセントに接続します。

もう片方のプラグをコンセントに接続します。



ラックの天板にディスプレイを置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下してけがの原因となります。また、本サーバが故障したり誤動作したりする場合があります。

### 2.3.3 キーボード・マウスの接続



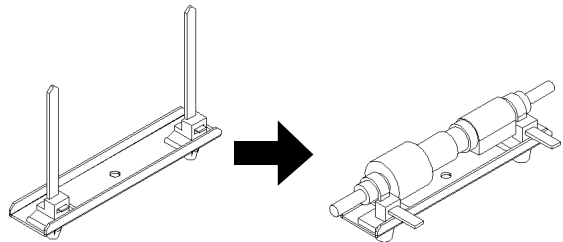
接続するときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから取り外してください。  
感電の原因となります。

2


設置と接続

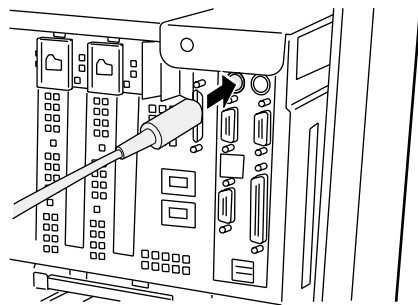
#### キーボードの接続

- 1 キーボードケーブルとキーボード延長ケーブルを接続します。  
抜けないように、キーボード・マウス抜け防止金具で固定します。



[キーボード・マウス抜け防止金具]

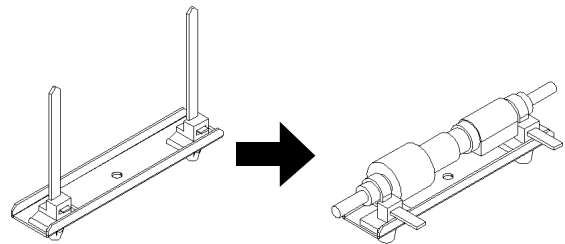
- 2 キーボード延長ケーブルのコネクタを、サーバ本体背面のキーボードコネクタ (  ) に接続します。  
このとき、コネクタに刻印されている矢印が右側に向くようにします。






## マウスの接続

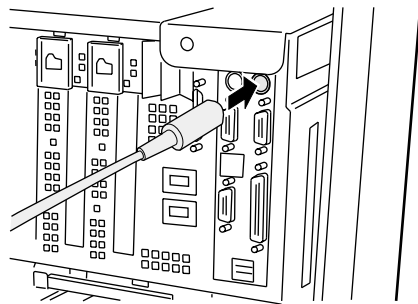
- 1 マウスケーブルとマウス延長ケーブルを接続します。  
抜けないように、キーボード・マウス抜け防止金具で固定します。



[キーボード・マウス抜け防止金具]

- 2 マウス延長ケーブルのコネクタを、サーバ本体背面のマウスコネクタ

() に接続します。  
このとき、コネクタに刻印されている矢印が右側に向くようにします。

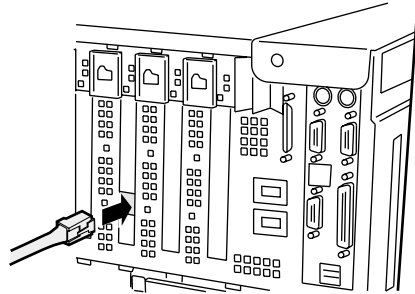


### 2.3.4 LAN ケーブルの接続

本サーバの LAN ケーブルを接続します。

**1** LAN ケーブルをサーバ本体に接続します。

LAN ケーブルのコネクタを、サーバ本体背面の LAN コネクタに接続します。



**2** LAN ケーブルをハブやルータなどに接続します。

もう片方のコネクタを、ハブやルータなどに接続します。

### 2.3.5 プリンタの接続



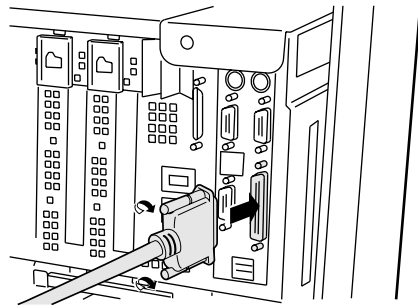
感 電



接続するときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから取り外してください。感電の原因となります。

- 1 プリンタケーブルをサーバ本体に接続します。

プリンタケーブルのコネクタを、サーバ本体背面の平行コネクタに接続します。コネクタのネジをしめます。



- 2 プリンタ側のケーブルを接続します。

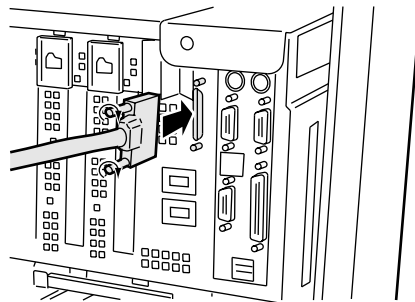
プリンタ側のケーブル接続は、各プリンタに添付の取扱説明書を参照してください。

### 2.3.6 バックアップキャビネットの接続

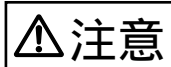


接続するときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから取り外してください。感電の原因となります。

- 1 バックアップキャビネットをラックに搭載します。  
搭載方法は、バックアップキャビネットのマニュアルを参照してください。
- 2 バックアップキャビネットとサーバ本体を、SCSI ケーブルで接続します。  
SCSI ケーブルのコネクタを、サーバ本体背面のバックアップキャビネットポートに接続します。



- 3 追加するバックアップキャビネットの背面にある Power が Remote になっていることを確認します。  
詳細は、バックアップキャビネットの取扱説明書を参照してください。
- 4 サーバ本体の電源を投入します。  
サーバ本体とバックアップキャビネットに電源が投入されます。  
(「3.2 電源を入れる」( 44 ページ) を参照)



本サーバの電源切断後、再度電源を投入する場合は、すべての電源が切断されてから 10 秒後に投入してください。  
上記を守らない場合、本サーバが正常に起動しない場合があります。

以上の操作により、バックアップキャビネットの接続が完了します。

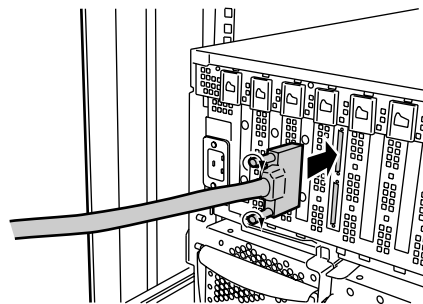
### 2.3.7 ハードディスクキャビネットの接続



接続するときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから取り外してください。  
感電の原因となります。

#### ハードディスクキャビネットの接続

- 1 ハードディスクキャビネットをラックに搭載します。  
搭載方法は、ハードディスクキャビネットに添付の取扱説明書を参照してください。
- 2 ハードディスクキャビネットとサーバ本体を、SCSI ケーブルで接続します。  
SCSI ケーブルのコネクタを、サーバ本体背面の SCSI アレイコントローラカードのコネクタに接続します。



- 3 追加するハードディスクキャビネットの背面にある Power が Remote になっていることを確認します。  
詳細は、ハードディスクキャビネットの取扱説明書を参照してください。
- 4 サーバ本体の電源を投入します。  
サーバ本体とハードディスクキャビネットに電源が投入されます。  
(「3.2 電源を入れる」( 44 ページ ) を参照)



本サーバの電源切断後、再度電源を投入する場合は、すべての電源が切断されてから 10 秒後に投入してください。  
上記を守らない場合、本サーバが正常に起動しない場合があります。

以上の操作により、ハードディスクキャビネットの接続が完了します。

### 2.3.8 電源ケーブルの接続

周辺装置の接続を終えたら、本サーバの電源ケーブルを接続します。



- 濡れた手でプラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。
- 重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると、電源ケーブルを傷め、火災・感電の原因になります。
- 電源ケーブルやプラグが傷んだとき、コンセントの差し込み口がゆるいときは、使用しないでください。そのまま使用すると、火災の原因になります。
- 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。また、タコ足配線をしないでください。火災・感電の原因となります。

指示



- プラグの電極、およびコンセントの差し込み口にほこりが付着している場合は、乾いた布でよく拭いてください。そのまま使用すると、火災の原因になります。
- 電源ケーブルは、家庭用電源（AC100V）に接続してください。また、タコ足配線をしないでください。故障・火災の原因となります。

感電



電源プラグをコンセントに接続する前に、必ずアースを接続してください。また、アース接続を外すときには、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。感電の原因となります。

以下の場所にはアース線を接続しないでください。

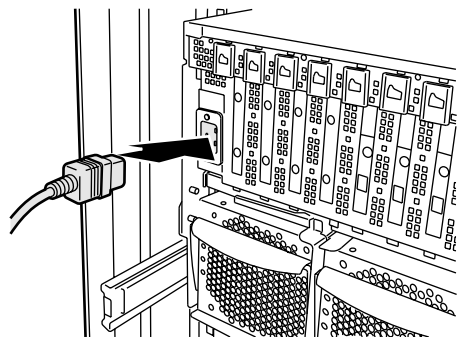
- ガス管：爆発や引火するおそれがあります。
- 電話線や避雷針：落雷のとき装置を破壊し、火災の原因となります。

1 ラックのリアドアを開けます。  
(「3.1 ラックドアを開ける」( 42 ページ) 参照)

2 電源ケーブルをサーバ本体に接続します。

電源ケーブルのプラグを、サーバ本体背面のインレットに接続します。

オプションのバックアップキャビネットやハードディスクキャビネットを接続している場合は、それらの電源ケーブルも接続してください。



3 電源ケーブルをコンセントに接続します。  
もう片方のプラグを、コンセントに接続します。



プラグ



- UPS を使用する場合は、UPS に添付の取扱説明書を必ずお読みください。
- 近くで雷が起きたときは、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。  
そのまま使用すると故障・火災のおそれがあります。
- 本サーバは、最大 3 個の電源ユニットがあります。故障時や保守時は必ず電源プラグをサーバ本体から抜いてください。
- 本サーバとバックアップキャビネットやハードディスクキャビネットのすべての電源ケーブルをひとつの OA タップに接続する場合、OA タップの接地線をとおして大漏洩電流が流れることがあります。電源ケーブル接続に先立ち、必ず接地接続を行ってください。

⚠注意



- プラグを抜くときは電源ケーブルを引っ張らず、必ずプラグを持って抜いてください。  
電源ケーブルを引っ張ると、電源ケーブルの芯線が露出したり断線したりして、火災・感電の原因となります。
- プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。  
火災・故障の原因となることがあります。
- 長時間使用しないときは、安全のため必ずプラグをコンセントから抜いてください。火災・故障の原因となることがあります。

OA タップを使用する場合は、以下の OA タップを推奨します。

品名	商品番号	コンセント形状	ACプラグ形状	ケーブル長	容量
OAタップ (4個口)	0515310	平行2Pアース付 × 4	平行2Pアース付	3m	1500W
OAタップ (6個口)	0515320	平行2Pアース付 × 6	平行2Pアース付	3m	1500W

⚠注意

- UPS に各電源ケーブルを接続する場合は、UPS の容量を超えないよう注意してください。
- UPS を使用する場合は、UPS のラベルに UNIT No. ( CPU ノード No.、キャビネット No.、CRT など ) を記入してください。

UPS[ #1 #2 #3 #4 #5]					
UNIT:			UNIT:		
UNIT:			UNIT:		
UNIT:			UNIT:		



# 3 基本的な操作

---

この章は、電源の入れ方や切り方、フロッピーディスクのセット方法や取り出し方法など、本サーバを使用する上での基本的な操作を解説しています。

3

基本的な操作

## Contents

---

3.1 ラックドアを開ける .....	42
3.2 電源を入れる .....	44
3.3 電源を切る .....	46
3.4 フロッピーディスクのセット / 取り出し .....	48
3.5 DVD-ROM や CD-ROM のセット / 取り出し .....	51

## 3.1 ラックドアを開ける

---

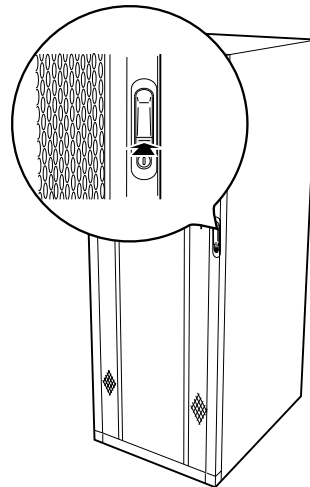
本サーバはラックに搭載されています。ラックには、フロントドアとリアドアがあります。

ここでは、フロントドアおよびリアドアを開ける方法について説明します。

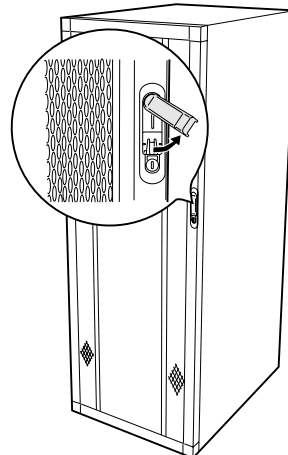
なお、40U のラックを元に説明しています。その他のラックについては、ラックに添付の取扱説明書を参照してください。

### フロントドアの開け方

- 1 ラックキーを左側に回し、ラックハンドルの下部（図中の矢印部）を押します。  
ラックハンドルが前に上がります。

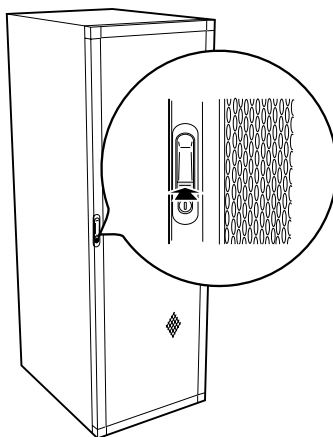


- 2 ラックハンドルを右側に回して、手前に引きます。

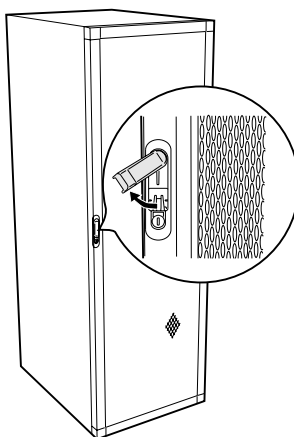


## リアドアの開け方

- 1 ラックキーを左側に回し、ラックハンドルの下部（図中の矢印部）を押します。  
ラックハンドルが前に上がります。



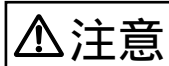
- 2 ラックハンドルを左側に回して、手前に引きます。



### ポイント

- 通常の使用時（媒体の出し入れ、電源の ON/OFF 以外）には、ラックドアを閉めた状態でご使用ください。携帯電話などの外部からの電波を防ぎます。
- ラックキーは、紛失しないように注意してください。紛失した場合は、担当営業員に連絡してください。

## 3.2 電源を入れる



禁止



- 電源を入れたまま、持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。サーバ内部のハードディスクを損傷し、データを消失する原因となります。
- サーバ本体が結露している場合は、結露がなくなってから電源を入れてください。  
故障、感電の原因となります。
- サーバ本体環境条件の温度条件 (10 ~ 35 ) の範囲内で電源の投入を行ってください。サーバ本体の環境条件については「2.2.2 設置環境」( 22 ページ ) を参照してください。

サーバの保証温度範囲内で使用しないと「データの破損」や「動作が不安定になる」などの問題が発生する場合があります。

サーバ本体を動作保証温度範囲外で使用した場合の破損や故障が発生しても当社は一切の責任を負いません。

指示



本サーバの電源を切断後、再度電源を投入する場合は、すべての電源が切断されてから 10 秒後に投入してください。

上記を守らない場合、本サーバが正常に起動しない場合があります。

### 1 ラックドアを開けます。

(「3.1 ラックドアを開ける」( 42 ページ ) 参照)

### 2 CRT ディスプレイや周辺装置の電源を入れます。

ただし、ハードディスクキャビネットやバックアップキャビネットなどの、サーバ本体と連動する装置は電源を入れる必要はありません。

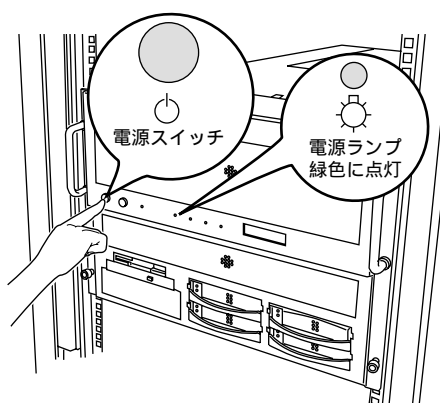
### 3 サーバ本体前面の電源スイッチを押します。

サーバ本体の電源ランプが点灯します。

電源が入ると、本サーバはサーバ本体の装置をチェックする「POST (Power On Self Test: パワーオンセルフテスト)」を行います。POSTの結果、正常な場合はLCDパネル [ 2XPENTIUMIIIIXEON xxxMHz ] と表示されます ( 2 は CPU の数を示します。xxx は CPU の周波数を示します )。

異常があればLCDパネルにエラーメッセージが表示されます ( 「第8章 故障かな? と思ったときには」

( 243 ページ ) の「8.2 POST エラーメッセージ」( 248 ページ ) を参照 )。



#### ポイント

添付の ServerView を使って、サーバ本体の電源の投入 / 切断時刻を設定できます。

詳細は ServerView のマニュアルを参照してください。

### 3.3 電源を切る

#### ⚠ 注意

指示



- 以下の操作手順で電源を切ってください。操作手順に反すると、データが破壊されるおそれがあります。  
発煙、発火などの異常が発生した場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜いてください。  
火災・感電の原因となります。
- 本サーバの電源を切断後、再度電源を投入する場合は、すべての電源が切断されてから 10 秒後に投入してください。  
上記を守らない場合、本サーバが正常に起動しない場合があります。

1 フロッピーディスクおよび DVD-ROM ドライブなどに媒体が挿入されていないことを確認します。

2 OS を終了します。

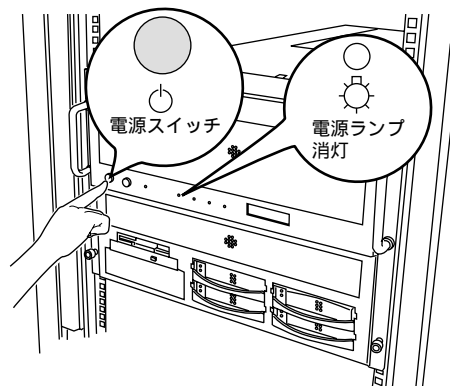
以下の場合、OS 終了後サーバ本体の電源が切れます（以降の操作は必要ありません）。

- OS が Windows 2000 Server / Windows 2000 Datacenter Server の場合
- ServerView がインストールされている場合

その他の場合は、OS を終了し、フロッピーディスクとハードディスクのアクセス表示ランプが消えていることを確認します。

3 サーバ本体前面の電源スイッチを押します。

サーバ本体の電源ランプが消灯します。



4 ディスプレイや周辺装置の電源スイッチを押します。



#### ポイント

添付の ServerView を使って、サーバ本体の電源の投入 / 切断時刻を設定できます。  
詳細は ServerView のマニュアルを参照してください。

## 電源切断時の注意事項について（OS が Windows 2000 Datacenter Server / Windows 2000 Server の場合）

電源スイッチの動作モードは、OS の設定により「スタンバイ」、「休止状態」、「電源オフ」の指定ができます（通常は「電源オフ」）。

本サーバでは、スタンバイ / 休止状態に相当する機能は、BIOS / ハードウェアの機能としてサポートしていますが、本サーバに搭載される一部のドライバ / ソフトウェアでは、当機能をサポートしていません。このため「スタンバイ」と「休止状態」に相当する機能については、本サーバではご使用できません。

なお、動作モードを「スタンバイ状態」または「休止状態」に設定した場合、システムが不安定になったり、ハードディスクのデータが破壊されたりするおそれがあります。

動作モードの設定については、OS に添付のマニュアルを参照してください。

## 3.4 フロッピーディスクのセット / 取り出し

フロッピーディスクのセット方法・取り出し方法は、以下のとおりです。

### 3.4.1 取り扱い上の注意

#### ⚠ 注意



フロッピーディスクを取り扱うときは、以下の点にご注意ください。

- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- シャッタを開いて中のディスクに触らないでください。
- 曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
- 磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。
- 固い床などに落とさないでください。
- 高温 / 低温の場所に保管しないでください。
- ラベルを何枚も重ねて貼らないでください。

### フロッピーディスクの外観

#### シャッタ

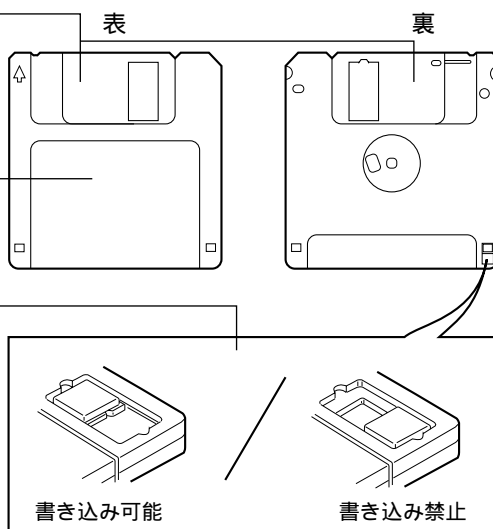
フロッピーディスクをドライブにセットするところが開き、データの読み・書きが行われます。

#### ラベル

記録してあるソフトウェア名や、データを記入してから貼ります。

#### ライトプロテクタ

フロッピーディスクへの書き込みを禁止します。書き込み禁止にするには、反対側が見えるようにライトプロテクタをスライドさせます。元に戻せば、再びデータの書き込みや消去ができます。





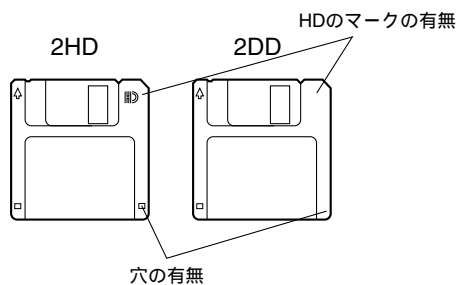


## コラム

フロッピーディスクについて  
本サーバでは以下の 2 種類のフロッピーディスクを使用できます。

- 2HD (記憶容量 1.44MB)
- 2DD (記憶容量 720KB)

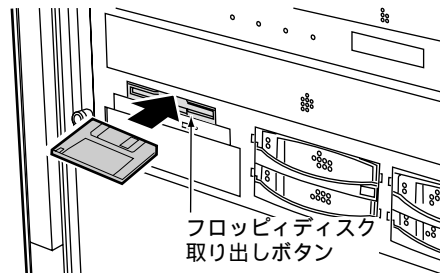
2 種類の外見上の違いは、図のとおりです。



### 3.4.2 フロッピーディスクのセットと取り出し

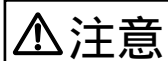
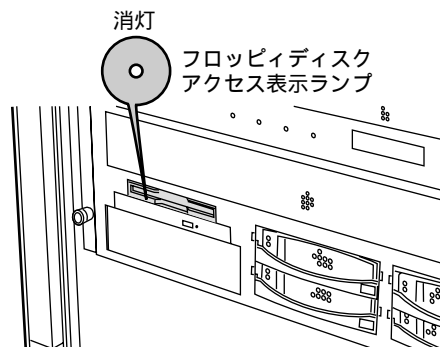
#### フロッピーディスクのセット

- 1 ラベルを上側に向け、シャッタのある側から、フロッピーディスクドライブに差し込みます。  
カシャッと音がし、フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出します。



#### フロッピーディスクの取り出し

- 1 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えていることを確認して、取り出しボタンを押します。  
フロッピーディスクが出てきます。



指示



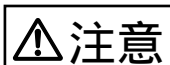
フロッピーディスクアクセス表示ランプの点灯中にフロッピーディスクを取り出さないでください。フロッピーディスク内部のデータが破壊されるおそれがあります。

## 3.5 DVD-ROM や CD-ROM のセット / 取り出し

DVD-ROM や CD-ROM のセット方法・取り出し方法は、以下のとおりです。

なお、特に断りのない限り CD-ROM と記述している部分は、DVD-ROM を含みます。

### 3.5.1 取り扱い上の注意



指示

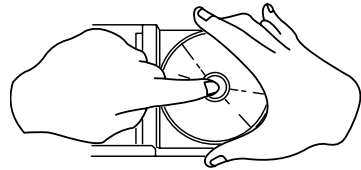


故障などを防ぐため、内蔵 DVD-ROM ドライブユニットおよび CD-ROM を取り扱うときは、以下の点にご注意ください。

- 内蔵 DVD-ROM ドライブユニット
  - 湿気やほこりや浮遊物の少ないところで使用してください。また、内部に水などの液体やクリップなどの金属類が入ると、感電や故障の原因となります。
  - 衝撃や振動の加わる場所では使用しないでください。
  - トレイには規定の DVD-ROM および CD-ROM 以外のディスクおよびディスク以外の物をセットしないでください。
  - トレイは、力を入れて引き出したり、強く押しつけたりしないでください。
  - DVD-ROM ドライブユニットは絶対に分解しないでください。
  - トレイは使用前にきれいにしておいてください。清掃時は乾いたやわらかい布をご使用ください。
  - 長期間ご使用にならないときは、万一の事故を防ぐために DVD-ROM ドライブユニットから CD-ROM を取り出しておいてください。また、DVD-ROM ドライブユニットにほこりやゴミが入りこまないように、トレイを閉じた状態（ロード状態）にしておいてください。

- CD-ROM

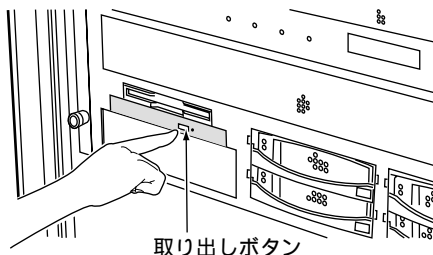
- ケースから取り出すときは、下図のように、ケースのセンターホルダーを押さえながら持ち上げてください。



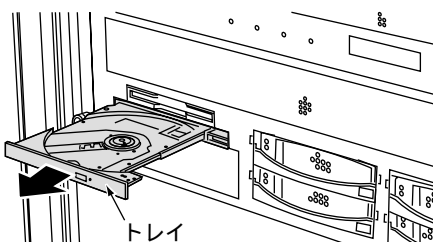
- CD-ROM の縁を持つようにして、表面に触れないように扱ってください。
- CD-ROM の表面に指紋、油、ゴミなどをつけないでください。汚れた場合には、乾いた柔らかい布で CD-ROM の内側から外側へ向けて拭いてください。ベンジン、シンナー、水、レコードスプレー、静電気防止剤、シリコンクロスなどで拭かないでください。
- CD-ROM の表面に傷をつけないように十分注意してください。
- 熱を加えないでください。
- 曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
- レーベル面（印刷側）にボールペンや鉛筆などで文字を書かないでください。
- 屋外などの寒い場所から急に暖かい場所に移すと、表面に水滴がついて、DVD-ROM ドライブユニットがデータを読み込めないことがあります。このときは、乾いた柔らかい布で水滴を拭いてから、自然乾燥させてください。ヘアドライヤーなどで乾燥させないでください。
- ほこり、傷、変形などを避けるため、使用しないときはケースに入れて保管してください。
- 直射日光が長時間あたるところや暖房器具などの熱があたるところなど、高温になる場所での保管は避けてください。

### 3.5.2 DVD-ROM や CD-ROM のセットと取り出し

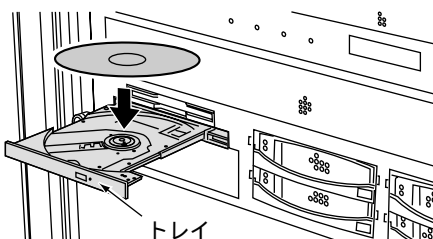
- 1 サーバ本体の電源が入っていることを確認して、取り出しボタン（EJECT）を押します。  
トレイが少し出ます。



- 2 出てきたトレイを引き出します。



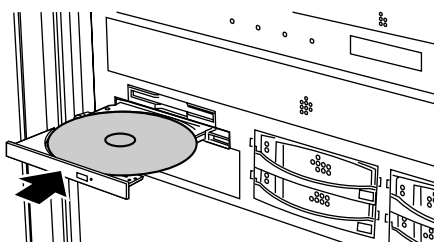
- 3 CD-ROM のレーベル面を上にして、トレイ中央に置きます。  
トレイの下側を支えて、CD-ROM を「カチッ」と音がするまではめ込みます。



#### ⚠ 注意

- CD-ROM の装着が不十分なままトレイを閉めると、DVD-ROM ドライブや CD-ROM の破損となるおそれがありますので注意してください。
- CD-ROM 装着時には、レンズに触れないよう注意してください。

- 4 トレイを戻します。  
トレイが「カチッ」と音がするまで、静かに押し込みます。

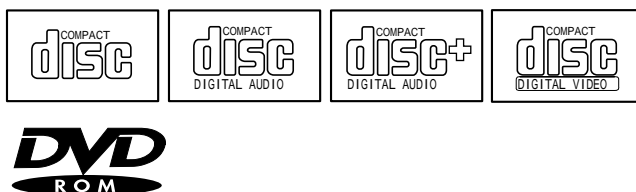


取り出しも、上記のように取り出しボタン（EJECT）を押して行います。



#### ポイント

本サーバの内蔵 DVD-ROM ドライブユニットでは、下図のマークがついた DVD-ROM および CD-ROM をご利用になれます。



# 4 セットアップ

---

この章は、本サーバを動かす上で必要となる環境設定の方法を解説しています。

## Contents

---

4.1 セットアップの概要 .....	56
4.2 ハードウェアの設定 .....	57
4.3 BIOS セットアップユーティリティを使う .....	58
4.4 SCSI コンフィグレーションユーティリティを使う .....	99
4.5 SCSI Select ユーティリティを使う .....	114
4.6 システムセットアップユーティリティ (SSU) を使う .....	115
4.7 BIOS 設定情報の退避 / 復元 .....	128

## 4.1 セットアップの概要

---

本サーバを正常に機能させるためには、以下に示す作業を正しく行う必要があります。

### ハードウェアの設定

サーバ本体や本体に装着するオプション装置、拡張カードのスイッチやジャンパピンなどの物理的な設定を実施し確認します。このセットアップに誤りがあると、サーバが動作しない、または正しく機能しません。本章では、サーバ本体内にあるジャンパ設定について説明します。サーバ本体に内蔵するハードディスクドライブ、ドライブユニットおよび拡張カードの設定については、「第 5 章 内蔵オプションの取り付け」( 135 ページ) および各オプション装置に添付の取扱説明書をご覧ください。

「4.2 ハードウェアの設定」( 57 ページ) 参照

### BIOS セットアップユーティリティ

BIOS ( Basic Input Output System ) は、キーボードやディスプレイなどの入出力装置を制御する基本的なソフトウェアです。BIOS セットアップユーティリティは、ハードウェアの設定を行う場合に使用します。本ユーティリティで設定したオプションパラメータは、サーバ本体内の CMOS RAM ( 以下、CMOS ) および NVRAM に書き込まれます。

「4.3 BIOS セットアップユーティリティを使う」( 58 ページ) 参照

### SCSI コンフィグレーションユーティリティ

本サーバのオンボード SCSI に関する各種設定ができます。SCSI コンフィグレーションユーティリティを使用し、それぞれの SCSI バスに対して設定します。

「4.4 SCSI コンフィグレーションユーティリティを使う」( 99 ページ) 参照

### SCSI Select ユーティリティ

オプションの SCSI カードに関する各種設定ができます。

本サーバにハードディスクキャビネット ( オプション ) を接続する場合は、オプションの SCSI カードを使用します。SCSI Select ユーティリティを使用し、それぞれの SCSI バスに対して設定します。

「4.5 SCSI Select ユーティリティを使う」( 114 ページ) 参照

### システムセットアップユーティリティ ( SSU )

システムセットアップユーティリティ ( SSU ) では、サーバのコンフィグレーション情報の変更、セキュリティの設定、システムイベントログの表示が行えます。

SSU は、サーバ本体添付のドライバズ CD または ServerStart CD を使用して実行します。

「4.6 システムセットアップユーティリティ ( SSU ) を使う」( 115 ページ)

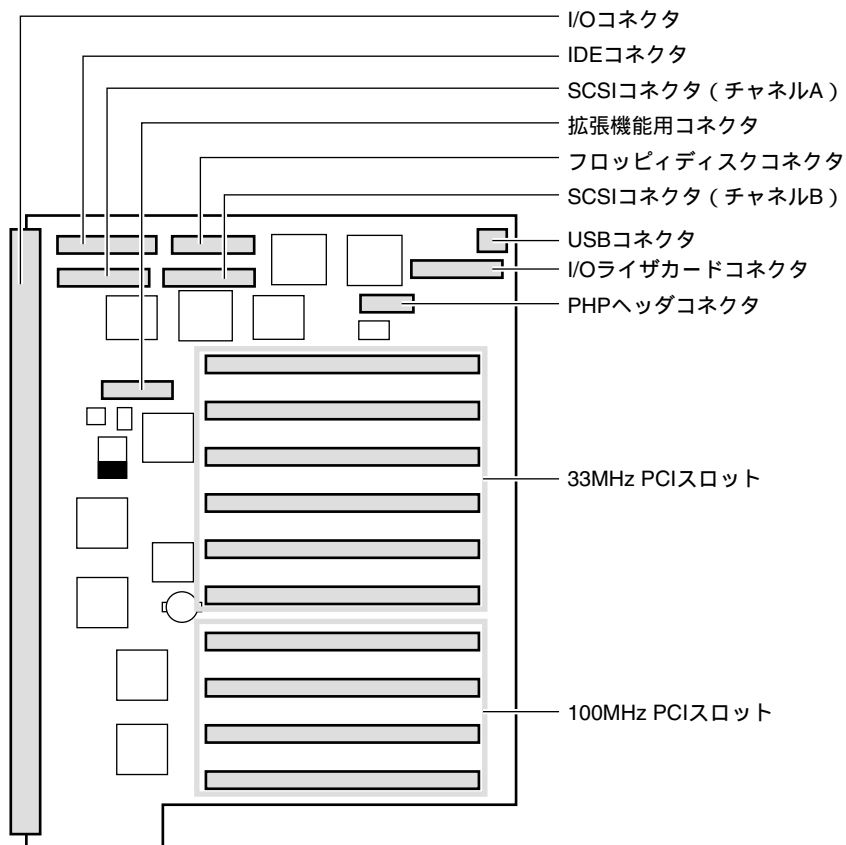


## 4.2 ハードウェアの設定

I/O ベースボード各部の名称を以下に示します。

### I/O ベースボード各部の名称

I/O ベースボード各部の名称は、以下のとおりです。



#### ポイント

パスワードを忘れた場合は、担当営業員または担当保守員までお問い合わせください。

## 4.3 BIOS セットアップユーティリティを使う

BIOS セットアップユーティリティの概要や始め方について説明します。

### 4.3.1 BIOS セットアップユーティリティを使うとき

BIOS セットアップユーティリティとは、メモリやハードディスク、フロッピーディスクドライブなどのハードウェア環境を設定するためのプログラムです。BIOS セットアップユーティリティは、以下の場合に行います。

- シリアルポートなどの働きを設定する場合  
(「4.3.6 Advanced メニュー」( 73 ページ)の「 I/O Device Configuration」( 79 ページ)参照)
- パスワードの設定をする場合  
(「4.3.7 Security メニュー」( 84 ページ)参照)
- 本サーバを起動するドライブを変更する場合  
(「4.3.9 Boot メニュー」( 93 ページ)の「 Boot Device Priority」( 94 ページ)参照)



#### ポイント

本サーバを起動するドライブを変更する場合は、必ず BIOS セットアップユーティリティを使用してください。

また、POST 中にエラーメッセージが表示されたときの対処として、BIOS セットアップユーティリティの設定内容を確認する必要があります  
(「8.2 POST エラーメッセージ」( 248 ページ)参照)。



#### ヘルプ

BIOS セットアップユーティリティで設定した内容は、サーバ本体内部の CMOS RAM (以下、CMOS) および NVRAM に記録されます。この CMOS は、内蔵バッテリーによって情報を保持しています。  
セットアップを正しく行っても、POST でセットアップに関するメッセージが表示される場合は、CMOS に設定内容が保存されていないおそれがあります。原因としてバッテリーが消耗していることが考えられますので、担当営業員または担当保守員までご連絡ください。  
POST エラーメッセージについては、「8.2 POST エラーメッセージ」( 248 ページ)を参照してください。

### 4.3.2 BIOS セットアップユーティリティの起動と終了

BIOS セットアップユーティリティの起動方法と終了の方法は、以下のとおりです。

#### BIOS セットアップユーティリティの起動方法

BIOS セットアップユーティリティの起動方法は以下のとおりです。

- 1 サーバ本体の電源を入れます。
- 2 POST のメモリカウント終了後、画面に [Press <F2> to enter setup] と表示されたら、メッセージが表示されている間に、[F2] キーを押します。  
メインメニュー画面が表示されます。

PhoenixBIOS Setup Utility					
Main	Advanced	Security	Server	Boot	Exit
BIOS Release: RELEASE 1 BIOS Version: MS8P0.86B.0001.P01		Item Specific Help			
System Time: [HH:MM:SS] System Date: [MM/DD/YYYY]		<Tab>, <Shift-Tab>, or <Enter> selects field.			
Legacy Diskette A: [1.44/1.25 MB 3 1/2"] Legacy Diskette B: [Disabled]					
▶ Primary Master [CD-ROM] ▶ Primary Slave [None]					
▶ Processor Information ▶ Keyboard Features					
Language: [English (US)]					
F1 Help    ↑↓ Select Item    -/+ Change Values    F9 Setup Defaults Esc Exit    ←→ Select Menu    Enter Select ▶ Sub-Menu    F10 Save and Exit					

## BIOS セットアップユーティリティの終了方法

BIOS セットアップユーティリティの終了方法は、以下のとおりです。

- 1 [ F10 ] キーを押して、Exit メニュー画面を表示させます。  
[ F10 ] キーを押して、終了方法を選択します。
  - 設定を保存して終了する場合  
「Exit Saving Changes」にカーソルを合わせて [Enter] キーを押します。  
「Save configuration changes and exit now?」というメッセージが表示されます。
  - 設定を保存しないで終了する場合  
「Exit Discarding Changes」にカーソルを合わせて [Enter] キーを押します。  
「Discard configuration changes and exit now?」というメッセージが表示されます。
- 2 [ F1 ] キーで Yes か No にカーソルを合わせて [Enter] キーを押します。
  - 終了する場合は、「Yes」を選択します。  
BIOS セットアップユーティリティが終了し、本サーバが再起動します。
  - 終了しない場合は、「No」を選択します。  
BIOS セットアップユーティリティ画面に戻ります。

### 4.3.3 BIOS セットアップユーティリティでのキー操作

BIOS セットアップユーティリティの設定時に使用するキーの役割は、以下のとおりです。

キー	役割
【F1】キー	ヘルプを表示します。
【Esc】キー	サブメニューを終了し、前のメニューに戻ります。 または、本ユーティリティを終了します。
【+】キー、【-】キー	前画面に戻ります。
【Enter】キー	設定項目を選択します。▶が表示されている項目では、サブメニューを表示します。
【↑】キー、【↓】キー	設定する項目にカーソルを移動します。
【 】キー、【 】キー	メニューを切り替えます。
【F9】キー	各項目の設定値を初期値にします。
【F10】キー	設定した項目を保存し、BIOS セットアップユーティリティを終了します。

#### 4.3.4 メニューと項目一覧

BIOS セットアップユーティリティは、Main メニューを含め 6 個のメニューから構成されています。ここでは、メニューと設定項目を一覧で説明します。

##### Main メニュー

日付やドライブ、キーボードなどの設定を行います。

項目	説明
BIOS Release	BIOS のリリースが表示されます。
BIOS Version	BIOS のバージョンが表示されます。
System Time	システム時刻を設定します。
System Date	システム日付を設定します。
Legacy Diskette A	フロッピーディスクドライブ A のタイプ（記録密度とドライブサイズ）を設定します。
Legacy Diskette B	フロッピーディスクドライブ B のタイプ（記録密度とドライブサイズ）を設定します。
Primary Master	Primary Master サブメニューを表示して、IDE コネクタに取り付けたマスターのドライブ装置を設定します。
Primary Slave	Primary Slave サブメニューを表示して、IDE コネクタに取り付けたスレーブのドライブ装置を設定します。
Processor Information	Processor Information サブメニューを表示して、本サーバの CPU 実装状況を表示します。
Keyboard Features	Keyboard Features サブメニューを表示して、キーボードの機能を設定します。
Language	BIOS セットアップユーティリティ内に表示する言語を設定します。

## Advanced メニュー

周辺装置や PCI デバイスなどに関する内容などを設定します。

項目	説明
Processor Serial Number	プロセッサシリアル番号参照機能を有効にするかどうかを設定します。
Reset Configuration Data	本サーバ起動時に、システムコンフィグレーションデータを削除するかどうかを設定します。
Use Multiprocessor Specification	使用するマルチプロセッサ仕様のバージョンを設定します。
Large Disk Access Mode	IDE ドライブを使用する場合に、大容量ディスクアクセスモードを設定します。
Pause Before Boot	本サーバ起動時に、一時停止するかどうかを設定します。
Hot-plug PCI Master Control	PHP (PCI Hot Plug) 機能を有効にするかどうかを設定します。
Hot-plug PCI Allocation Level	PCI カードのリソース領域の確保量を設定します。
PCI Configuration	PCI Configuration サブメニューを表示して、PCI デバイスのコンフィグレーション情報を設定します。
I/O Device Configuration	I/O Device Configuration サブメニューを表示して、周辺装置のコンフィグレーション情報を設定します。
Advanced Chipset Control	Advanced Chipset Control サブメニューを表示して、メモリに関する詳細を設定します。
Timeout on POST Errors	POST (Power On Self Test) 時にエラーが発生した場合、POST 終了後にシステムをストップさせるかどうかを設定します。

## Security メニュー

本サーバを保護するためのセキュリティに関する内容を設定します。

項目	説明
User Password is	利用者用のパスワードが設定されているかどうかを表示します。
Administrator Password is	システム管理者用のパスワードが設定されているかどうかを表示します。
Set User Password	利用者用のパスワードを設定します。
Set Administrative Password	システム管理者用のパスワードを設定します。
Password on boot	本サーバ起動時に、パスワードの入力を求めるかどうかを設定します。
Secure Mode Timer	セキュリティモードを開始する前に、キーボードやマウスを無効にする要求を出すまでの時間を設定します。 セキュリティモードとは、特定の人だけが本サーバを操作できるようにするメニューです。
Secure Mode Hot Key	セキュリティモードを開始するキーを設定します。
Secure Mode Boot	本サーバをセキュリティモードで起動するかどうかを設定します。
Video Blanking	セキュリティモード時に、画面を表示するかどうかを設定します。
Floppy Write Protect	セキュリティモード時に、フロッピーディスクへの書き込みを禁止するかどうかを設定します。
Front Panel Lockout	本サーバ起動時に、パスワードを入力しないと、フロントパネルのスイッチ類が操作できなくなるように設定します。



## Server メニュー

システムマネジメントやコンソールリダイレクションに関する内容などを設定します。

項目	説明
System Management	System Management サブメニューを表示して、システムマネージメントの詳細を設定します。
Console Redirection	Console Redirection サブメニューを表示して、コンソールリダイレクションの詳細を設定します。
Processor Retest	本サーバ起動時に、CPU を再チェックするかどうかを設定します。
EMP Password Switch	EMP(Emergency Management Port) パスワードスイッチを使用するかどうかを設定します。
EMP ESC Sequence	EMP パスワードシーケンスを表示します。
EMP Hangup Line String	EMP の Hangup Line String を表示します。
Modem Init String	モデムの初期化文字列を表示します。
High modem Init String	モデムの初期化文字列が 16 文字を超えた場合に、16 文字以降の文字列を設定します。
EMP Access Mode	EMP アクセスモードを使用するかどうかを設定します。
EMP Restricted Mode Access	EMP 制限モードアクセスを使用するかどうかを設定します。
EMP Direct Connect / Modem Mode	接続形式を設定します。

## Boot メニュー

本サーバの起動に関する内容を設定します。

項目	説明
Floppy check	本サーバ起動時に、フロッピーディスクドライブのタイプをチェックするかどうかを設定します。
Boot Device Priority	起動デバイスの優先順位を設定します。
Hard Drive	ハードディスクの検索順位を設定します。
Removable Devices	リムーバブルデバイスの順位を設定します。
Maximum Number of I2O Drives	MS-DOS のドライブ文字に割り当てられている I2O ドライブの最大数を設定します。
Message Timeout Multiplier	メッセージタイムアウト乗数を設定します。
Pause During POST	IRTOS (I2O Real Time Operating System) を手動で始めるかどうかを設定します。

## Exit メニュー

本ユーティリティを終了するとき、または設定内容を処理するときに使用します。

項目	説明
Exit Saving Changes	現在の内容を CMOS に保存して、本ユーティリティを終了します。
Exit Discarding Changes	現在の内容を保存しないで、本ユーティリティを終了します。
Load Setup Defaults ( 使用禁止 )	本サーバの初期値を読み込んで表示します。
Load Custom Defaults	カスタム設定値 ( 工場出荷設定値 ) を読み込んで表示します。
Save Custom Defaults ( 使用禁止 )	現在の内容をカスタム設定値として保存します。
Discard Changes	CMOS に保存されている値を読み込んで表示します。
Save Changes	現在の内容を CMOS に保存します。

### 4.3.5 Main メニュー

ここでは、Main メニューについて説明します。

BIOS セットアップユーティリティを起動すると、最初にこのメニューが表示されます。

Main メニューでは、日時やドライブ、メモリの設定などを行います。

各メニューの詳細なマークは、次を意味します。マークを以下に示します。

: 項目名

: 項目のサブメニュー

- : 設定内容

PhoenixBIOS Setup Utility					
Main	Advanced	Security	Server	Boot	Exit
BIOS Release: RELEASE 1		Item Specific Help			
BIOS Version: MS8P0.86B.0001.P01		<Tab>, <Shift-Tab>, or			
System Time: [HH:MM:SS]		<Enter> selects field.			
System Date: [MM/DD/YYYY]					
Legacy Diskette A: [1.44/1.25 MB 3 $\frac{1}{2}$ "]					
Legacy Diskette B: [Disabled]					
▶ Primary Master [CD-ROM]					
▶ Primary Slave [None]					
▶ Processor Information					
▶ Keyboard Features					
Language: [English (US)]					
F1 Help	↑↓ Select Item	-/+ Change Values	F9 Setup Defaults		
Esc Exit	←→ Select Menu	Enter Select ▶ Sub-Menu	F10 Save and Exit		

BIOS Release:

BIOS のリリースが表示されます。

BIOS Version:

BIOS のバージョンが表示されます。

System Time

システム時刻を「時：分：秒」で設定します。時間は 24 時間形式で入力します。  
たとえば午後 6 時 30 分 00 秒は、「18」、「30」、「00」と入力します。



#### ポイント

- 正しい時間が表示されない場合は、再度設定してください。
- 精度の高いシステム時刻を要求される場合は、ネットワーク経由の時刻合わせの仕組み（NTP (Network Time Protocol) など）をシステム設計に取り入れてください。

System Date

システム日付を「月／日／西暦」で設定します。  
たとえば 2001 年 8 月 20 日は、「08」「20」「2001」と入力します。

#### Legacy Diskette A: ( 変更禁止 )

フロッピーディスクドライブ A のタイプ ( 記録密度とドライブサイズ ) を設定します。設定値は、以下のとおりです。

- Disabled  
フロッピーディスクドライブ A を使用しません。
- 360Kb 5 1/4"
- 1.2MB 5 1/4"
- 720KB 3 1/2"
- 1.44/1.25MB 3 1/2" ( 工場出荷設定値 )
- 2.88MB 3 1/2"

#### Legacy Diskette B: ( 変更禁止 )

フロッピーディスクドライブ B のタイプ ( 記録密度とドライブサイズ ) を設定します。設定値は、以下のとおりです。

- Disabled ( 工場出荷設定値 )  
フロッピーディスクドライブ B を使用しません。
- 360Kb 5 1/4"
- 1.2MB 5 1/4"
- 720KB 3 1/2"
- 1.44/1.25MB 3 1/2"
- 2.88MB 3 1/2"

#### Primary Master / Primary Slave ( 変更禁止 )

IDE コネクタに取り付けたマスタやスレーブのドライブ装置を設定します。カーソルを合わせて [Enter] キーを押すと、Primary Master サブメニューが表示されます。  
本サーバでは使用しません。

PhoenixBIOS Setup Utility	
Main	
Primary Master [CD-ROM]	Item Specific Help
Type: [AUTO]	
Multi-Sector Transfers: [Disabled]	
LBA Mode Control: [Disabled]	
32 Bit I/O: [Disabled]	
Transfer Mode: [Standard]	
Ultra DMA Mode: [Disabled]	

F1 Help   ↑↓ Select Item   -/+ Change Values   F9 Setup Defaults  
Esc Exit   ←→ Select Menu   Enter Select ▸ Sub-Menu   F10 Save and Exit

#### Type (変更禁止)

IDE ドライブのタイプを設定します。

- Auto (工場出荷設定値)  
本サーバが自動で設定します。
- None  
ドライブのタイプを無視します。
- CD-ROM  
CD-ROM を接続する場合に選択します。
- IDE Removable  
IDE 規格のドライブを接続する場合に選択します。
- ATAPI Removable  
ATAPI 規格のドライブを接続する場合に選択します。
- User  
ハードディスクの詳細を設定する場合に選択します。

#### Multi-sector Transfers (変更禁止)

「Type」が「Auto」または「None」以外の場合に、一括して転送するセクタ数を設定します。

- Disabled (工場出荷設定値)  
1 セクタずつ転送します。
- 2 Sectors  
2 セクタずつ転送します。
- 4 Sectors  
4 セクタずつ転送します。
- 8 Sectors  
8 セクタずつ転送します。
- 16 Sectors  
16 セクタずつ転送します。

#### LBA Mode Control (変更禁止)

「Type」が「Auto」または「None」以外の場合に、LBA (Logical Block Addressing : 論理的な通し番号によるアクセス) モード制御を使用するかどうかを設定します。

- Disabled (工場出荷設定値)  
使用しません。
- Enabled  
使用します。

#### 32 Bit I/O (変更禁止)

「Type」が「Auto」または「None」以外の場合に、32 ビット IDE データ転送を使用するかどうかを設定します。

- Disabled (工場出荷設定値)  
32 ビットデータ転送を使用しません。
- Enabled  
32 ビットデータ転送を使用します。

#### Transfer Mode (変更禁止)

「Type」が「Auto」または「None」以外の場合に、ドライブとホスト間のデータ転送モードを設定します。

- Standard (工場出荷設定値)  
PIO Mode 0 (最も基本的なデータ転送モード) に設定します。
- Fast PIO 1
- Fast PIO 2
- Fast PIO 3
- Fast PIO 4

#### Ultra DMA Mode (変更禁止)

「Type」が「Auto」または「None」以外の場合に、Ultra DMA モードを使用するかどうかを設定します。

- Disabled (工場出荷設定値)  
Ultra DMA モードを使用しません。
- Mode 0  
Ultra DMA モード 0 を使用します。
- Mode 1  
Ultra DMA モード 1 を使用します。
- Mode 2  
Ultra DMA モード 2 を使用します。

#### Processor Information

本サーバが搭載している CPU の情報を表示します。

なお、CPU が搭載されていない場合や、エラーによって使用不可能になった場合は、「Absent or Disabled」と表示されます。

カーソルを合わせて [Enter] キーを押すと、Processor Information サブメニューが表示されます。

xxxx Processor X CPU ID

本サーバに搭載されている CPU (xxxx は搭載位置 (Right または Left) X はスロット番号 (1 ~ 4)) の CPU ID が表示されます。

CPU が搭載されていないスロットは、「Absent or Disabled」と表示されます。

## xxxx Processor X Cache Size

本サーバに搭載されている CPU ( xxxx は搭載位置 ( Right または Left )、X はスロット番号 ( 1 ~ 4 ) ) の 2 次キャッシュ容量が表示されます。

## Keyboard Features

キーボードの各種設定を行います。  
カーソルを合わせて [Enter] キーを押すと、Keyboard Features サブメニューが表示されます。

PhoenixBIOS Setup Utility	
Main	
Keyboard Features	Item Specific Help
Numlock: [AUTO] Key Click: [Disabled] Keyboard auto-repeat rate: [30/sec] Keyboard auto-repeat delay: [1/2 sec]	Selects Power-on state for Numlock

F1 Help	↑↓ Select Item	-/+ Change Values	F9 Setup Defaults
Esc Exit	←→ Select Menu	Enter Select Sub-Menu	F10 Save and Exit

### Num lock

本サーバ起動時に、キーボードを Num Lock 状態 ( テンキーから、数字などを入力できる状態 ) にするかどうかを設定します。

- Auto ( 工場出荷設定値 )  
Num Lock 状態を自動で判断します。
- On  
Num Lock 状態にします。
- Off  
Num Lock 状態にしません。

### Key Click

キーボードを押したときに、音を出すか出さないかを設定します。

- Disabled ( 工場出荷設定値 )  
音を出しません。
- Enabled  
音を出します。

#### Keyboard auto-repeat rate

キーを押し続けたときの、1 秒間のキー入力回数を設定します。

- 30/sec (工場出荷設定値)
- 26.7 / 21.8 / 18.5 / 13.3 / 10 / 6 / 2 sec

#### Keyboard auto-repeat delay

キーを押してから、auto-repeat が有効になるまでの時間を設定します。

- 1/2sec (工場出荷設定値)
- 3/4 / 1 / 1/4 sec

#### Language (変更禁止)

BIOS セットアップユーティリティ内で表示する言語を設定します。  
本サーバでは、English(US) のみサポートしています。

- English(US) (工場出荷設定値)
- Francais
- Deutsch
- Italiano
- Espanol



### 4.3.6 Advanced メニュー

Advanced メニューでは、周辺装置、PCI デバイスに関する設定を行います。  
各メニューの詳細なマークは、次を意味します。マークを以下に示します。

- : 項目名
- : 項目のサブメニュー
- : 設定内容

PhoenixBIOS Setup Utility					
Main	Advanced	Security	Server	Boot	Exit
<b>Setup Warning</b> Setting items on this menu to incorrect values may cause your system to malfunction.		<b>Item Specific Help</b>			
Processor Serial Number: [Disabled]		Select 'Yes' if you are using a Plug & Play capable operating system.  Select 'No' if you need the BIOS to configure non-boot devices.			
Reset Configuration Data: [No]					
Use Multiprocessor Specification: [1.4]					
Large Disk Access Mode: [LBA]					
Pause Before Boot: [Disabled]					
Hot-plug PCI Master Control: [Disabled]					
Hot-plug PCI Allocation Level: [Minimum]					
Timeout ON POST Errors: [Disabled]					
▶ PCI Configuration					
▶ I/O Device Configuration					
▶ Advanced Chipset Control					
F1 Help    ↑↓ Select Item    -/+ Change Values    F9 Setup Defaults					
Esc Exit    ←→ Select Menu    Enter Select ▶ Sub-Menu    F10 Save and Exit					

#### Processor Serial Number

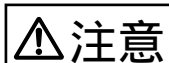
プロセッサシリアル番号参照機能を有効にするかどうかを設定します。  
当機能を有効にすると、ネットワーク経由で外部から本サーバ搭載のプロセッサシリアル番号を参照できるようになります。プロセッサシリアル番号を外部に通知する必要がない場合は、有効にしないでください。

- Disabled (工場出荷設定値)  
プロセッサシリアル番号参照機能を無効にします。
- Enabled  
プロセッサシリアル番号参照機能を有効にします。

## Reset Configuration Data

本サーバ再起動時に、システムコンフィグレーションデータを消去するかどうかを設定します。

オプションカードを追加しても、追加したカードが BIOS に認識されないなどのトラブルが発生した際に、本設定が有効になります。



「Yes」を指定するとシステム資源（I/O ポートアドレスや IRQ などの設定）が消去されます。「Yes」を指定する場合は、事前に BIOS 情報のバックアップを行ってください。詳細は、「4.7 BIOS 設定情報の退避 / 復元」（128 ページ）を参照してください。

- Yes  
システムコンフィグレーションデータを消去します。  
システムコンフィグレーションデータを消去したあとは、No に戻ります。
- No（工場出荷設定値）  
システムコンフィグレーションデータを消去しません。

## Use Multiprocessor Specification（変更禁止）

マルチプロセッサ仕様のバージョンを設定します。  
本サーバでは必ず「1.4」を設定してください。

- 1.4（工場出荷設定値）
- 1.1

## Large Disk Access Mode（変更禁止）

IDE 規格のハードディスクユニットを使用する場合に、大容量ディスクアクセスモードを設定します。

一般的に「LBA(Linerar Block Addressing)」を使用しますが、「CHS(Cylinder Head Sector)」を使用する OS もあります。

本サーバでは、IDE 規格のハードディスクユニットはサポートしていませんので、設定を変更しないでください。

- LBA（工場出荷設定値）
- CHS

## Pause Before Boot

電源投入後、OS を起動する前に 5 秒間停止するかどうかを設定します。

- Disabled（工場出荷設定値）  
本サーバの起動時に、5 秒間停止しません。
- Enabled  
本サーバの起動時に、5 秒間停止します。

#### Hot-plug PCI Master Control

PHP (PCI Hot Plug) 機能を有効にするかどうかを設定します。

- Disabled (工場出荷設定値)  
PHP 機能を無効にします。  
OS が PHP 未対応の場合に設定します。
- Enabled  
PHP 機能を有効にします。  
OS が PHP 対応の場合に設定します。

#### Hot-plug PCI Allocation Level

PCI カードのリソース領域の確保量を設定します。

- Disabled  
PCI カードのリソース領域を確保しません。
- Maximum  
PCI カードのリソース領域を最大量確保します。
- Minimum (工場出荷設定値)  
PCI カードのリソース領域を最小量だけ確保します。

#### Timeout on POST Errors

POST (Power On Self Test) 時にエラーが発生した場合、POST 終了後にシステムを停止させるかどうかを設定します。

- Disabled (工場出荷設定値)  
POST 時にエラーが発生した場合、POST 終了後にシステムを停止させます。
- Enabled  
POST 時にエラーが発生した場合、POST 終了後にシステムを 5 秒停止させたあと、再起動します。

## PCI Configuration

PCI デバイスの各種設定を行います。

カーソルを合わせて [Enter] キーを押すと、PCI Configuration サブメニューが表示されます。

PhoenixBIOS Setup Utility	
Advanced	
PCI Configuration	Item Specific Help
Processor Bus: 100MHz	Setup items for configuring the specific PCI device
PCI Slots 1-2: PCI 33 MHz	
PCI Slots 3-6: PCI 33 MHz	
PCI Slots 7-8: PCI 66 MHz	
PCI Slots 9-10: PCI 66 MHz	
PCI BUS Speed Default: [PCI 33MHz]	
▶ PCI Device, Embedded SCSI	
▶ PCI Device, Slot#1	
▶ PCI Device, Slot#2	
▶ PCI Device, Slot#3	
▶ PCI Device, Slot#4	
▶ PCI Device, Slot#5	
F1 Help    ↑↓ Select Item    -/+ Change Values    F9 Setup Defaults Esc Exit   ←→ Select Menu   Enter Select ▶ Sub-Menu   F10 Save and Exit	

### Processor Bus

プロセッサバスの周波数 (100MHz) が表示されます。

### PCI Slots 1-2 / PCI Slots 3-6

PCI スロット 1-6 の周波数 (33MHz) が表示されます。

### PCI Slots 7-8 / PCI Slots 9-10

PCI スロット 7-10 の周波数 (100MHz、66MHz または 33MHz) が表示されます。

### PCI Bus Speed Default

PCI スロット 7-10 にカードが存在しない時の周波数を設定します。  
カードが存在する時は、無視されます。

- PCI 33 MHz (工場出荷設定値)  
PCI スロット 7-10 の周波数を、33MHz に設定します。
- PCI 66 MHz  
PCI スロット 7-10 の周波数を、66MHz に設定します。
- PCI-X 66 MHz  
PCI スロット 7-10 の周波数を、66MHz に設定します。
- PCI-X 100 MHz  
PCI スロット 7-10 の周波数を、100MHz に設定します。

## PCI Device, Embedded SCSI

カード上の SCSI コントローラの各種設定を行います。

カーソルを合わせて [Enter] キーを押すと、PCI Device, Embedded SCSI サブメニューが表示されます。

PhoenixBIOS Setup Utility		
Advanced		
PCI Device, Embedded SCSI		Item Specific Help
Option ROM Scan:	[Enabled]	Initialize device expansion RDM
Enable Master:	[Enabled]	
Latency Timer:	[0080h]	
F1 Help    ↑↓ Select Item    -/+ Change Values    F9 Setup Defaults Esc Exit   ←→ Select Menu    Enter Select Sub-Menu    F10 Save and Exit		

### Option ROM Scan (変更禁止)

選択したデバイスの拡張 ROM を初期化するかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)  
デバイスの拡張 ROM を初期化します。
- Disabled  
デバイスの拡張 ROM を初期化しません。

### Enable Master (変更禁止)

選択したデバイスに、PCI バスマスタ方式を使用するかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)  
バスマスタ方式を設定します。
- Disabled  
バスマスタ方式を設定しません。

#### Latency Timer ( 変更禁止 )

PCI バスマスタ方式での、PCI バスクロック単位の最小保証時間を設定します。

- 0080h ( 工場出荷設定値 )
- Default
- 0020h
- 0040h
- 0060h
- 00A0h
- 00C0h
- 00E0h

#### PCI Device, Slot#1-Slot#10

カード上の SCSI コントローラ以外の各種設定を行います。  
カーソルを合わせて [Enter] キーを押すと、PCI Device サブメニューが表示されます。

PhoenixBIOS Setup Utility	
Advanced	
PCI Device, Slot #1	Item Specific Help
Option ROM Scan: [Enabled] Enable Master: [Enabled] Latency Timer: [0080h]	Initialize device expansion RoM

F1 Help    ↑↓ Select Item    -/+ Change Values    F9 Setup Defaults  
Esc Exit    ←→ Select Menu    Enter Select ▶ Sub-Menu    F10 Save and Exit

#### Option ROM Scan ( 変更禁止 )

カード上のSCSIコントローラ以外のすべてのデバイスの拡張ROMを、初期化するかどうかを設定します。

- Enabled ( 工場出荷設定値 )  
デバイスの拡張 ROM を初期化します。
- Disabled  
デバイスの拡張 ROM を初期化しません。

### Enable Master (変更禁止)

カード上の SCSI コントローラ以外のすべてのデバイスに、PCI バスマスタ方式を使用するかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)  
バスマスタ方式を使用します。
- Disabled  
バスマスタ方式を使用しません。

### Latency Timer (変更禁止)

PCI バスマスタ方式での、PCI バスクロック単位の最小保証時間を設定します。

- 0080h (工場出荷設定値)
- Default
- 0020h
- 0040h
- 0060h
- 00A0h
- 00C0h
- 00E0h

### I/O Device Configuration

各種 I/O デバイスの設定を行います。

カーソルを合わせて [Enter] キーを押すと、I/O Device Configuration サブメニューが表示されます。

PhoenixBIOS Setup Utility		
Advanced		
I/O Device Configuration		Item Specific Help
Serial port A:	[Enabled]	Configure serial port A using options:
Base I/O address:	[3F8]	
Interrupt:	[IRQ 4]	
Serial port B:	[Enabled]	[Disabled]
Base I/O address:	[2F8]	No configuration
Interrupt:	[IRQ 3]	[Enabled]
Parallel port:	[Enabled]	User configuration
Mode:	[Bi-directional]	[Auto]
Base I/O address:	[378]	BIOS or OS chooses configuration
Interrupt:	[IRQ 7]	(OS Controlled)
Floppy disk controller:	[Enabled]	Displayed when configuration by OS

F1 Help	↑↓ Select Item	-/+ Change Values	F9 Setup Defaults
Esc Exit	←→ Select Menu	Enter Select ▸ Sub-Menu	F10 Save and Exit

#### Serial port A

シリアルポート 1 の有効 / 無効を設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)  
シリアルポート 1 を有効にします。  
Base I/O address (I/O ポートアドレス) と Interrupt (IRQ : 割り込みチャネル) を設定してください。
- Auto  
本サーバが自動で I/O ポートアドレスと IRQ (割り込みチャネル) を設定します。
- Disabled  
シリアルポート 1 を無効にします。

#### Base I/O address

シリアルポート 1 の I/O ポートアドレスを設定します。

- 2E8
- 2F8
- 3E8
- 3F8 (工場出荷設定値)

#### Interrupt

シリアルポート 1 の IRQ (割り込みチャネル) を設定します。

- IRQ 3
- IRQ 4 (工場出荷設定値)

#### Serial port B

シリアルポート 2 の有効 / 無効を設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)  
シリアルポート 2 を有効にします。  
Base I/O address (I/O ポートアドレス) と Interrupt (IRQ : 割り込みチャネル) を設定してください。
- Auto  
本サーバが自動で I/O ポートアドレスと IRQ (割り込みチャネル) を設定します。
- Disabled  
シリアルポート 2 を無効にします。

#### Base I/O address

シリアルポート 2 の I/O ポートアドレスを設定します。

- 2E8
- 2F8 (工場出荷設定値)
- 3E8
- 3F8



#### Interrupt

シリアルポート 2 の IRQ (割り込みチャネル) を設定します。

- IRQ 3 (工場出荷設定値)
- IRQ 4

#### Parallel port

パラレルポートの有効 / 無効を設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)  
パラレルポートを有効にします。  
動作モード、I/O ベースアドレスおよび IRQ (割り込みチャネル) を設定してください。
- Auto  
本サーバが自動で動作モード、I/O ベースアドレスおよび IRQ (割り込みチャネル) を設定します。
- Disabled  
パラレルポートを無効にします。

#### Mode

パラレルポートの動作モードを設定します。

- Bi-directional (工場出荷設定値)  
双方向モードの周辺装置を接続します。
- EPP  
EPP 規格の周辺装置を接続します。
- ECP  
ECP 規格の周辺装置を接続します。
- Output only  
出力専用モードの周辺装置を接続します。

#### Base I/O address

パラレルポートの I/O ポートアドレスを設定します。

- 278
- 378 (工場出荷設定値)
- 3BC

#### Interrupt

パラレルポートの IRQ (割り込みチャネル) を設定します。

- IRQ 5
- IRQ 7 (工場出荷設定値)

## Floppy disk controller

フロッピーディスクコントローラを使用するかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)  
フロッピーディスクコントローラを使用します。
- Disabled  
フロッピーディスクコントローラを使用しません。
- Auto  
本サーバがフロッピーディスクコントローラの使用を自動で判断します。

## Advanced Chipset Control

チップセットに関する詳細を設定します。

カーソルを合わせて [Enter] キーを押すと、Advanced Chipset Control サブメニューが表示されます。

PhoenixBIOS Setup Utility		
Advanced		
Advanced Chipset Control		Item Specific Help
Extended RAM Step	[1MB]	For Address Permuting to be enabled, there must be a power of 2 number of rows, all rows must be the same size, and all populated rows must be adjacent and start at row 0. the 2-way or 4-way Permuting is set automatically based on memory configuration
L2 Cache	[Enabled]	
Multi-Boot Support	[Enabled]	
Override PHP Switches	[Disabled]	
2GB Memory Limit:	[Disabled]	
F1 Help    ↑↓ Select Item    -/+ Change Values    F9 Setup Defaults Esc Exit   ←→ Select Menu   Enter Select ▸ Sub-Menu   F10 Save and Exit		

## Extended RAM Step

POST 時に行われる拡張メモリチェックのステップ幅を設定します。

- 1MB (工場出荷設定値)  
1MB 単位に行います。
- 1KB  
1KB 単位に行います。
- Every location  
すべてのロケーションで行います。

### L2 Cache (変更禁止)

2 次キャッシュを使用するかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)  
2 次キャッシュを使用します。
- Disabled  
2 次キャッシュを使用しません。

### Multi-Boot Support

マルチブートをサポートするかどうかを設定します。

ただし、起動可能なデバイス(ハードディスク、フロッピーディスク、CD-ROM など)の総数が 8 個を超える場合は、必ず「Disabled」にしてください。

- Enabled (工場出荷設定値)  
設定を有効にします。
- Disabled  
設定を無効にします。

### Override PHP Switches

各 PCI スロットの電源を、独立してオン / オフできるようにするかどうかを設定します。

- Disabled (工場出荷設定値)  
各 PCI スロットの電源を、独立してオン / オフできます。  
ホットプラグ対応の拡張カード使用時は、必ず Disabled にしてください。
- Enabled  
各 PCI スロットの電源を、独立してオン / オフできません。

### 2GB Memory Limit

本サーバに搭載した 2GB 以上のメモリを認識させるかどうかを設定します。

- Disabled (工場出荷設定値)  
2GB 以上のメモリを認識します。
- Enabled  
2GB 以上のメモリは認識しません。

### 4.3.7 Security メニュー

Security メニューでは、セキュリティに関する設定を行います。

各メニューの詳細なマークは、次を意味します。マークを以下に示します。

- : 項目名
- : 項目のサブメニュー
- : 設定内容

PhoenixBIOS Setup Utility					
Main	Advanced	Security	Server	Boot	Exit
<div>User Password is: Clear Administrator Password is: Clear  Set User Password [Enter] Set Administrative Password [Enter]  Password on boot: [Disabled]  Secure Mode Timer: [Disabled] Secure Mode Hot Key: [ ] Secure Mode Boot: [Disabled] Video Blanking: [Disabled] Floppy Write Protect: [Disabled] Front Panel Lockout: [Disabled]</div>			<div>Item Specific Help</div> <div>User Password controls access to the system at boot.</div>		
F1 Help    ↑↓ Select Item    -/+ Change Values    F9 Setup Defaults Esc Exit   ←→ Select Menu   Enter Select ▸ Sub-Menu   F10 Save and Exit					

#### User Password is

一般利用者 (User) 用パスワードが設定されているかどうかが表示されます。  
設定されている場合は「set」、設定されていない場合は「clear」が表示されます。

#### Administrator Password is

システム管理者 (Administrator) 用パスワードが設定されているかどうかが表示されます。  
設定されている場合は「set」、設定されていない場合は「clear」が表示されます。

#### Set User Password

一般利用者用のパスワードを設定します。  
カーソルを合わせて [Enter] キーを押すと、Set User Password サブメニューが表示されます。

##### Enter New Password

パスワードを 7 桁以内の英数字で指定します。

##### Confirm New Password

「Enter New Password」で設定したパスワードと同じパスワードを指定します。

### Set Administrative Password

システム管理者用のパスワードを設定します。  
カーソルを合わせて [Enter] キーを押すと、Set User Password サブメニューが表示されます。

#### Enter New Password

パスワードを 7 桁以内の英数字で指定します。

#### Confirm New Password

「Enter New Password」で設定したパスワードと同じパスワードを指定します。

### Password on boot

本サーバ起動時に、パスワードの入力を求めるかどうかを設定します。

- Disabled (工場出荷設定値)  
パスワードの入力を求めません。
- Enabled  
パスワードの入力を求めます。

### Secure Mode Timer

セキュリティモードを開始する前に、キーボードやマウスを無効にする要求を出すまでの時間を設定します。

セキュリティモードとは、特定の人だけが本サーバを操作できるようにするメニューです。

セキュリティモードを設定するには、1 つ以上のパスワードが設定されている必要があります。

- Disabled (工場出荷設定値)  
設定しません。
- 1 / 2 / 5 / 10 / 20 min
- 1 / 2 hr

### Secure Mode Hot Key

セキュリティモードを開始するキーを設定します。

この機能を無効にするには、表示されているキーを [Backspace] キー、または [Delete] キーを押して削除し無効にします。

キーを設定するには、1 つ以上のパスワードが設定されている必要があります。

- A ~ Z, 0 ~ 9  
アプリケーションのキーと競合しないように設定してください。

### Secure Mode Boot

本サーバ起動時に、「User Password is」や「Administrator Password is」で設定したパスワードを入力しないと、OS の読み込みが開始されないように設定します。

- Disabled (工場出荷設定値)  
パスワードなしで、OS が読み込まれます。
- Enabled  
本サーバの電源投入時に、パスワードの入力が必要です。

### Video Blanking

本サーバ起動時に、「User Password is」や「Administrator Password is」で設定したパスワードを入力しないと、画面が表示されないように設定します。

- Disabled (工場出荷設定値)  
パスワードなしで、画面が表示されます。
- Enabled  
本サーバ起動時に、パスワードの入力が必要です。

### Floppy Write Protect

本サーバ起動時に、「User Password is」や「Administrator Password is」で設定したパスワードを入力しないと、フロッピーディスクへの書き込みができないように設定します。

- Disabled (工場出荷設定値)  
パスワードなしで、フロッピーディスクへの書き込みができます。
- Enabled  
本サーバ起動時に、パスワードの入力が必要です。

### Front Panel Lockout

本サーバ起動時に、「User Password is」や「Administrator Password is」で設定したパスワードを入力しないと、電源スイッチ、リセットスイッチおよび保守用スイッチが無効になるように設定します。

- Disabled (工場出荷設定値)  
パスワードなしで、フロントパネルが有効になります。
- Enabled  
本サーバ起動時に、パスワードの入力が必要です。

### 4.3.8 Server メニュー

Server メニューでは、サーバに関する設定を行います。

各メニューの詳細なマークは、次を意味します。マークを以下に示します。

- : 項目名
- : 項目のサブメニュー
- : 設定内容

PhoenixBIOS Setup Utility					
Main	Advanced	Security	Server	Boot	Exit
<div>▶ System Management</div> <div>▶ Console Redirection</div> <div>Processor Retest [No]</div> <div>EMP Password Switch [Disabled]</div> <div>EMP ESC Sequence [ ]</div> <div>EMP Hangup Line String [ ]</div> <div>Modem Init String [ ]</div> <div>High modem Init String [0 ]</div> <div>EMP Access Mode [Disabled]</div> <div>EMP Restricted Mode Access [Disabled]</div> <div>EMP Direct Connect/Modem Mode [Direct Connection]</div>				<div>Item Specific Help</div> <div>Additional setup menu to change the server management features.</div>	
F1 Help    ↑↓ Select Item    -/+ Change Values    F9 Setup Defaults Esc Exit   ←→ Select Menu   Enter Select ▶ Sub-Menu   F10 Save and Exit					

#### System Management

システムマネージメントの詳細を設定します。

カーソルを合わせて [Enter] キーを押すと、System Management サブメニューが表示されます。

PhoenixBIOS Setup Utility	
Server	
<div>System Management</div> <div>Firmware SMIs [Enabled]</div> <div>System Event Log [Enabled]</div> <div>Clear Event Log [Disabled]</div> <div>Memory Scrubbing [Enabled]</div> <div>AERR Enable [Enabled]</div> <div>Assert NMI on BERR [Enabled]</div> <div>Assert NMI on PERR [Enabled]</div> <div>Assert NMI on SERR [Enabled]</div> <div>Enable Host Bus Error [Enabled]</div> <div>FPC Error Check [Enable]</div> <div>HSC Error Check [Enable]</div> <div>▶ Server Management Info</div>	<div>Item Specific Help</div> <div>If disabled, all firmware WMI sources will be turned off.</div>
F1 Help    ↑↓ Select Item    -/+ Change Values    F9 Setup Defaults Esc Exit   ←→ Select Menu   Enter Select ▶ Sub-Menu   F10 Save and Exit	

#### Firmware SMIs (変更禁止)

ファームウェアによる SMIs イベント通知を行うかどうかを設定します。

- Disabled  
SMIs イベント通知を行いません。
- Enabled (工場出荷設定値)  
SMIs イベント通知を行います。

#### System Event Log (変更禁止)

システムイベントのログを記録するかどうかを設定します。

- Disabled  
システムイベントのログを残しません。
- Enabled (工場出荷設定値)  
システムイベントのログを残します。

#### Clear Event Log (変更禁止)

イベントログを消去するかどうかを設定します。

なお、イベントログを消去する場合は、SSU を使用してください。SSU については、「4.6 システムセットアップユーティリティ (SSU) を使う」(115 ページ) を参照してください。

- Disabled (工場出荷設定値)  
イベントログを消去しません。
- Enabled  
イベントログを消去します。

#### Memory Scrubbing (変更禁止)

BIOS がメモリエラーを検出し修復するかどうかを設定します。

- Disabled  
シングルビットメモリエラーの検出と修復を行いません。
- Enabled (工場出荷設定値)  
シングルビットメモリエラーの検出と修復を行います。

#### AERR Enable (変更禁止)

プロセッサホストバス上の AERR を有効にするかどうかを設定します。

- Disabled  
AERR を無効にします。
- Enabled (工場出荷設定値)  
AERR を有効にします。

#### Assert NMI on BERR (変更禁止)

BERR 発生時に NMI を生成するかどうかを設定します。

- Disabled  
NMI を生成しません。
- Enabled (工場出荷設定値)  
NMI を生成します。



#### Assert NMI on PERR

PERR 発生時に NMI を生成するかどうかを設定します。  
PCI パリティエラーをサポートしていない PCI カードを搭載する場合は、「Disabled」に設定してください。

- Disabled  
NMI を生成しません。
- Enabled (工場出荷設定値)  
NMI を生成します。

#### Assert NMI on SERR (変更禁止)

SERR 発生時に NMI を生成するかどうかを設定します。

- Disabled  
NMI を生成しません。
- Enabled (工場出荷設定値)  
NMI を生成します。

#### Enabled Host Bus Error (変更禁止)

ホストバスのシングルビットエラーおよびマルチビットエラーの検出を有効にするかどうかを設定します。

- Disabled  
無効にします。
- Enabled (工場出荷設定値)  
有効にします。

#### FPC Error Check (変更禁止)

電源、温度およびファンのエラーを検出するかどうかを設定します。

- Disabled  
電源、温度およびファンのエラーを検出しません。
- Enabled (工場出荷設定値)  
電源、温度およびファンのエラーを検出します。

#### HSC Error Check (変更禁止)

HSC (ホットスワップコントローラ) のエラーを検出するかどうかを設定します。

- Disabled  
HSC のエラーを検出しません。
- Enabled (工場出荷設定値)  
HSC のエラーを検出します。

### Server Management Info

カーソルを合わせて [Enter] キーを押すと、Server Management Info サブメニューが表示されます。

PhoenixBIOS Setup Utility	
Server	
Server Management Info	Item Specific Help
Board Port Number Board Serial Number System Part Number System Serial Number Chassis Part Number Chassis Serial Number  BMC Revision:        xxxxxxxx FPC Revision:        xxxxxxxx Hotswap Revision:   xxxxxxxx	All items on this menu cannot be modified in user mode. If any items require changes, please consult your system Administrator.
F1 Help    ↑↓ Select Item    -/+ Change Values    F9 Setup Defaults Esc Exit   ←→ Select Menu   Enter Select ▸ Sub-Menu   F10 Save and Exit	

Server Management Info サブメニューには、サーバマネジメント情報(システムのパート番号、シリアル番号、サーバマネジメントコントローラのレビジョンなど)が表示されます。  
ユーザモードでは、サブメニューが表示できません。

### Console Redirection ( 変更禁止 )

コンソールリダイレクションの詳細を設定します。  
カーソルを合わせて [Enter] キーを押すと、Console Redirection サブメニューが表示されます。

PhoenixBIOS Setup Utility	
Server	
Console Redirection	Item Specific Help
Com Port Address    [Disabled] IRQ #                None Baud Rate            [19.2K] Flow Control        [CTS/RTS + CD]	If enabled, it will use the port and IRQ. Make sure these values are identical to those of Serial Port A and B in the Peripheral Configuration setup menu.
F1 Help    ↑↓ Select Item    -/+ Change Values    F9 Setup Defaults Esc Exit   ←→ Select Menu   Enter Select ▸ Sub-Menu   F10 Save and Exit	

## Com Port Address (変更禁止)

コンソールリダイレクションに使用するシリアルポートアドレスを設定します。

- Disabled (工場出荷設定値)  
コンソールリダイレクションを使用しません。
- 3F8 / 2F8 / 3E8

## IRQ #

コンソールリダイレクションを使用している場合、選択したシリアルポートアドレスに割り当てられた IRQ が表示されます。

## Baud Rate (変更禁止)

コンソールリダイレクションを使用している場合、使用するボーレートを設定します。

EMP とシリアルポートをコンソールリダイレクションとして共有する場合は、EMP のボーレートと一致させるために「19.2K」を設定してください。

- 19.2K (工場出荷設定値)
- 38.4K / 115.2K / 9600

## Flow Control (変更禁止)

フロー制御を設定します。

- CTS/RTS+CD (工場出荷設定値)  
ハードウェアのフロー制御 (CTS/RTS) にモデム使用時のキャリア検出を行います。
- No Flow Control  
フロー制御は行いません。
- CTS/RTS  
ハードウェアのフロー制御 (CTS/RTS) を行います。
- XON/XOFF  
ソフトウェアのフロー制御 (XON/XOFF) を行います。

## Processor Retest

次の起動時に CPU のステータスを初期化して、すべての CPU を再チェックするかどうかを設定します。

CPU の取り付け、交換、または取り外した場合は、「Yes」を選択してください。

- No (工場出荷設定値)  
ステータスを初期化して、再チェックしません。
- Yes  
ステータスを初期化して、再チェックします。

#### EMP Password Switch (変更禁止)

EMP (Emergency Management Port) パスワードスイッチを使用するかどうかを設定します。

- Disabled (工場出荷設定値)  
EMP パスワードスイッチを使用しません。
- Enabled  
EMP パスワードスイッチを使用します。

#### EMP ESC Sequence (変更禁止)

EMP の ESC シーケンスが表示されます。

#### EMP Hangup Line String (変更禁止)

EMP の Hangup Line String が表示されます。

#### Modem Init String

モデムの初期化文字列が表示されます。

#### High modem Init String

モデムの初期化文字列が 16 文字を超えた場合に、16 文字以降の文字列を設定します。

#### EMP Access Mode (変更禁止)

EMP アクセスモードを使用するかどうかを設定します。

- Disabled (工場出荷設定値)  
EMP アクセスモードを使用しません。
- Enabled  
EMP アクセスモードを使用します。

#### EMP Restricted Mode Access (変更禁止)

EMP 制御モードアクセスを使用するかどうかを設定します。

- Disabled (工場出荷設定値)  
EMP 制御モードアクセスを使用しません。
- Enabled  
EMP 制御モードアクセスを使用します。

#### EMP Direct Connect/Modem Mode (変更禁止)

接続形式を設定します。

- Direct Connection (工場出荷設定値)  
直接接続します。
- Modem Mode  
モデムを使用します。

### 4.3.9 Boot メニュー

Boot メニューでは、本サーバの起動に関する設定を行います。

各メニューの詳細なマークは、次を意味します。マークを以下に示します。

- : 項目名
- : 項目のサブメニュー
- : 設定内容

PhoenixBIOS Setup Utility					
Main	Advanced	Security	Server	Boot	Exit
Floppy check: [Disabled]				Item Specific Help	
▶ Boot Device Priority				Enabled verifies	
▶ Hard Drive:				floppy type on boot,	
▶ Removable Devices				disabled speeds boot	
Maximum Number of I2O Drives: [1]					
Message Timeout Multiplier: [1]					
Pause During POST: [Disabled]					
F1 Help    ↑↓ Select Item    -/+ Change Values    F9 Setup Defaults					
Esc Exit    ←→ Select Menu    Enter Select ▶ Sub-Menu    F10 Save and Exit					

#### Floppy check ( 変更禁止 )

本サーバ起動時に、フロッピーディスクのタイプをチェックするかどうかを設定します。

- Disabled ( 工場出荷設定値 )  
フロッピーディスクのタイプをチェックしません。
- Enabled  
フロッピーディスクのタイプをチェックします。

## Boot Device Priority

起動デバイスの優先順位を設定します。  
カーソルを合わせて [Enter] キーを押すと、Boot Device Priority サブメニューが表示されます。

PhoenixBIOS Setup Utility	
Boot	
Boot Device Priority	Item Specific Help
1. [ATAPI CD-ROM Drive] 2. [Removable Devices] 3. [Hard Drive]	Use <↑> or <↓> to select a device, then press <+> to move it up the list, or <-> to move it down the list. Press <Esc> to exit this menu.
F1 Help    ↑↓ Select Item    -/+ Change Values    F9 Setup Defaults Esc Exit    ←→ Select Menu    Enter Select ▶ Sub-Menu    F10 Save and Exit	

優先順位を変更したいデバイスを選択し、[+] キーまたは [-] キーを押して優先順位を変更します。

## Hard Drive

ハードディスクの検索順位を設定します。  
搭載しているハードディスクが表示されている場合、「Bootable Add-in Card」を最優先にしてください。  
カーソルを合わせて [Enter] キーを押すと、Hard Drive サブメニューが表示されます。

PhoenixBIOS Setup Utility	
Boot	
Hard Drive	Item Specific Help
1. [Bootable Add-in Card]	Use <↑> or <↓> to select a device, then press <+> to move it up the list, or <-> to move it down the list. Press <Esc> to exit this menu.
F1 Help    ↑↓ Select Item    -/+ Change Values    F9 Setup Defaults Esc Exit    ←→ Select Menu    Enter Select ▶ Sub-Menu    F10 Save and Exit	

検索順位を変更したいハードディスクを選択し、[+] キーまたは [-] キーを押して検索順位を変更します。

本サーバは、このリストの最初のハードディスクから OS を起動します。

本サーバは、OSを検出するまで、リストの順位に従って検索を続けます。

## ⚠ 注意

### 検索順位の表示および設定時の注意

- Hard Drive サブメニューには、SCSI Select ユーティリティで「Include in BIOS Scan」を「yes」に設定したハードディスクだけ表示されます。
- SCSI アレイコントローラカード (PG-142B / PG-142C / PG-144B) に接続されたハードディスクユニットから起動する場合、[Bootable Add-In Card] を最優先に設定してください。
- SCSI カードに接続されたハードディスクユニットから起動する場合、その起動するハードディスクユニットを最優先に設定してください。
- 内蔵ハードディスクユニットをオンボード SCSI に接続した場合、初期設定時、ベイ 1    ベイ 2    ベイ 3    ベイ 4 の順で表示されます。
- 最大 8 台まで表示されます。

4

### Removable Devices

リムーバブルデバイスの順位を設定します。

カーソルを合わせて [Enter] キーを押すと、Removable Devices サブメニューが表示されます。

PhoenixBIOS Setup Utility	
Boot	
Removable Devices	Item Specific Help
1. [Legacy Floppy Drives]	

F1 Help    ↑↓ Select Item    -/+ Change Values    F9 Setup Defaults  
Esc Exit    ←→ Select Menu    Enter Select Sub-Menu    F10 Save and Exit

順位を変更したいデバイスを選択し、[+] キーまたは [-] キーを押して順位を変更します。

本サーバは、この順にデバイスにドライブ名を割り当てます。

セットアップ

#### Maximum Number of I2O Drives ( 変更禁止 )

MS-DOS のドライブ名に割り当てられる I2O(Intelligent I/O) ドライブの最大数を設定します。

- 1 ( 工場出荷設定値 )
- 4

#### Message Timeout Multiplier ( 変更禁止 )

メッセージタイムアウト乗数を設定します。  
すべてのタイムアウト値は、この数値を乗算して算出されます。

- 1 ( 工場出荷設定値 )
- 2 / 4 / 8 / 10 / 50 / 100 / 1000

#### Pause During POST ( 変更禁止 )

IRTOS(I2O Real Time Operating System) を手動で始めるかどうかを設定します。  
設定すると、ピープ音が 3 回鳴り POST が停止します。POST を続けるには、任意のキーを押します。

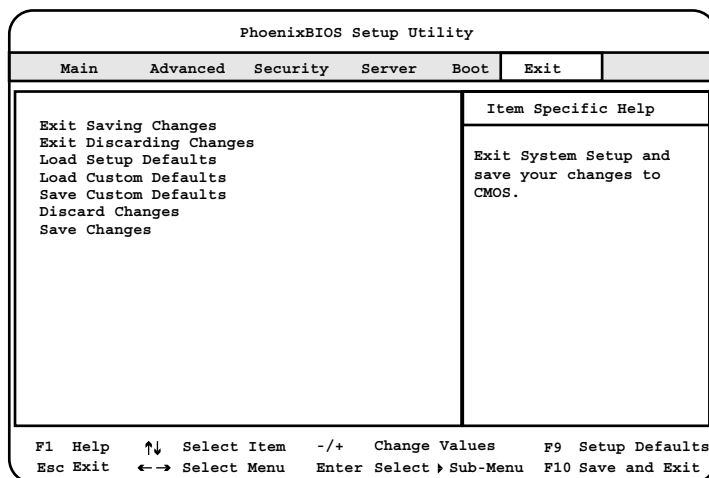
- Disabled ( 工場出荷設定値 )  
IRTOS を手動で始めません。
- Enabled  
IRTOS を手動で始めます。



### 4.3.10 Exit メニュー

Exit メニューでは、設定内容の保存や、標準値に戻すことを行います。  
各メニューの詳細なマークは、次を意味します。マークを以下に示します。

- : 項目名
- : 項目のサブメニュー
- : 設定内容



#### Exit Saving Changes

現在の設定を CMOS に保存して、BIOS セットアップユーティリティを終了します。同時にサーバが再起動します。

#### Exit Discarding Changes

現在の設定を保存しないで、BIOS セットアップユーティリティを終了します。前回保存した設定内容が有効となります。

#### Load Setup Defaults ( 使用禁止 )

本サーバの初期値を読み込んで表示します。

#### Load Custom Defaults

カスタム設定値を読み込んで表示します。  
本サーバでは、弊社の工場出荷設定値になります。  
なお、CMOS をクリアした場合は、カスタム設定値もクリアされます。  
この場合は「B.1.2 BIOS セットアップ項目」( 284 ページ ) を参照し、CMOS に保存してください。  
CMOS クリア後は、工場出荷設定値を保存してください。

#### Save Custom Defaults ( 使用禁止 )

現在の設定をカスタム設定値として保存します。  
カスタム設定値には工場出荷設定値が保存されているため、CMOS クリア後以外  
は使用禁止とします。

#### Discard Changes

CMOS に保存されている値を読み込んで表示します。

#### Save Changes

現在の内容を CMOS に保存します。

## 4.4 SCSI コンフィグレーションユーティリティを使う

SCSI コンフィグレーションユーティリティは、オンボード SCSI コントローラを使って以下を行う場合に使用します。

- 本サーバ購入時に設定値を確認する場合
- SCSI オプションの取り付け / 取り外しを行った時に、SCSI コントローラや SCSI オプションの設定の確認を行う場合
- SCSI オプションの物理フォーマット、または媒体検査を行う場合

SCSI Boot Device を設定する場合は、必ず BIOS セットアップユーティリティを使用してください。

バックアップキャビネット（オプション）を本サーバのバックアップキャビネットポートに接続し、オプション機器を接続した場合は、オンボード SCSI コントローラで制御されます。ただし、SCSI コンフィグレーションユーティリティの設定は、工場出荷時の設定のままご使用いただけますので、変更しないでください。

なお、本サーバにオプションの SCSI カードを搭載する場合は、SCSI Select ユーティリティを使用します。詳細は、「4.5 SCSI Select ユーティリティを使う」（114 ページ）を参照してください。

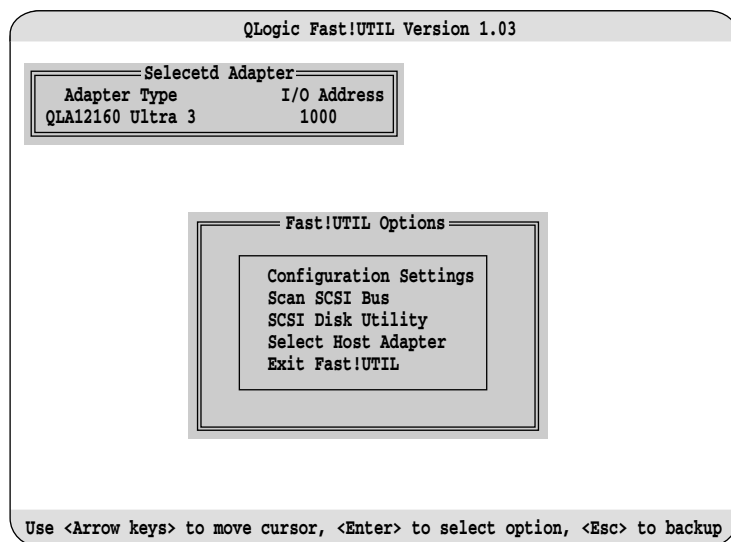
#### 4.4.1 SCSI コンフィグレーションユーティリティの操作方法

SCSI コンフィグレーションユーティリティの起動と終了の方法は以下のとおりです。

##### SCSI コンフィグレーションユーティリティの起動

SCSI コンフィグレーションユーティリティの起動方法は以下のとおりです。

- 1 サーバ起動時（POST 実行中）に、「Press <Alt-Q> for Fast!UTIL」と表示されている間に、[Alt]+[Q] キーを押します。  
「<Alt-Q> Detected, Initialization in progress, Please wait...」とメッセージが変わり、以下の Fast!UTIL Options メニューが表示されます。



##### SCSI コンフィグレーションユーティリティの操作方法

SCSI コンフィグレーションユーティリティの設定値を確認する方法は以下のとおりです。

- 1 [ ] [ ] キーを押して、設定を表示したい項目を選択します。  
[ ] [ ] キーを押すと、選択項目が上下に動き、設定値が表示されます。
- 2 サブメニューを表示する場合は [Enter] キーを押します。  
サブメニューがある項目はサブメニューが表示されます。

### 3 サブメニューでも、[Main] メニューと同様に操作します。

[ ] キーを押して確認したい項目を選択します。

さらに詳細設定のメニューがある場合は、[Enter] キーを押すとメニューが表示されます。メニューがない場合は、[Enter] キーを押すと設定値が変更されますが、選択肢が 3 つ以上ある場合は、[Enter] キーを押すと変更項目がリストアップされます。[ ] キーを押して項目を選択することができます。

### 4 確認が終わったら、[Esc] キーを押します。

変更した設定値を保存するかどうかのメッセージ画面が表示されます。

保存して Fast!UTIL Options メニューに戻るときは [Save changes] を、保存しないで Fast!UTIL Options メニューに戻るときは [Do not save changes] を、再度サブメニューに戻るときは [Esc] を選択します。

SCSI コンフィグレーションユーティリティを終了するとき、次の「SCSI コンフィグレーションユーティリティの終了」( 102 ページ) を参照してください。

## 各キーの役割

SCSI コンフィグレーションユーティリティで使用するキーの役割は、次のとおりです。

キー	役割
【↑】キー、【↓】キー	設定する項目にカーソルを移動します。
【Enter】キー	項目を選択します。サブメニューがある場合は、サブメニューを表示します。
【Esc】キー	前画面に戻ります。



#### ポイント

SCSI コンフィグレーションユーティリティの設定項目を変更する場合は、変更した設定項目をメモしておくか、変更した画面のページを印刷してください。

## SCSI コンフィグレーションユーティリティの終了

- 1 Fast!UTIL Options メニューで、[ ] キーを押して [Exit Fast!UTIL] を選択し、[Enter] キーを押します。
- 2 「Reboot System」を選択し、「Enter」キーを押します。  
再起動する旨の通知メッセージ「Rebooting system to change global settings... Press any key」と表示されるので、何かのキーを押します。  
SCSI コンフィグレーションユーティリティが終了し、本サーバが再起動されます。



### ポイント

オプション製品の SCSI カード、およびその SCSI バス上の SCSI 装置の設定を行う場合

オプション製品のユーティリティについては、各製品の取扱説明書を参照してください。SCSI ユーティリティでの設定は、各 SCSI バスに対して行ってください。

また、オプション製品のハードウェアの設定につきましては、各製品の取扱説明書を参照してください。

### 4.4.2 メニューと項目一覧

SCSI コンフィグレーションユーティリティを起動すると、メインメニューの Fast!UTIL Options メニューが表示されます。

Fast!UTIL Options メニューでは、SCSI バスをスキャンしたりサブメニューを選択して設定確認を行います。

#### Fast!UTIL Options メニュー

項目	説明
Configuration Settings	Configuration Settings サブメニューを表示して、SCSI コントローラや SCSI デバイスの設定を変更します。
Host Adapter Settings	Host Adapter Settings サブメニューを表示して、ホストアダプタの設定を行います。
SCSI Device Settings	SCSI Device Settings サブメニューを表示して、SCSI デバイスに関する設定を行います。
SCSI Bus Settings	SCSI Bus Settings サブメニューを表示して、SCSI バスの設定を行います。
Autoconfigure SCSI Devices	SCSI デバイススキャン後に SCSI デバイスの設定を行います。
Selectable Boot Settings	Selectable Boot Settings サブメニューを表示して、SCSI ブートデバイスの設定を行います。
Restore Default Adapter Settings	ホストアダプタの設定値を初期値に戻します。
Raw Nvram Data	NVRAM の 16 進データを表示します。
Scan SCSI Bus	SCSI バスをスキャンし、接続されているすべてのデバイスを表示します。
SCSI Disk Utility	SCSI バスのスキャン後、デバイスをリストアップします。
Select Host Adapter	SCSI バスのスキャン後にリストアップされるデバイスを選択し、ローレベルフォーマットやベリファイを行います。
Exit Fast!UTIL	SCSI コンフィグレーションユーティリティを終了します。

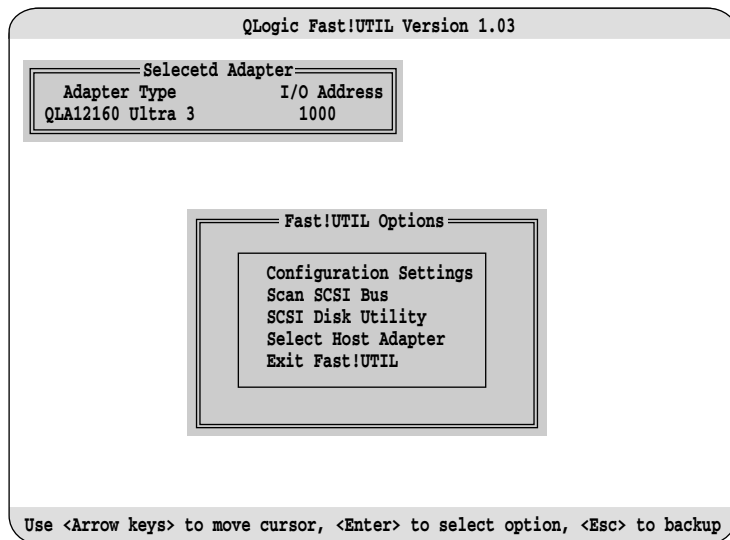
### 4.4.3 Fast!UTIL Options メニューの詳細

ここでは、Fast!UTIL Options メニューの詳細について説明します。

Fast!UTIL Options メニューは、SCSI コントローラ全体の設定を行います。

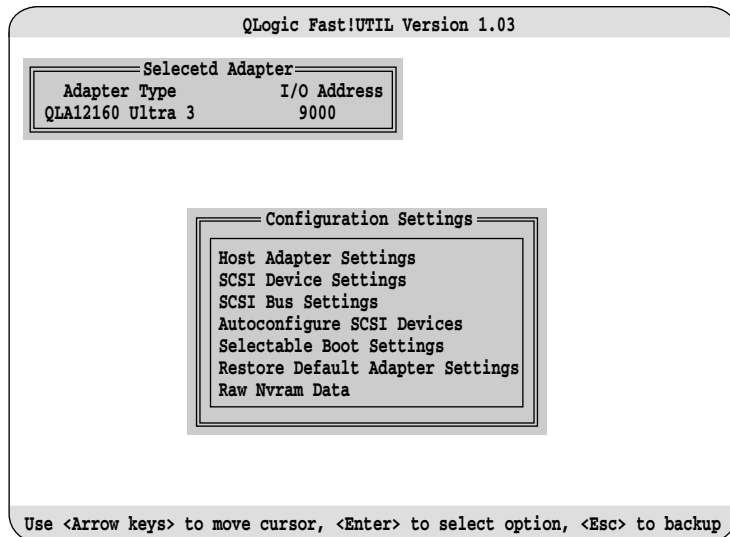
各メニューの詳細なマークは、次の意味です。

- : 項目名
- : 項目のサブメニュー
- : 設定内容



#### Configuration Settings サブメニュー

SCSI コントローラや SCSI デバイスの設定を変更します。





## Host Adapter Settings

ホストアダプタの設定を行います。

Host Adapter Settings	
BIOS Address:	CC000
BIOS Revision:	7.23
Interrupt Level:	10
Host Adapter BIOS:	Enabled
PCI Bus DMA Burst:	Enabled
CDROM Boot:	Disabled
Adapter Configuration:	Auto
Drivers Load RISC Code:	Enabled
>4GByte Addressing:	Disabled
Fast Command Posting:	Enabled

### BIOS Address

ホストアダプタの BIOS のメモリアドレスを表示します。

### BIOS Revision

ホストアダプタの BIOS のリビジョンを表示します。

### Interrupt Level

ホストアダプタの割り込みレベル（IRQ）を表示します。

### Host Adapter BIOS

ホストアダプタの BIOS を有効にするかどうかを設定します。

- Enabled（工場出荷設定値）  
有効にします。
- Disabled  
無効にします。

### PCI Bus DMA Burst

バースト転送を有効にするかどうかを設定します。

- Enabled（工場出荷設定値）  
有効にします。
- Disabled  
無効にします。

### CDROM Boot

CD-ROM からの起動を有効にするかどうかを設定します。

- Disabled（工場出荷設定値）  
無効にします。
- Enabled  
有効にします。



## ポイント

CD-ROMからの起動にはブート可能なOSの入ったCD-ROMが必要となります。

### Adapter Configuration

パラメータの設定方法を選択します。

- Auto (工場出荷設定値)  
ROM BIOS が自動的にパラメータを設定します。
- Manual  
手動で設定します。
- Safe  
すべてのパラメータが最小構成に設定されます。



## ポイント

「Safe」は、主に SCSI デバイスにトラブル発生した場合に使用するモードです。通常システム運用時には選択しないでください。

### Drivers Load RISC Code

RISC ファームウェアをどのようにロードするかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)  
ドライバからロードします。
- Disabled  
システムからロードします。

### >4GByte Addressing

アドレッシングの設定を行います。

- Disabled (工場出荷設定値)  
搭載しているメモリが4GB より少ない場合に選択します。
- Enabled  
4GB 以上メモリを搭載している場合に選択します。

### Fast Command Posting

割り込み数を最小限にすることでコマンド実行時間を減少させるかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)  
割り込み数を最小限にします。
- Disabled  
割り込み数を最小限にしません。

SCSI Device Settings

SCSI デバイスのパラメータを設定します。ホストアダプタの設定を行ったあとで設定してください。  
以下のパラメータは、「Host Adapter Settings」の「Adapter Configuration」が「Manual」に設定されている場合に変更することができます。

- Enable PPR
- Enable Device
- Negotiate Wide
- Negotiate Sync
- Tagged Queuing
- Sync Offset
- Sync Period
- Exec Throttle

SCSI バスを選択して [Enter] キーを押すと、以下のサブメニューが表示されます。

QLogic Fast!UTIL Version 1.03

Selecetd Adapter

Adapter TypeI/O Address

QLA12160 Ultra 39000

Adapter Configuration Mode

Auto

SCSI Bus 0 Device settings

SCSI ID:	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
Disconnects OK	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
Check Parity	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
Enable LUNs	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
EnablePPR	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
Enable Device	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
Negotiate Wide	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
Negotiate Sync	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
Tagged Queuing	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
Sync Offset	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
Sync Period	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
Exec Throttle	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16

Use <Tab key> to toggle between individual or group settings  
Use <Arrow keys> and <Enter> to change settings, <Esc> to exit

Disconnects OK

SCSIデバイスをホストアダプタから任意に切断できるようにするかどうかを設定します。

- Yes（工場出荷設定値）  
切断できるようにします。

- No  
切断できません。

#### Check Parity

SCSI のパリティチェックを有効にするかどうかを設定します。

- Yes (工場出荷設定値)  
有効にします。
- No  
無効にします。

#### Enable LUNs

複数の LUN (論理ユニット番号) をサポートするかどうかを設定します。

- Yes (工場出荷設定値)  
サポートします。
- No  
サポートしません。

#### Enable PPR

Parallel Protocol Request (PPR) transfer をサポートするかどうかを設定します。

- Yes (工場出荷設定値)  
サポートします。
- No  
サポートしません。

#### Enable Device

当該 ID に接続された SCSI デバイスを有効にするかどうかを設定します。

- Yes (工場出荷設定値)  
SCSI デバイスを有効にします。
- No  
SCSI デバイスを無視します。

#### Negotiate Wide

16 bit バス幅の Wide SCSI 転送を有効にするかどうかを設定します。

- Yes (工場出荷設定値)  
有効にします。
- No  
無効にします。

#### Negotiate Sync

同期転送を行うかどうかを設定します。

- Yes (工場出荷設定値)  
同期転送を行います。
- No  
非同期転送を行います。

### Tagged Queuing

タグ付きコマンドキューをサポートするかどうかを設定します。

- Yes (工場出荷設定値)  
サポートします。
- No  
サポートしません。

### Sync Offset

REQ の最大数を設定します。

- 00、02、04、06、08、10、12、14、16、18、20、22、  
24 (工場出荷設定値)

### Sync Period

REQ と ACK との最小転送間隔を設定します。

- Ultra3 9=160MB/s (工場出荷設定値)
- Ultra2 10=80MB/s
- Ultra 12=40MB/s
- Fast 25=20MB/s
- 40=12.5MB/s

### Exec Throttle

1 つのポートあたりの最大実行コマンド数を設定します。

- 1、4、8、16 (工場出荷設定値) 32、64、128、255

### SCSI Bus Settings

SCSI バスに関する設定を行います。

SCSI バスを選択して [Enter] キーを押すと、以下のサブメニューが表示されます。

SCSI Bus 0 Settings	
SCSI Bus SCSI ID:	7
SCSI Bus Reset:	Enabled
SCSI Bus Reset Delay:	5
SCSI Bus Termination:	Auto

### SCSI Bus SCSI ID

ホストアダプタの SCSI ID を設定します。通常は初期値の 7 を使用します。

- 0、1、2、3、4、5、6、7 (工場出荷設定値) 8、9、10、11、12、  
13、14、15

### SCSI Bus Reset

起動時、SCSI バスをリセットするかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)  
リセットします。
- Disabled  
リセットしません。

### SCSI Bus Reset Delay

SCSI バスのリセット後、SCSI バスを有効にするまでの時間 (秒) を設定します。

- 0、1、2、3、4、5 (工場出荷設定値) 6、7、8、9、10、11、12、13、14、15

### SCSI Bus Termination

SCSI バスのターミネーションを有効にするかどうかを設定します。

- Auto (工場出荷設定値)  
自動的にターミネーションの設定を行います。
- High only  
ハイターミネーションのみ有効にします。
- Disabled  
ターミネーションを無効にします。
- Enabled  
ターミネーションを有効にします。

### Autoconfigure SCSI Devices

接続されている SCSI デバイスの設定情報をスキャンしたあと、設定を行います。

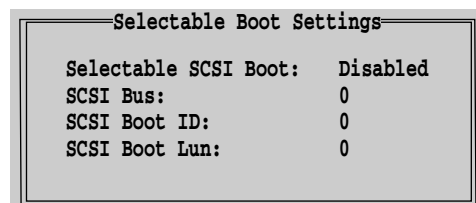
SCSI バスを選択して [Enter] キーを押すと、SCSI デバイスの現在の設定が読み込まれ、「SCSI Bus x Device Settings」サブメニューの画面に表示されます。

設定項目の詳細については、「SCSI Device Settings」( 107 ページ) を参照してください。

### Selectable Boot Settings

ブートする SCSI デバイスに関する設定を行います。

この項目にカーソルを合わせて [Enter] キーを押すと、サブメニューの画面が表示されます。



#### Selectable SCSI Boot

ブートする SCSI デバイスの設定を有効にするかどうかを設定します。

- No (工場出荷設定値)  
ブートする SCSI デバイスの設定を無効にします。
- Yes  
ブートする SCSI デバイスの設定を有効にします。

#### SCSI Bus

ブートする SCSI デバイスの SCSI バスを選択します。

- 0 (工場出荷設定値)
- 1

#### SCSI Boot ID

ブートする SCSI デバイスの SCSI ID を選択します。

- 0 (工場出荷設定値) 1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15

#### SCSI Boot Lun

「SCSI Boot ID」で選択した SCSI ID の LUN を選択します。

- 0 (工場出荷設定値) 1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15

#### Restore Default Adapter Settings

ホストアダプタに関する設定値を、初期値に戻して保存します。

「Adapter Defaults Restored」と表示され、何かキーを押すと、設定値が初期値に戻り、保存されます。

Raw Nvram Data

ホストアダプタの NVRAM ( Nonvolatile Random Memory ) の内容を 16 進表示します。

QLogic Fast!UTIL Version 1.03

Selecetd Adapter

Adapter Type

I/O Address

QLA12160 Ultra 3

9000

Raw Nvram Data 00 thru FF Hex

Byte Offset	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	0A	0B	0C	0D	0E	0F
00	49	53	50	20	01	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00
10	44	0F	00	00	01	00	00	00	27	05	00	00	3A	00	FA	00
20	00	01	00	00	00	00	00	00	FD	10	09	38	92	00	FD	10
30	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	88
40	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38
50	92	00	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00	FD	10
60	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00
70	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38
80	92	00	FD	10	09	38	92	00	27	05	00	00	3A	00	FA	00
90	00	01	00	00	00	00	00	00	FD	10	09	38	92	00	FD	18
A0	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00
B0	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38
C0	92	00	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00	FD	10
D0	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00
E0	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38
F0	92	00	FD	10	09	38	92	00	00	00	77	10	07	00	FA	00

<Esc> to exit

Scan SCSI Bus

SCSI バスをスキャンして、接続されているすべての SCSI デバイスを表示します。  
SCSI バスを選択して [Enter] キーを押すと以下が表示されます。

Scan SCSI Bus 0			
ID	Uendor	Product	Rev
0	No device present		
1	No device present		
2	No device present		
3	No device present		
4	No device present		
5	No device present		
6	No device present		
7	QLogic	SCSI Host Adapter	
8	No device present		
9	No device present		
10	No device present		
11	No device present		
12	No device present		
13	No device present		
14	No device present		
15	No device present		



## SCSI Disk Utility

SCSI デバイスに使用するユーティリティを設定します。  
SCSI バスを選択して [Enter] キーを押すと以下が表示されます。

Scan SCSI Bus 0			
ID	Vendor	Product	Rev
0	No device present		
1	No device present		
2	No device present		
3	No device present		
4	No device present		
5	No device present		
6	No device present		
7	QLogic	SCSI Host Adapter	
8	No device present		
9	No device present		
10	No device present		
11	No device present		
12	No device present		
13	No device present		
14	No device present		
15	No device present		

SCSI ID を選択して [Enter] キーを押すとローレベルフォーマットおよびベリファイが行われます。

- Low-level Format  
デバイスの物理フォーマットを行います。
- Verify Disk Media  
媒体の欠陥をチェックします。
- Select Different Disk  
SCSI Disk Utility の画面に戻ります。

## Select Host Adapter

ホストアダプタのリストが表示されます。

## Exit Fast!UTIL

SCSI コンフィグレーションユーティリティを終了します。

Exit Fast!UTIL		
<table border="1"> <tr> <td>Reboot System</td> </tr> <tr> <td>Return to Fast!UTIL</td> </tr> </table>	Reboot System	Return to Fast!UTIL
Reboot System		
Return to Fast!UTIL		

「Reboot System」を選択して [Enter] キーを押すと、SCSI コンフィグレーションユーティリティが終了します。

「Return to Fast!UTIL」を選択して [Enter] キーを押すと、Main メニューに戻ります。

## 4.5 SCSI Select ユーティリティを使う

---

SCSI Select ユーティリティは、オプションの SCSI カードを使うときのユーティリティです。

SCSI Select ユーティリティは、以下を行う場合に使用します。

- ホストアダプタや SCSI オプションの設定の変更や確認を行う場合
- SCSI オプションの物理フォーマット、または媒体検査を行う場合

設定方法については、各カードの取扱説明書を参照してください。

## 4.6 システムセットアップユーティリティ（SSU）を使う

システムセットアップユーティリティ（以下、SSU）は、I/O ポートアドレス、メモリアドレス、割り込み（IRQ）レベル、DMA チャネルなどのシステム資源のコンフィグレーション操作を拡張するプログラムです。

SSU による設定は、以下の場合に行います。

- PCI カードを追加するときに、IRQ などのシステム資源を確認 / 設定する場合（IRQ の共有を設定する場合は必須）
- サーバのコンフィグレーション情報を変更する場合
- OS を読み込むドライブを変更する場合
- システムイベントログ（以下、SEL）を表示したり、削除したりする場合
- POST 時にエラーが発生した場合（システムで競合が発生した場合）

なお、SSU で設定した値は、サーバ本体内の CMOS に記録、保存されます。

また、SSU と BIOS セットアップユーティリティでは、同じ項目を設定することができます。ただし、以下の項目は BIOS セットアップユーティリティで設定してください。

- Boot Devices
- Security

### 4.6.1 SSU の起動と終了

SSU の起動方法と終了の方法は、以下のとおりです。

#### 媒体の準備

SSU を実行する前に、以下のものを用意します。

- サーバ本体に添付のドライバーズ CD  
（OS が Windows 2000 Datacenter Server の場合）
- 本サーバに添付の ServerStart CD  
（OS が Windows 2000 Datacenter Server 以外の場合）
- 本サーバに添付の「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」  
（OS が Windows 2000 Datacenter Server 以外の場合）
- 本サーバに添付の「PRIMERGY N800 System Setup Utility」ディスク（3 枚）  
（OS が Windows 2000 Datacenter Server 以外の場合）

## SSU の起動

SSU の起動方法は以下のとおりです。

- 1 電源を投入し、ドライバース CD または「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をセットします。  
次の画面が表示されます。

- ドライバース CD の場合

### MS-DOS 6.2 Startup Menu

```
1.DEFAULT
2.Make maintenance partition (startup only)
3.Drivers Disk(Using diskette Utility)
4.System Setup Utility(SSU)
5.Basic(BIOS Environment Support Tools)
6.Basic(RAIDUTIL)
7.Basic(Japanese Environment)
8.HDD firmware update
9.Server Management Tool
```

- 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」の場合

### MS-DOS 6.2 Startup Menu

```
1.Server Management Tool
2.Basic(Bios Environment Support Tools)
3.Basic (RAIDUTIL)
4.Basic (Japanese Environment)
5.HDD firmware update
6.System Setup Utility(SSU) for N800
```



### ポイント

「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」は、ServerStart CD から作成しておく必要があります。  
作成方法の詳細については、「A.5.1 ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクの作成方法」( 276 ページ)を参照してください。

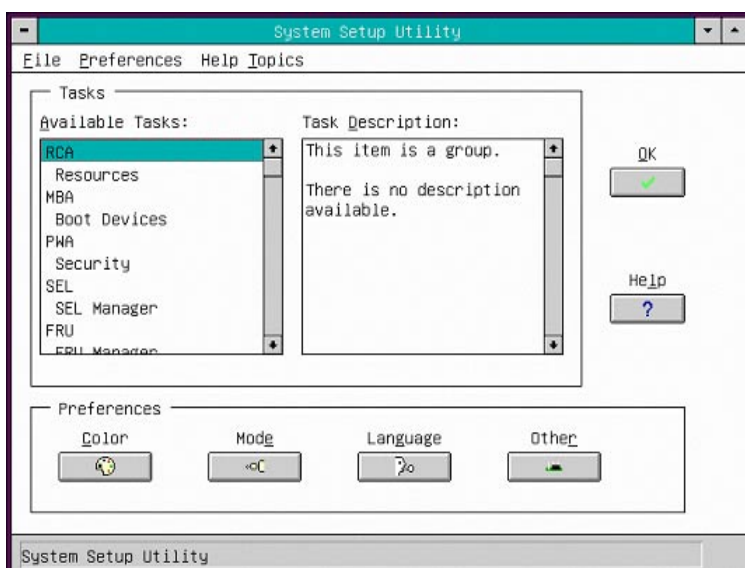
- 2 手順 1 でドライバース CD をセットした場合は、「System Setup Utility(SSU)」を選択し、[Enter] キーを押します。  
「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をセットした場合は、以下の手順を行います。

- 1 「System Setup Utility(SSU) for N800」を選択し、[Enter] キーを押します。  
DOS プロンプトが表示されるので、「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」を取り出します。
- 2 「PRIMERGY N800 System Setup Utility 1」をセットし、以下のコマンドを入力して [Enter] キーを押します。

```
A:\>install11 copy 1
```

このあとは画面の指示に従って、「PRIMERGY N800 System Setup Utility 2」、「PRIMERGY N800 System Setup Utility 3」に入れ替えます。

SSU Main ウィンドウが表示されます。



4

セットアップ



#### ポイント

- 「MS-DOS 6.2 Startup Menu」のメニューを再度表示する場合は、手順 1 から行ってください。

## SSU の終了

SSU の終了方法は以下のとおりです。

- 1 SSU Main ウィンドウで、[File] メニューの [Exit] をクリックします。  
SSU を終了するかどうかを問うメッセージが表示されます。
- 2 [OK] をクリックします。  
すべての画面が閉じ、SSU が終了します。

## 4.6.2 PCI カードの設定

PCI カードをお使いになる場合は、カードをスロットに差し込むだけで本サーバが自動的に認識しますが、次のような場合は、PCI カードに関する IRQ などのシステム資源の確認 / 設定が必要です (IRQ の共有を設定する場合は必須)。

- PCI カードが使用するシステム資源を変更する場合
  - POST でエラーメッセージが表示された場合 (システムで競合が発生した場合)
- PCI スロットと PCI スロットのアドレス値を以下に示します。

PCI スロット	PCI スロットのアドレス値
PCI スロット 1	PCI Card : Bus 00 Dev 04
PCI スロット 2	PCI Card : Bus 00 Dev 05
PCI スロット 3	PCI Card : Bus 01 Dev 04
PCI スロット 4	PCI Card : Bus 01 Dev 05
PCI スロット 5	PCI Card : Bus 01 Dev 06
PCI スロット 6	PCI Card : Bus 01 Dev 07
PCI スロット 7	PCI Card : Bus 02 Dev 04
PCI スロット 8	PCI Card : Bus 02 Dev 05
PCI スロット 9	PCI Card : Bus 03 Dev 04
PCI スロット 10	PCI Card : Bus 03 Dev 05

SCSI アレイコントローラカードを 1 枚搭載するごとに Bus No. は 1 増加します。また、標準 SCSI アレイコントローラカード / 暗号プロセッサカードの Dev No. は "04" および "09" になります。PHP controller は Dev No. 00 に "PCH hot plug controller / Unknown Function" と表示されます。

SSU での SCSI カードの識別は以下のようになります。

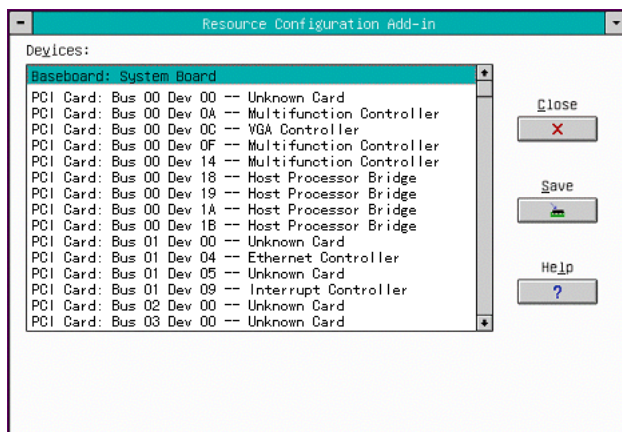
例：

- PCI スロット 4 に搭載した SCSI カードは、"Bus 01 Dev 05" になります。
- SCSI アレイコントローラカードを 1 枚搭載している場合は、PCI スロット 4 に搭載した SCSI カードは、"Bus 02 Dev 05" になります。

PCI カードの設定は、以下の手順で行います。

- 1 SSU Main ウィンドウの Tasks ボックス内の「RCA」の下に表示されている「Resources」をダブルクリックします。

Resource Configuration Add-in ウィンドウが表示され、システムが現在認識しているカードが表示されます。

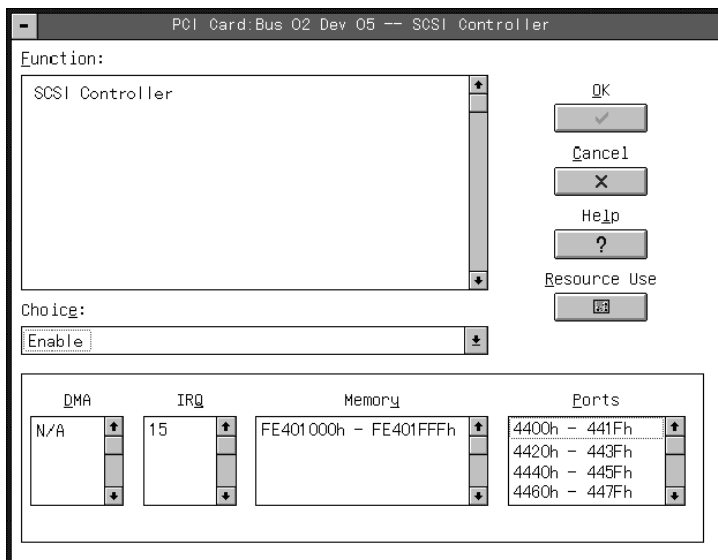


- 2 必要に応じてカードの設定を行います。  
詳細は、「システム資源の参照」( 120 ページ) および「システム資源の変更」( 121 ページ) を参照してください。
- 3 変更した内容を保存する場合は、[Save] をクリックします。
- 4 設定が終了したら、[Close] をクリックします。  
Resource Configuration Add-in ウィンドウが閉じ、SSU Main ウィンドウが表示されます。

## システム資源の参照

システム資源の参照は以下の手順で行います。

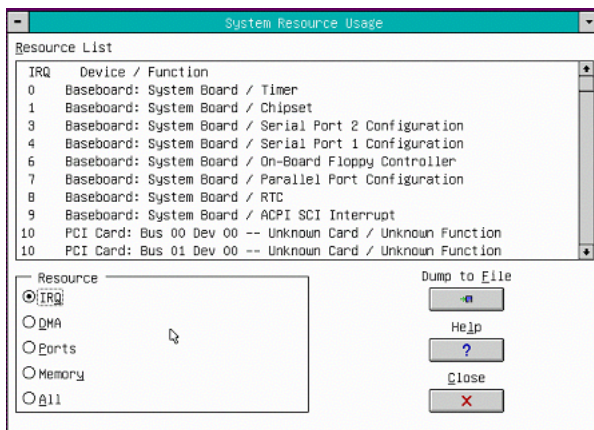
- 1 Device セクションで、参照したいデバイスをダブルクリックします。  
新しいウィンドウが表示され、選択したデバイスで利用できる機能と、デバイスに関連付けられたシステム資源が表示されます。



- 2 [Resource Use] をクリックします。

System Resource Usage ウィンドウが表示され、各デバイスが使用しているシステム資源が表示されます。システムで競合が発生した場合は、この情報を参照してください。

System Resource Usage ウィンドウの [Dump to File] をクリックすると、システム資源情報をテキストファイルに出力できます。



### ポイント

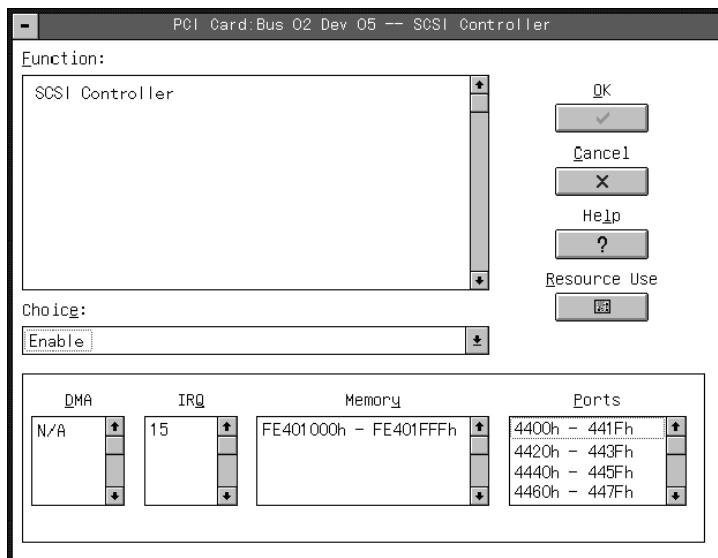
[Dump to File] で出力されるシステム資源情報は、常に保管してください。  
システムに異常が発生したときに参考になります。



## システム資源の変更

システム資源の変更は以下の手順で行います。

- 1 Device セクションで、変更したいデバイスをダブルクリックします。  
新しいウィンドウが表示され、選択したデバイスで利用できる機能と、デバイスに関連付けられたシステム資源が表示されます。



- 2 Function ボックス内で、変更したいシステム資源を選択します。  
選択したシステム資源に割り当てられている DMA、IRQ、メモリアドレス、I/O ポートアドレスが画面下部に表示されます。
- 3 システム資源の設定方法を変更する場合は、[Choice] から選択します。
- 4 DMA、IRQ、メモリアドレス、または I/O ポートアドレスを変更する場合は、変更したい値をダブルクリックします。  
対応した変更ウィンドウが表示されます。
- 5 値を変更し、[OK] をクリックします。
- 6 変更が終了したら、[OK] をクリックします。  
Resource Configuration Add-in ウィンドウに戻ります。

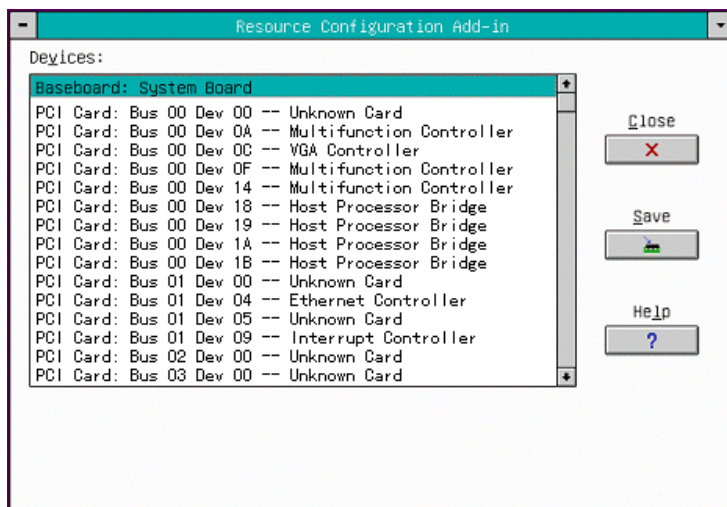
### 4.6.3 I/O ベースボードの設定

次のような場合は、I/O ベースボードに関する設定が必要です。

- POST でエラーメッセージが表示された場合（システムで競合が発生した場合）  
I/O ベースボードの設定は、以下の手順で行います。

- 1 SSU Main ウィンドウの Tasks ボックス内の「RCA」の下に表示されている「Resources」をダブルクリックします。

Resource Configuration Add-in ウィンドウが表示され、システムが現在認識しているカードが表示されます。



- 2 必要に応じて設定を行います

詳細は、以降の「システム資源の参照」( 123 ページ) および「システム資源の変更」( 124 ページ) を参照してください。

- 3 変更した内容を保存する場合は、[Save] をクリックします。

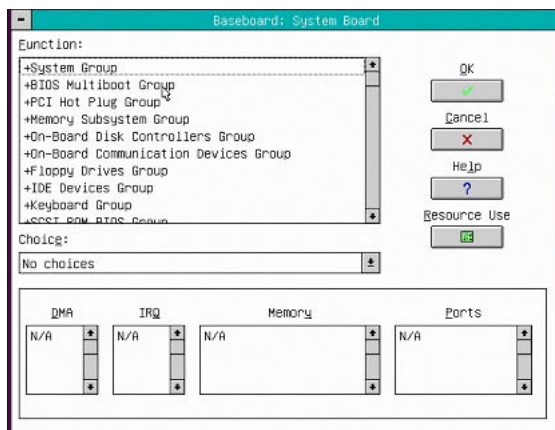
- 4 設定が終了したら、[Close] をクリックします。

Resource Configuration Add-in ウィンドウが閉じ、SSU Main ウィンドウが表示されます。

## システム資源の参照

システム資源の参照は以下の手順で行います。

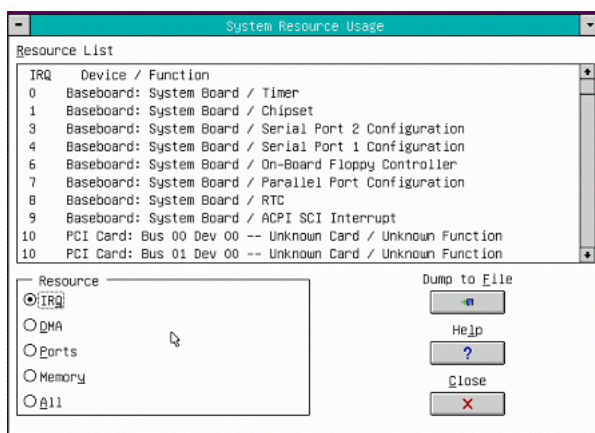
- 1 Device セクションで、参照したいデバイスをダブルクリックします。  
新しいウィンドウが表示され、選択したデバイスで利用できる機能と、デバイスに関連付けられたシステム資源が表示されます。



- 2 [Resource Use] をクリックします。

System Resource Usage ウィンドウが表示され、各デバイスが使用しているシステム資源が表示されます。システムで競合が発生した場合は、この情報を参照してください。

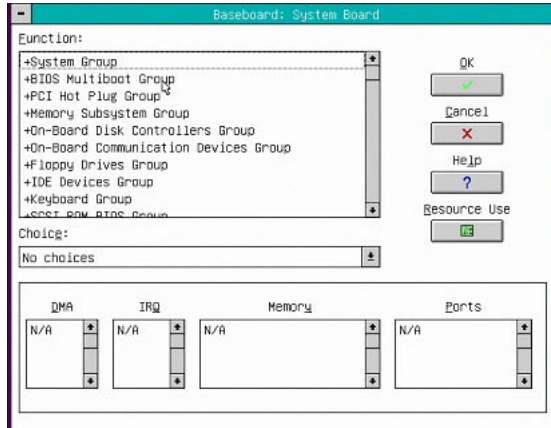
System Resource Usage ウィンドウの [Dump to File] をクリックすると、システム資源情報をテキストファイルに出力できます。



## システム資源の変更

システム資源の変更は以下の手順で行います。

- 1 Device セクションで、変更したいデバイスをダブルクリックします。  
新しいウィンドウが表示され、選択したデバイスで利用できる機能と、デバイスに関連付けられたシステム資源が表示されます。

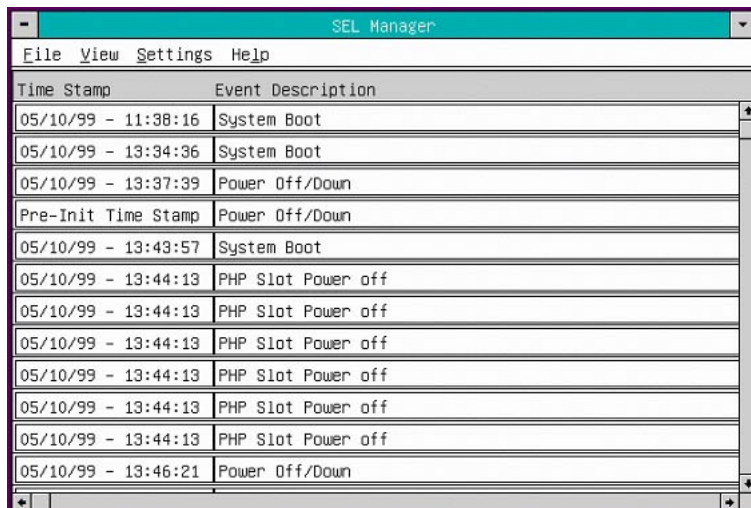


- 2 Function ボックス内で、変更したいシステム資源を選択します。  
選択したシステム資源に割り当てられている DMA、IRQ、メモリアドレス、I/O ポートアドレスが画面下部に表示されます。
- 3 システム資源の設定方法を変更する場合は、[Choice] から選択します。
- 4 DMA、IRQ、メモリアドレス、または I/O ポートアドレスを変更する場合は、変更したい値をダブルクリックします。  
対応した変更ウィンドウが表示されます。
- 5 値を変更し、[OK] をクリックします。
- 6 変更が終了したら、[OK] をクリックします。  
Resource Configuration Add-in ウィンドウに戻ります。

#### 4.6.4 システムイベントログ (SEL) の操作

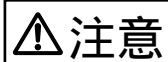
SSU では、BMC(Baseboard Management Controller) に保存されている SEL(System Event Log) データを扱えます。

SEL データは、SEL Manager ウィンドウで扱います。SEL Manager ウィンドウは、SSU Main ウィンドウの Tasks ボックス内の「SEL」の下に表示される「SEL Manager」をダブルクリックすると表示されます。



The screenshot shows the SEL Manager window with a menu bar (File, View, Settings, Help) and a table of events. The table has two columns: 'Time Stamp' and 'Event Description'. The events listed are:

Time Stamp	Event Description
05/10/99 - 11:38:16	System Boot
05/10/99 - 13:34:36	System Boot
05/10/99 - 13:37:39	Power Off/Down
Pre-Init Time Stamp	Power Off/Down
05/10/99 - 13:43:57	System Boot
05/10/99 - 13:44:13	PHP Slot Power off
05/10/99 - 13:44:13	PHP Slot Power off
05/10/99 - 13:44:13	PHP Slot Power off
05/10/99 - 13:44:13	PHP Slot Power off
05/10/99 - 13:44:13	PHP Slot Power off
05/10/99 - 13:44:13	PHP Slot Power off
05/10/99 - 13:46:21	Power Off/Down



SEL の情報がいっぱいになると、上書きされません。  
6ヶ月に1度、エラーが表示されていないか確認し、ログをクリアしてください。

SEL Viewer Add-in ウィンドウのメニューを利用して、次のことができます。

メニュー	オプション	内容
File	Load SEL	以前保存した SEL ファイルのデータを表示します。
	Save SEL	現在表示されている SEL データを、ファイルに保存します。
	Save As	現在表示されている SEL データを、別名でファイルに保存します。
	Clear SEL	SEL データを BMC から消去します。
	Exit	SEL Viewer Add-in ウィンドウを閉じます。
View	SEL Info	SEL に関する情報を表示します。
	All Events	現在の BMC の SEL データを表示します。
	By Sensor	<p>ポップアップメニューを表示して、センサ型のデータのみを表示します。ポップアップメニューには、以下の項目が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Critical Interrupt</li> <li>Current</li> <li>Drive Slot</li> <li>Event Log Disabled</li> <li>Fan</li> <li>Memory</li> <li>MicroController / CoP</li> <li>Physical Security</li> <li>POST Error</li> <li>POST Memory Resize</li> <li>Power Supply</li> <li>Power Unit</li> <li>Processor</li> <li>Secure Mode Violation</li> <li>System Event</li> <li>Temperature</li> <li>Voltage</li> <li>Watchdog</li> <li>Other Sensors -- Add in Card <ul style="list-style-type: none"> <li>Button</li> <li>Chassis</li> <li>Chipset</li> <li>Cooling Device</li> <li>Module / Board</li> <li>OEM Reserved</li> <li>Other FRU</li> <li>Other Units - based</li> <li>Reserved</li> </ul> </li> </ul>

メニュー	オプション	内容
View	By Event	ポップアップメニューを表示して、イベント型のデータのみを表示します。ポップアップには、以下の項目が表示されます。 Digital Discrete OEM Std Sencor Threshold Unspecified
Settings	Display HEX / Verbose	HEX モードと解釈モードを切り替えて、SEL データを表示します。
	Output Binary / Text	SEL データをテキストで保存するかバイナリで保存するかを決定します。
Help	About	SEL Viewer のバージョン情報を表示します。

## 4.7 BIOS 設定情報の退避 / 復元

本サーバには、BIOS セットアップユーティリティによって設定された情報の退避、復元処理を行う BIOS Environment Support Tools が添付されています。

BIOS Environment Support Tools を利用すると、本サーバの内蔵バッテリーの消耗などによって消去された設定情報を元の状態に復元することができます。

BIOS Environment Support Tools は、本サーバに添付の「BIOS Environment Support Tools」ディスクに含まれています。



### ポイント

本サーバに添付の「BIOS Environment Support Tools」ディスクには BIOS セットアップおよび SSU の設定情報を出荷構成ごとに格納してあります。BIOS Environment Support Tools を使用して、設定情報と工場出荷時の設定に復元することができます。



### 注意

次のどれかの操作を行った場合、必ず BIOS 情報の退避を行ってください。

- 本サーバを初めて使用する場合
- BIOS セットアップユーティリティによって情報変更を行った場合
- 本サーバのハードウェア構成を変更した場合  
具体的には、CPU、メモリ、マザーボードあるいは PCI カードの増減・変更があった場合です。

ここでは、BIOS Environment Support Tools を使用するための準備、退避手順、復元手順および注意事項について説明します。

### BIOS Environment Support Tools を使用するための準備

BIOS Environment Support Tools を使用するためには、以下のものを用意してください。

- 本サーバに添付のドライバズ CD ( OS が Windows 2000 Datacenter Server の場合 )
- 本サーバに添付の ServerStart CD ( OS が Windows 2000 Datacenter Server 以外の場合 )
- 本サーバに添付の「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」( OS が Windows 2000 Datacenter Server 以外の場合 )
- 本サーバに添付の「BIOS Environment Support Tools」ディスク



### ポイント

「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」は、ServerStart CD から作成しておく必要があります。

作成方法の詳細については、「A.5.1 ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクの作成方法」( 276 ページ )を参照してください。



## BIOS Environment Support Tools による BIOS 情報の退避

BIOS 情報の退避手順を以下に示します。

### ⚠ 注意

- BIOS 情報の退避を行った場合、「BIOS Environment Support Tools」ディスクに格納されている設定情報は上書きされるため、必ずバックアップを実施してください。
- ドライバーズ CD やハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクを入れてシステムを起動する前に、ServerView の「OS ブート監視」機能が無効に設定されていることを確認してください（初期設定は無効です）。「OS ブート監視」機能を有効にしたままでシステムを起動すると、本サーバが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。「OS ブート監視」機能を有効にして運用している場合は、運用を再開する前に、再度本機能を有効にしてください。ServerView の詳細については、ServerView の CD-ROM 内の「ServerView ユーザーズガイド」を参照してください。

- 1 電源を投入し、ドライバーズ CD または「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をセットします。  
次の画面が表示されます。

- ドライバーズ CD の場合

#### MS-DOS 6.2 Startup Menu

- 1.DEFAULT
- 2.Make maintenance partition (startup only)
- 3.Drivers Disk(Using diskette Utility)
- 4.System Setup Utility(SSU)
- 5.Basic(BIOS Environment Support Tools)
- 6.Basic(RAIDUTIL)
- 7.Basic(Japanese Environment)
- 8.HDD firmware update
- 9.Server Management Tool

- 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」の場合

#### MS-DOS 6.2 Startup Menu

- 1.Server Management Tool
- 2.Basic(Bios Environment Support Tools)
- 3.Basic (RAIDUTIL)
- 4.Basic (Japanese Environment)
- 5.HDD firmware update
- 6.System Setup Utility(SSU) for N800



## ポイント

「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」は、ServerStart CD から作成しておく必要があります。  
作成方法の詳細については、「A.5.1 ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクの作成方法」( 276 ページ)を参照してください。

- 2 「Basic(BIOS Environment Support Tools)」を選択し、[Enter] キーを押します。  
DOS プロンプトが表示されます。フロッピーディスクがセットされている場合は、取り出します。
- 3 「BIOS Environment Support Tools」ディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。  
セットしたら、以下のコマンドを入力し、BIOS 情報の退避を行います。

```
A:\>b: [Enter]  
B:\>rconf [Enter]
```

- 4 既に退避処理を行ったことがある場合は、以下のメッセージが表示されます。  
退避されている情報を更新してもよければ [Y] キーを押してください。ステップ 5 に進みます。更新したくない場合は、[N] キーを押してください。この場合、BIOS 情報の退避処理は実行されずにプログラムは終了します。

```
Do you want to overwrite it ?[y/n]
```

- 5 正常に BIOS 情報を退避できた場合、以下のメッセージが表示されます。  
以上で、退避処理は完了ですので、電源切断を行っても構いません。

```
Wait a moment. Don't turn off the system !!  
SUCCESS
```

## BIOS Environment Support Tools による BIOS 情報の復元

本サーバの内蔵バッテリーの消耗などによって、BIOS セットアップユーティリティや SSU で設定した情報が消去された場合、以下の手順で BIOS 情報の復元処理を行ってください。

### ⚠ 注意

- プログラム実行中は電源を切断しないでください。
- BIOS のバージョン（版数）が異なる場合は、BIOS 情報を復元できません。
- ドライバース CD やハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクを入れてシステムを起動する前に、ServerView の「OS ブート監視」機能が無効に設定されていることを確認してください（初期設定は無効です）。「OS ブート監視」機能を有効にしたままでシステムを起動すると、本サーバが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。「OS ブート監視」機能を有効にして運用している場合は、運用を再開する前に、再度本機能を有効にしてください。ServerView の詳細については、ServerView の CD-ROM 内の「ServerView ユーザーズガイド」を参照してください。

- 1 電源を投入し、ドライバース CD または「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をセットします。

次の画面が表示されます。

- ドライバース CD の場合

#### MS-DOS 6.2 Startup Menu

- 1.DEFAULT
- 2.Make maintenance partition (startup only)
- 3.Drivers Disk(Using diskette Utility)
- 4.System Setup Utility(SSU)
- 5.Basic(BIOS Environment Support Tools)
- 6.Basic(RAIDUTIL)
- 7.Basic(Japanese Environment)
- 8.HDD firmware update
- 9.Server Management Tool

- 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」の場合

#### MS-DOS 6.2 Startup Menu

- 1.Server Management Tool
- 2.Basic(Bios Environment Support Tools)
- 3.Basic (RAIDUTIL)
- 4.Basic (Japanese Environment)
- 5.HDD firmware update
- 6.System Setup Utility(SSU) for N800



## ポイント

「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」は、ServerStart CD から作成しておく必要があります。作成方法の詳細については、「A.5.1 ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクの作成方法」( 276 ページ)を参照してください。

- 2 「Basic(BIOS Environment Support Tools)」を選択し、[Enter] キーを押します。  
DOS プロンプトが表示されます。フロッピーディスクがセットされている場合は、取り出します。
- 3 「Bios Environment Support Tools」ディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。  
セットしたら、以下のコマンドを入力し、BIOS 情報の復元を行います。

```
A:\>b: [Enter]
B:\>wconf [Enter]
```

- 4 正常に BIOS 情報を復元できた場合、以下のメッセージが表示されます。

```
Wait a moment. Don't turn off the system !!
SUCCESS
Please re-boot the system to validate the configuration.
```

- 5 BIOS の情報が有効になるのは次回のシステム再起動後になりますので、速やかにサーバを再起動してください。  
DOS プロンプト (B:\>) が表示されましたら復元処理は完了ですので、電源切断を行っても構いません。

## 注意事項

- BIOS Environment Support Tools は、本サーバ専用です。他システムでは絶対に使用しないでください。使用した場合、システムを破壊する可能性があります。
- BIOS Environment Support Tools は、BIOS セットアップユーティリティによって設定される 情報だけを退避 / 復元できます。内蔵 SCSI 装置や増設カードの BIOS 情報については退避復元できません。
- BIOS Environment Support Tools は、上記方法でサーバを起動した状態で実行してください。他のフロッピーディスクやハードディスクから起動された状態で BIOS Environment Support Tools を実行しないでください。実行した場合、システムを破壊する可能性があります。
- フロッピーディスクアクセス表示ランプの点灯中に、フロッピーディスクを取り出さないように注意してください。取り出した場合、フロッピーディスクのデータ破壊だけでなくシステムの状態が不安定となる可能性があります。絶対に行わないでください。

- BIOS Environment Support Tools を実行中に次に示すエラーメッセージが表示される可能性があります。表に示す対処に従ってください。なお、次に示すメッセージ以外が表示された場合は担当営業員または担当保守員に連絡してください。

メッセージ	対処
Write protect error writing drive A. Abort, Retry, Fail?	セットされたフロッピーディスクがライトプロテクト状態です。ライトプロテクト状態を解除した後、[R] キーを押してください。
Not ready writing drive A. Abort, Retry, Fail?	フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクがセットされていない状態です。 正しいフロッピーディスク (「BIOS Environment Support Tools」ディスク) をセットした後、[R] キーを押してください。
ERROR:This program doesn't run on this system.	セットされたフロッピーディスクがサポートしていないモデルです。正しいフロッピーディスクをセットしてから再度実行してください。
ERROR:Fail to create data file.	以下の原因が考えられます。フロッピーディスクの状態を再確認してください。 - フロッピーディスクがライトプロテクト状態です。ライトプロテクトを解除してから再度実行してください。 - フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにセットされていません。正しいフロッピーディスクをセットしてから再度実行してください。 - フロッピーディスクの内容が異常です。再度、BIOS 情報を退避してください。BIOS 情報の復元中に発生した場合は、BIOS セットアップユーティリティにて情報を設定してください。その後、BIOS 情報の退避処理も行ってください。
ERROR:Fail to write 1st CMOS data into data file. XX	
ERROR:Fail to write 2nd CMOS data into data file. XX	
ERROR:Fail to write ESCD data into the data file. XX	
ERROR:Fail to write SEEPROM data into the data file. XX	
ERROR:Fail to open data file.	セットされたフロッピーディスク内に BIOS 情報を復元するためのファイルが存在しません。BIOS 情報を退避したフロッピーディスクをセットしてから再度実行してください。

メッセージ	対処
ERROR:Fail to write 1st CMOS data into sysytem. XX	<p>以下の原因が考えられます。フロッピーディスクの状態を再確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにセットされていません。正しいフロッピーディスクをセットしてから再度実行してください。</li> <li>- 他のモデルまたはサポートしていない版数の BIOS 情報です。正しいフロッピーディスクをセットしてから再度実行してください。</li> <li>- フロッピーディスクの内容が異常です。再度、BIOS 情報を退避してください。BIOS 情報の復元中に発生した場合は、BIOS セットアップユーティリティにて情報を設定してください。その後、BIOS 情報の退避処理も行ってください。</li> </ul>
ERROR:Fail to write 2nd CMOS data into sysytem file. XX	
ERROR:Fail to write ESCD data into system file. XX	
ERROR:Fail to write SEEPROM data into sys-tem. XX	
その他のメッセージ	担当営業員または担当保守員にご連絡ください。